無産階級戦闘雑誌

進め

第六年十一月號 第十一號

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

お買物は三越へ

品質が良く、新流行品揃ひにて、價もまた低廉です

三越はデパートメント、ストーアですから、日常生活に御必要なお品は大抵揃へてあります、

何と申しましても、良い品は東京に限ります、東京でも三越の品ならば、お安心してお買物が出來ます、

三越

東京駿河町

地方からのお註文はお手紙にて通信販賣部へ御一報下さいますれば迅速にお送り致します

洋服と帽子

洋服は……
スタイルは既に定評が御座います。清新なる英國生地のストックと共に冬の流行に率先して居ります。

帽子は……
總ゆる世界的著名品を網羅致して居ります。型に、色合に、今年の品は實に落着いてスマートな感じが致します。

松屋呉服店

東京・銀座

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

進め

第六年　第十一號

十一月號

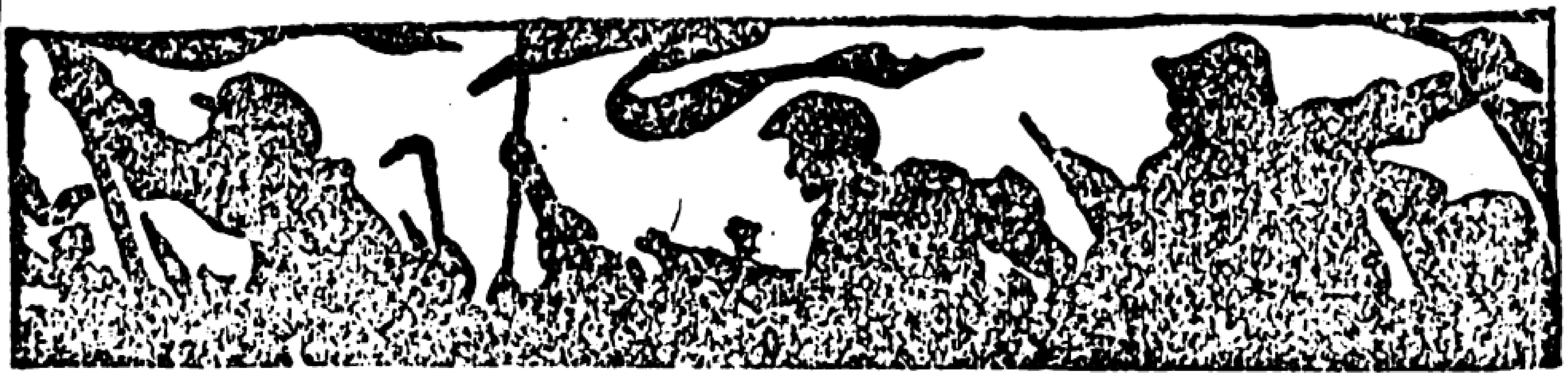
階級裁判と抗爭せよ……卷頭言（五）
陪審法の實施と無産階級……三輪壽壯（六）
無産政黨合同方針の出題……板垣良一（一〇）
無産階級運動當面の難關を如何にして突破すべきか……辻井民之助（一四）

傍聽記

◇日勞黨第五回擴大中央委員會傍聽記……高見恭介（一七）
◇第十七回總同盟大會記……大野佳良（二三）
◇日本農民黨大會傍聽記……高木郁夫（二四）

全士戰

柏山青年會の同志諸兄に與ふ……朝鮮　××支局
北鮮水害罹災同胞救濟基金を送れ……朝鮮　××支局
中部地方の戰線は統一したぞ……愛知　天木生
最近の慶南狀勢……朝鮮　釜山支局
二つの報告……富山　加藤友吉
處女會を欺く反動主義者……廣島　山岸虎次
農村青年に檄す……大阪　大野佳良
長崎にも借地爭議……長崎　一市民
長崎戰報（二）……長崎　一市民
……（28）……



報告

軍官學校報告……大阪 日勞黨員
出鱈目に苦しむ百姓團結せよ……茨城 高山久治
毒ガス防止に起つ王子の戰線……東京 山本生

日勞黨第五回擴大中央委員會の批判……羽田光雄（三八）
現實主義の評價……吉田源藏（四四）
社會政策の本質（講座）……清水寬一（四八）
藝術に於けるアヂ、プロの問題……深谷進（五一）

編輯ノート（九二）
進め社だより（五六）
進め案內（四六）

巴里のプロ展を見る（歐洲通信）……淺野研眞（六三）
金解禁の話（問題の解說）……佐々木敬三（五八）
國民政府の內容（問題の解說）……（四六）
十一月七日を迎へて……森貞次（六九）
理想鄉を造らんとして支那革命に從ふ（特別讀物）……福田狂二（六四）
社會主義運動思出話（特別讀物）……岡野辰之介（七〇）
導火線となつた男（創作）……平野吉三郎（七七）
泥棒とお仙（戲曲）……土佐和芳（八六）

資料

公判公開要求同盟の聲明……（九）
合同問題の危機に際して聲明す……（六二）
無產大衆黨の合同問題に對する指令の要項……（一三）
時事日誌……（四三）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

無産階級の獨裁なくして革命藝術の獲得なし（レーニン）

革命藝術大系なくして無産階級藝術なし

本書目次大要

革命と藝術

革命藝術大觀

革命文學論　文壇一般、文壇の中心、新作家の群、作家の自傳、作品の内容、文學雜誌、文壇插話

革命詩壇

革命美術　美術一般、アッヘル、現代彫刻展覽會

革命樂壇

革命演劇　ルナチャルスキーと演劇、第四研究劇場、芝居を工場の中で打つ、新しい舞臺裝置者

附錄（四）　塹の上に、中隊へ、アジア人から、曠野、永沿り、教師の少年、及青年時代

解放群書 (24)

最新刊

革命藝術大系

尾瀬敬止著

四六版 二百卅　定價壹圓 送料十錢

◆「無産階級の獨裁なくして革命藝術の獲得はない。」「凡てが有産階級的であつて、獨り藝術のみが無産階級的であり得ない。」ロシアは世界唯一の無産階級國であり、其處に初めて無産階級藝術があり得る。しかして無産階級の革命と同じく、血苦十年の歴史を持つ。

◆日本に於ても現今頻りに無産藝術が問題され、理論闘爭對立發展が進行する。しかし「革命藝術の把握なくして無産藝術の確立はない。」本書は斯界第一の權威たる著者が、十月革命十週年を紀念するため、刻苦十年の研究を傾け、十月藝術十年間の苦闘奮闘並に、文壇、劇壇、詩壇、樂壇、藝術家、藝術團體の現狀現勢を、歴史的、紹介的、組織的、體系的に著述し、尚代表作品數種を附錄した鳥瞰圖であり、縮寫圖であり、シネマであり、パノラマである。

◆共價値や知るべきのみ。

◆「革命藝術大系なくして無產階級藝術なし。」「苟くも革命藝術を語り、無産階級藝術を創らんとする程の者に敢て本書を薦む。」

發行所　東京市芝區新櫻田町十九　振替東京三六九四四番　解放社

革命藝術の把握なくして無産藝術の確立なし（尾瀬敬止）

階級裁判と抗爭せよ

「裁判を明るくする」爲めに人民を裁判に參與させる陪審法が、去る十月一日を期して、田中反動內閣を初め一切のブルヂョア機關なあけての鳴物入りの賑やかさで實施された。

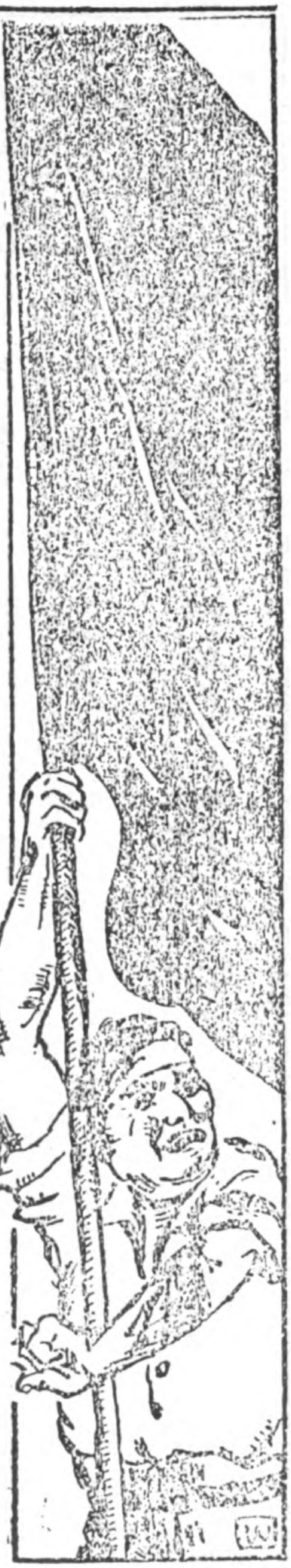
然るに、皮肉にも、日本共產黨事件は今や東京を除く各地の豫審終結して公判が開かれ、又開かれんとしつゝあるが、見よ「普選による明るき日本」を創造すると宣傳し、裏に廻つて買收と、暴壓によつて普選を泥ぬつたブルヂョアジイは、又もや、「陪審による明るき日本」のかけ聲の裏においてこつそりと反動的性質な陪審法に忍はせながらも、その陪審をすら除外し、公判の公開を禁止し、正に文字通りの暗黑裁判を强行しようとしてゐるのだ。

われわれはこゝにおいて、彼等の、「明るい裁判」が階級裁判をゴマ化す宣傳に過ぎぬ事を知るのだ。階級社會において、階級裁判は免れないのだ。

洵に彼等の明るき裁判の本質陪審法は、議會主義と共に、歐米資本主義がブルヂョア革命の勝利品として獲得したものであつて、その時代においては、正に封建的專制裁判に對する「人民を參與させた明るき裁判」の名にふさはしきものであつた。然るに、資本主義國家の爛熟に進行して、それは支配階級としてのブルヂョアジイを擁護し新興プロレタリア階級の進出をおさへつける階級裁判にまで變化する。

かゝる歷史的意識をもつ陪審法の實施が、極度に反動化した日本ブルヂョアジイによつて行はれる事は、階級裁判をゴマ化す「明るい裁判」の空太鼓に過ぎぬのである。陪審員の規定において、三十歲以上の男子であり、居住年限二ケ年以上、直接國稅三圓以上の條件その他種々なる條件をもつ有資格者に限られ、其有資格者の中から、市町村長の抽籤によつて選出されるのだ。かゝるが故に、青年、婦人無產階級の一切は除外されるのである。かゝる有產者的陪審員をもつて構成さる、陪審法が階級裁判にあらずして何だ。かゝる陪審員によつて總攻擊を受けるべき無產階級にとつて、それは明るき裁判の實施であるか、否、吾々無產階級は、暗黑裁判の假面を蔽ふ、彼等の「明るき裁判」の本質を曝露し、裁判制度の徹底的民主化の爲めに戰はねばならぬ。「明るき裁判」のカケ聲の裏に、暗黑裁判の名の何とふさはしからぬ事よ。

吾人は階級裁判と抗爭する無產階級の聲を闇から闇に葬らんとする秘密裁判を糺彈し白日下の全民衆の環視裡の公判を要求するものである。われらの聲は遂に十月二十九日の名古屋の共產黨公判をして彼等をしていやいやながら公開するの餘儀なきに至らしめたのだ。公判公開は全民衆の心からの要望である。



陪審法の實施と無産階級

三輪壽壯

人、陪審法の實施につき語るとき裁判制度の進化を讃美する。法律の進化を説く。法律の民衆化社會化の表現であるといふ。そして時代の進運を附言することを忘れない。

私も陪審制度の實現が法制の進化であることを否む者では決してない。陪審制度は議會制度とともにブルジョア、デモクラシーの双璧である。普通選擧の徹底と陪審制度の確立とはブルジョア、デモクラシーの確立の基礎をなすものである。たから徹底普選の獲得の重要性を認むるならば十月一日を期して實施された陪審法に冷淡で、あつてよいわけのものではない。

◇

たが刑事裁判について私共の今までの短い淺い經驗ではあるが、それを通じて考へさせられることは、單なる形式の完備などちつとも有難くはないことである。早い話が大正十一年の新刑事訴訟法が實施さるゝ時（大正十二年より實施）その特色は公判中心主義として公判前の手續を重要視した舊法を改正したことにあると聞かされたものである。成程未決勾留期間は二ケ月と限定された。然し「特に繼續の必要ある場合は」といふ例外を遠慮なく適用することによつてそれは一片の空文に化する。檢事が勝手に被告人を拘引拘留することは出來なくなつたといふけれども、形式さへ整ふれば拘引拘留におろかなこと人權蹂躙また勝手たるべしである。刑事訴訟法改正されて人權蹂躙が無くなつたかといふにさうではなく、減つたか

といふに必ずしもさうではない。要するに人權蹂躙の與が法律の條項の中から手際よく除かれたり蔽はれたりしたに過ぎないのである

無產階級運動に關心を持ち、無產階級の人權の擁護を志す者にとつて、第一に問題になるのは警察官の拷問に端を發する冤罪（罪狀を殊更に惡くすることをも含めて）である。一の勞働爭議に數十人の犧牲者が出て警官の拷問が有罪の自白と更に他の相棒の有罪の證據とをでつち上げる。それが檢事局にまはる。檢事の前で若し警察の供述と變つたことでも言はふものなら大目玉を喰つた上にすなほにやらないことをやつたといふよりは倍も三倍も刑罰が重い樣なことを感得せしめらるゝ。豫審判事の前たつて五十步百步だ。おまけに此頃になると拘留數ケ月で里心が出て一日でも早く刑務所の門を出れば後は後で何とかなりさうな氣がする。眞實を言へといはるれは警察で云つたことが眞實だといふのが先方の求むる眞實だなとさ氣をまはす被告心理が昂じて來る。人權蹂躙はかくして犯罪者を製造し冤罪者を亦連環に縛りつけるのである。之を除くことが、此專制主義と戰ふことが、此封建制度の遺物を打開することが、私共の司法裁判制度に求むる第一の條件である。

陪審制度は之を是正するであらうか。此積弊を芟除するに役立つであらうか？私は遺憾ながら否と答へざるを得ない。

陪審法の特色は公廷の陪審員の面前ですべての證據を直接口頭調ぶることにあるといはれ又その原則的規定がなされて居る。然し之が前述した樣な意味で眉唾ものである。何故かなれば、直ぐその後に例外的規定があつて、檢事調書や警察の聽取書に至る迄も若し被告人が公判廷で以前公判外で爲した陳述と違つたことを述べた場合には之を證據に供してもよいことになつて居る。よつて被告人が公判廷で拷問に基く調書と違つたことを云へば、前には警察から檢事局豫審と引續きこう云つて居るのであるからその證據と被告人の公判廷の供述とどちらかを選ぶ樣に「暗示」さるれば陪審員の頭は間違つた方にも容易に動き得るのである。拷問調書は立派な證據としてのさばり得る餘地が與へられてゐる。私は人權蹂躙——拷問調書—冤罪の一連の鎖を絶ち切つて無辜をして罪なからしめ、民の罪なくして拘禁さるゝことなからしむる爲には警察檢事の調書を證據として採らぬ原則が例外なからしめなければこの點の要望は滿されないと考へて居るものである。私はこの點に於て新陪審法の將來に疑惑を挾まざるを得ない。

◇

陪審は立憲的議會と併び立つ。ただ議會主義がブルジョアジーのものである樣に陪審も亦ブルジョアジーの所產である。現代のデモクラシーが無產階級に觀念的な滿足を與へつゝも焦慮に導く樣に、陪審に於ては殊に我國の陪審に於ては無產階級に切實味が乏しい。直接國稅三圓以上を納むる有產階級が陪審に關與し得るのみである無產階級のものが陪審法廷に立つとして、それは文字通りブルジョアの陪審員の前に裁きを受けるのである。

故意か偶然か長期十年の治安維持法が今回の共産黨事件の豫審終結の前に死刑又は無期の刑を規定することになつて、十月一日陪審法施行前豫審を終つたものは別として施行後豫審終結することになつて居る東京の二百名といふものは之を拒まない限り陪審にまはされねばならないのである。今回の事件が治安維持法に謂ふ所の國體の變革にふれるかどうかは知らぬが、少くともその違犯として公判に付せらるゝ限り、若き數多くの解放運動者は、直接國税三圓以上を納むるブルジョア陪審員の前に立つことになるであらう。

私は所謂京大學生事件なる治安維持法違犯事件に辯護人として立會つた。血の氣の多い學生諸君として無理のないことかも知れぬがあの時學生被告諸君が取つた態度が裁判に對する抗爭一天張で、自己階級の立場を支配階級に理解せしめ乃至は公判を通じて廣く民衆に訴へる樣な自若たる態度の見られなかつたのを物足らなく思つたことである。私は曾つてかのマルクスが一八四八年十一月新ライン新聞主筆として雄深の筆を揮つて居たときプロシア國民議會の納税拒否の決議を支持して暴動を煽動したといふので翌年二月ケルンの陪審法廷に立たされたときのことを思ふ。

現代の所謂マルキシスト、コンムユニストは宣傳だ暴露だといつては最大限の資本主義呪咀、彈劾の放言などをならべるがマルクスはそんな言葉は一言も云はなかつた。彼は彼の行動が當然の行動であり本來ならばブルジョアジー自身がやらなければならないことであつたといふことを論理的に諄々と説いて聊かも自らの主張を少しもまけることなく起訴の非なる所以を明かにして居る。そこにマルクスの偉大さがある。マルクスはブルジョア陪審員の同情や憐憫からでなく、彼の論理によつて彼等に打勝つて無罪を言渡させた。

現在の日本は千八百四十八九年のドイツとは異つて居る。ブルジョアジーが政權を取らうとして居る際でなく、現にブルジョアジーが政權を握つて居るのである。如何に陪審法廷に於て自らの立場を防護しブルジョア陪審員に對すべきかはマルクスの場合と同じにはゆかぬがそこに多くの學ぶべき點がある。ヒステリカルな反抗ならは願ひ下にしたいものである。

◇

無産階級で陪審といふ問題によく引合に出される話であるが、一九一四年七月三十一日歐洲大戰の宣戰布告を前にしてフランス社會黨の首領ジアン、ジョーレスは一愛國者の拳銃によつて射殺されたがその犯人の陪審の結果はどうであつたか。全フランスが戰勝の光榮に醉い、愛國の至情に燃え上つた一九一八年「反逆者」ジョーレスを殺した愛國者は愛國者陪審員によつて無罪の判決を受けたのである。

日本でも陪審ではないが甘粕大尉事件があり、高尾平兵衛殺害事件がある。輕薄な日本の輿論が國賊の名に於て死刑を、愛國者の名に於て無罪を宣言することを豫想しないわけには行かない。健忘症の日本人のことだから例へば問題の審判員の瀆職事件でも、今で

あれば、有罪を評決するものでもほとぼりのさめた頃陪審に附さるゝならば無罪となるものが出て来ることになりはしないか。

無産階級の立場から云へば、陪審陪審とはブルジョア、デモクラシーの所産である以上、之に多くの期待を持ち得ないことは當然ではある。然しさきにも云つた様に我陪審法では陪審員の資格さへ選擧法に於けるが如く納税の制限があり有資産階級に限られてゐる。我等は先づこのブルジョア性と戦つて民主主義化を徹底しなければならぬ。外國の制度を手際よく模倣して陪審らしい空氣をたゞよはせたに過ぎない陪審法を我等の立場から完全なものとして獲得しなければならぬ。普選法が支配階級の欺瞞的讓歩である様に、陪審法も亦民衆の裁判干與といふ美名を以て階級裁判を粉飾し糊塗するにすぎないとしたならば、我等が之と如何に戦ひ我等の立場から如何に發展せしめなければならぬかは自ら明かでなければならぬ。

陪審法、陪審裁判は無産階級と無緣のものであるかの如く考ふるのは誤りであると共に、また裁判民衆化の宣傳に迷はされて之が我等に直接よき結果を齎すなどと考へるのも謬見である。我等は陪審法のブルジョア性と戦はねばならないのである。そして我等の陪審法を獲得せねばならぬ。わけても冤罪者の國家賠償制度の確立（不當勾留檢束等に對する賠償を含めて）無料辯護制度の確立等は陪審法そのものゝ不徹底を暴露しつゝその獲得への戦をつゞけなければならぬ（一〇、一六）

公判公開要求聯盟の聲明

田中政府は民衆の自由を最後の一片までも奪はんとしてゐる殊に當然公開さるべき公判の公開禁止に至つては暴虐の限りである。從來民衆の最も聞かんとする公判の公開禁止に係つたものゝ事例は無數である。我等は公開を要求する今回の日本共産黨事件に於て然りである。政府は數百名の共産黨事件の被告を七ケ月の長日月に渉つて、獄舍につなぎ、凡ゆる逆宣傳を放つたのである。愈々東京を除く各地の豫審終結して公判の開かれんとするや、徒らに陪審を除外し公開を禁止し闇から闇の秘密裁判によつて事件の眞相を民衆の眼より遮らんとして居る。然るに一方共産黨事件の被告等は叫ぶ「只ひたすらに窮迫せる勞働者農民のためにその利益を擁護し、その解放の爲に戦ひ来つたのだ」と。既に神戸の公判廷に於て一人は堂々、公判の公開を要求し、大阪の被告等は獄中より陪審を要求して居る。公判の絶對公開は全日本の民衆の心からの要求である。殊に資本家地主に反抗せんとせる勞働者農民の結社事件の眞相を陰蔽せんとせる政府の專斷に對して反對し、プロレタリア言論機關を總動員して公開要求聯盟を組織し、政府の專制的司法權の濫用に抗爭せんことを誓ふ。

十月十三日

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

無産政黨の合同方針の出題

板垣良一

一、問題の提出

日本の政界に於ける將來の政黨分野はその經濟的條件からして、大體に次の四大分野に對立するものと我等は觀て居る。

一、反動的政黨――大財閥――大地主對建貴族

二、小ブルジヨア自由主義政黨――小資本家、小地主、商業資本家――大番頭

三、無産大衆黨――勞働者、小作農――これに近き民衆層

四、(前衞黨)――勞働者、農民の精鋭分子を中心として

第一の反動的政黨の出現に關する詳細な說明をする必要はない。今日の政友、民政の內訌はその進出への第一歩である。

第二の小プル自由主義政黨が日本の政界で相當發達すると云ふ說と發達する余地がないと云ふ說とに分れてゐる。私は小プル自由主義政黨は必ず短期限であるけれども發達することを充分に豫想することが出來得ると思ふ。日本の産業別人口に現れた(數字略)所謂小プルジヨア層である、自作農及自作兼小作農、商業、職員の人口は相當廣い領域を持つて居る。これ等の小プル階級は大財閥の經濟的壓迫と加ふに國家租稅の加重に苦しみ、自己の財産收入と勞働力の收入は到底永久にその家族をして安逸な生活をなさしめ得る確信はない。たから彼等はブルジヨア生活領域からプロレタリアの苦惱の生活への沒落を、凡ゆる手段と方策を以つて喰ひ止めんとするのである。此の小プルの經濟的、思想的、政治的の利害を代表する黨は必ず日本の政界に一時的發展を來す客觀的の可能性は充分にある。

第三の無産大衆と、第四の前衞黨が出現する豫想も充分に出來得る。今日の客觀的な狀勢は全ブルジヨア政黨に對する全國的單一無産政黨と云ふ樣な單一の階級黨を結成することは困難であるが、併し單一政黨に近い階級的大衆黨の實現の可能性は充分にあるし、又吾等は凡ゆる努力を拂つて結成せねばならぬ。

二、合同問題についての見通し

吾等は以上の政界の將來、及現實鬪爭に於ける甚き解體、未組織

大衆包擁の上からも、又、資本の攻勢とそれに伴ふ反動政治の猛襲に備へる上からも、如何なる政黨と合同し、如何なる政黨を結成するかの見通しを充分つけ、その確信の下に合同問題を取扱わねばならぬ。でないと自然發生的な合同論は幾多の勞力と勢力の消耗を來し、最後に無産階級の利害を代表せず、反對に裏切る結果になるからである。

吾等は以上の立場から叫ぶ合同論は階級的、大衆行動黨、即ち前衛黨たる第三の無産大衆黨の結成にある。從つて前衛黨を作る時の合同論でもなく、左右、中間及び地方政黨も打つて一丸とする自然發生的な、唯一無産政黨の合同論でもない。(斯ふ云ふとすぐ分裂主義者とデマを飛すかも知らぬがそんな苦勞知らずのマルクスボーイヤレーニン信者には相手にならぬのだ) 又世上の合同論者は前衛黨を中心とする合同論か、それとも實力ある階級的大衆黨の結成の時の合同論かを明確にして合同問題を取扱わねばならぬ。

三、階級的大衆黨結成の立場から

日勞社民の兩黨の合同論の現狀

先づ最近展開された、日勞黨と社民黨の合同問題から檢討しよう。日勞黨は結黨以來、無産黨の合同論者の明星であつた。その撓まざる合同論に刺戟されて、社民黨の關西大衆、特に大阪の大衆は早くから日勞、社民の無條件合同論を唱へ、幾多の大會、委員會を通じて最近には、その加盟せる總同盟中央委員會をして「日勞黨との合同は個人的交渉を充分にした上で合同協議會を開いては」と決議するに致らしめた程に合同問題に努力と奮鬪を續けて來た。

が併し、社民の中堅大阪聯合會の大衆の要望は無殘にも九月二十五日の日勞黨の中央執行委員會に於いて本質的に踏へ附けられて仕舞つた。それは日勞黨が中間政黨として孕んだ内面的の矛盾と、幹部の合同方針に對する無定見と無能力が斯く決定せしめたと吾等は見て居る。此の決定に依つて日勞黨は過去の輝ける合同の旗幟は完全に焼き拂われ、再び焼野の灰燼の上に再建せしめんとしてゐる。過去二ケ年に亘る日勞黨の苦惱な鬪爭の歴史は日本の無産政黨史の上に何等をもなし得ず無用の長物黨であつた事を裏書きしたと同時に反動化せんとする社民の東京官僚幹部をしてその餘命を長からしめ、政府をして狂喜せしめたより外に何等の價値なき決定である。たが日勞黨の幹部よ悲しむ勿れ!だ。日勞の大衆は健在である。吾等は更に一層、此の誤れる決定を日勞黨の大衆との握手に依つて完全に無効に終らすのだ。

日勞黨の決議の本質は如何なる内容を含むかを更に解剖する必要がある。日勞黨が社民黨と合同することに依つて、「自己の所有せるマルクス的思想を民主々義的な思想に改惡される事を恐れた。頼りないマルクス主義を所有する幹部、日勞黨支持の全日農系の幹部がその戰線に於いて勞働農民黨の積極的な働き掛けに對し、只一つ無産大衆黨との合同に依つてその防禦的な地盤を築き、自己の足場を堅めんとする利己的な反對。更に此の二つの有力なる反對論が支持して、無産大衆黨との合同を合理化せんとする黨本部の理論家。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

今一つ總同盟に對する反感を有する一部支持團體の幹部の反對。これ等の反對論者が社民黨と合同せんとする日勞黨關西大衆及有力なる支持團體である組合同盟の要求を封じ社民黨關西大衆の進出は抹殺されて仕舞つた所の實質的な根因であつて、此の根因があの決議を生むに到らしめたである。

四、日勞黨に對する合同問題の提出

然らば日勞黨は今後合同問題を如何に處理して行くか？即ち社民黨と合同せんとする一群と無產大衆黨と合同せんとする一派、を如何に統一し合同に進むかは吾等が注目する所である。

日勞黨が無產大衆黨と合同することに依つて、勞農黨の働き掛けに對して對抗せんとするが如き誤れる合同論を先づ批判せなくてはならぬ。

言ふ迄もなく無產大衆黨は實力を持ち得ない黨であり此の黨も、幹部が勞農黨の運動に對してアキタラズして創りあげた幹部黨であつて、大衆の參加と支持に依つて結黨されたものでない事は世間周知の事實である。所謂、「大衆なき大衆黨」と日勞黨が合同して勞農黨に對抗するなどと云ふ事は實に子供欺しの合同論であり、加ふに農村の戰線に於ける勞農黨の役割は事實上、彼等が農民の利害を代表して日常闘爭を活潑に展開するからであつて、これに對抗して戰線を混亂さすが如き戰術でなくて、自ら戰線の第一に立つて働く勇敢な闘士を農村に差向け日常闘爭を通じて農民大衆の支持を得る事に依つて初めて、勞全日農一派が主張する勞農黨に對しての防衛的地盤が確立され得る。此の日常闘爭を通せず、只大衆黨との合同に依つて防波堤を築かんとするが如きは却て農民大衆の信賴を失ふのみである。農民は今日や昨日に出來た大衆黨が如何なるものであるかを判斷するものでないのでそう輕率に信用しないのだ本當に農村の事を考へるなら勞農黨と合同して政治的にも經濟的に強大なる闘爭を續けることが本當である。が併し、勞全日農派の幹部には勞農黨と合同する勇氣はないのだ。併らば結局合同問題は如何にする。

次に社民黨と合同する事に依つてマルクス的思考を民主々義に變改されると恐ひ、大衆黨との合同を主張し大衆黨との合同を合理化せんとする幹部の行衛を批判せねばならぬ。日勞黨が大衆黨と合同して仕舞へば事實上左翼黨としての存在に止り、決して、合同後の闘爭を豫想しても、大衆黨としての延長擴大性がない。それは一層左翼黨の左翼としての心細い存在のみが殘るのである。又、これ等の人々が將來、勞農黨と合同して新黨を結成する程の勇氣と確信があるかと云へばこれ又、全然豫想することは出來得ない。然らばこれ等の社會民衆黨との合同に反對する人々の合同問題は如何になり得るか。それは結局行詰りを生ずるより外に途はない。

五、內面的矛盾と困難を解決して　一路大衆黨結成に進め！

吾等は此の日勞黨の持つ內在的矛盾を解決せねばならぬ。それは

眞に日勞黨をして大衆行動黨たらしめ、無產大衆の利害を忠實に代表さすためめた。

日勞黨が社民黨と合同する事に依つて日勞黨が持つマルクス主義的立場を失ふものでなく、却て反對に社民黨をして眞に階級的大衆行動黨の立場に歸らしめ、他方、無產大衆黨及新黨準備會の持ち孕む内在的矛盾を清算し、眞に一大階級的大衆黨の結成の大方針を決定するものである。マルクス主義は、机上の空論でない。現實の鬪爭を通じ、運動の過程の中に於いてのみその存在と意義と力を持つものである。此の理論の武器に依つて眞に社會民衆黨を階級的大衆黨たらしめる爲にも又眞に强力なる政治的城塞の建設の爲にも、犠牲となつて吾等は勇敢に今後日勞黨への合同を押し進めて行く。唯た此處に諸君の問題となるのは社民黨が胎んでゐる構成分子が合同に贊成するか、又新黨準備會の合同論は如何たと云ふに決つてゐるこの社民黨の本質及合同問題と、新黨準備會の合同問題は紙數の都合上、來月號に廻そう。

× ×

御斷り なるべく合同問題の常識を與へる爲めに思ひ浮んだ儘に書いたので文意極めて平易であるからして幾多の疑問と矛盾する點を發見されたなら遠慮なく御注意下さい(十月七日總同盟全國大會に臨んで合同問題を提出せんとする朝、走り書)

無產大衆黨の合同問題に關する指令の要項

▼各黨の一般的情勢

一、(A)右翼結成に躍進する社民黨の一般情勢(B)關西先進分子の新方向(C)闘束に於ける「單一政黨期成同盟」運動

二、階級的合同に進出せんとする日勞黨

三、我が黨に屈服しつゝある新黨準備會(A)合同に對する無力(B)結黨方針の對立(C)淸算過程の進行

▼「全合同」への方針と一般的指令

我が黨は第一に

「全戰線の再延と統一のために右翼結成を克服しつゝ社民黨日勞黨、民政黨その他との全合同による單一的全國的政黨の實現を飽くまでも當面の目標として直進する」

第二は

「支配階級との鬪爭並に全合同の急速なる實現のために勞働者農民の戰線を强化すべく、可能な範圍に於ける順次的合同をも辭するものではない」

第三には

「合同の時期は、今秋の各黨大會の討論を經て年内に實現しなければならぬ」

我が黨は右の見地より、合同の提議權を爭ふものではないが、全合同への狀勢を靜觀しつゝ、階級的合同へのイニシアテイブを執る準備をも有する、もとより我が黨は、合同に對する條件を附しない。合同政黨が(一)黨名變更(二)役員改選(三)綱領、政策の改造をなすは言ふまでもなく我黨の黨員は合同に對し、舊勞農黨大衆の陷りたる無用なる愛黨心に、こだわらざる決意をもたねばならぬ。

次に合同促進のために次の如き一般的戰術を執る

一、極左翼並に右翼幹部批判の態度は感情的對立を避ける、二新黨準備會に對しては淸算を促進する。三、社民黨の先進分子の活動に協力する爭の共同戰線を張る、情勢によつては日常鬪四日勞黨とは大衆と大衆を密着せしめる、五、他黨の支部又は聯合會との間に合同促進委員會を設定する。

無產階級運動當面の苦難を如何にして突破すべきか

―戰鬪的勞働者の任務―

辻井民之助

一、苦難に打突かれる無產階級運動

現在、日本無產階級運動は、反動的支配階級の嵐の如き彈壓の下に、未だ嘗て經驗せざる甚だしき苦難に打突かつてゐる、××××の檢擧、舊勞農黨、舊評議會等の解散、各地に於ける勞農組合の破壞、維持法の改惡、大學に對する彈壓、對支出兵等々、彼等の極端なる彈壓と反動政策とは、限りなく無產階級運動の上に加へられ、我等が過去十幾年に亙る苦鬪によつて獲ち得たる陣地は刻々として奪還され、その陣營は彼等の蹂躙に任せるの外なき、實に慘憺たる有樣にあるのだ。

今こそ全國の戰鬪的勞働者は、一齊に起つてこの彈壓を撃破し、この難關を切り拔けて、全無產階級の利益を擁護し、我等の歷史的使命に向つて躍進すべく、全力を擧げて奮戰しなければならぬ。では我等はこの重大なる任務を、如何にして果すべきであらうか？

二、無產階級戰線の統一へ！

最近の彈壓に對して、極左一派の諸君は、「大衆的行動によつて、奴等の彈壓をハネ返せ！蹴飛ばせ！」と、「無產者新聞」や「勞働農民新聞」等の紙上から悲壯な怒號が繰返してゐる。たがこの勇敢な紙上アジにも拘らず、大衆の間からは、何ら反抗らしい反抗も起つては來ない。なぜたらう？

支配階級の彈壓は、舊勞農黨、舊評議會解散前の勢力を以てしても、これを蹴飛ばすことも、ハネ返すことも出來なかつたのではないか。然るに既にそれらの組織を破壞され、大衆は冷へ切つてゐる今日、如何に極左の指導者諸君が、勇敢に紙上アジを連發しても、彈壓をハネ返すことは愚か、せい〴〵少數の極左追隨者をして、強大な支配階級のホンの觸手に過ぎない官憲と小ぜり合ひを行はしめ檢束ゴッコを繰返させるが落ちであらう。

我等は先づ冷靜に考へてみねばならぬ。一

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

階級我等の運動を今日の如き苦難に陷らしめた眞の原因が何であるかを。極左諸君はタメクであらう。「支配階級がドロ靴とサーベルとで踏みにぢりやがつたからだ」と。だが思ふても見よ。彼等は、彼等の地位を脅やかす我等の運動の萌芽を、常にボンヤリ傍観してゐる程の間拔けであらうか? 彼等は機會だにあらば、我等の運動を骨拔きにし、粉碎せんものと付け狙つてゐるのではないか。我等の一切の行動は、この敵前に於てなせるものであるといふことを、瞬時も忘れてはならない筈ではないか。

然るにこの敵を前にしながら、最近の我等の陣營の有樣はどうであつたか? 左翼も右翼も、相鬪つて戰線の分裂と同志打ちに狂奔し味方の勢力を甚だしく分散せしめ、更に分散された勢力を、有害無益な仲間喧嘩に消耗して來たのである。拔目なき支配階級が、どうしてこの好餌の際を見逃すであらうか。かゝる戰線不統一の結果、我等が強力なる反抗運動を起し得ぬといふ、充分なる見透しが付いたればこそ、彼等は最近の如き彈壓と反動政策とを開始したのである。然も支配階級の見透しは、不幸にして、極左諸君の見透しの如くに、決して過つてはゐなかつたのである。

今日の苦難が、戰線の不統一に基因することは最早明白である。從つてこの難局を完全にハネ返し、今日の苦難を速かに突破せんがためには、現在の四分五裂の戰線を速かに統一し、戰鬪力を強大ならしめるより外に途はない。そしてこのことは、多少とも階級意識を有する無産階級の總てが、等しく認むる所であり、現に大衆の間に、統一戰線の要望が熱烈に昂まりつゝあるのはそのために外ならぬ。最近の、日農、全日、兩農民組合の合同、全國勞働組合統一協議會の成立、各無産政黨の合同への傾向等は、この大衆の熱烈なる要望を反映せるものに外ならぬ。

この大衆の要望を體現し、一切の分裂主義的傾向を徹底的に排撃し、統一戰線實現のために全力を擧げて鬪ふこと——これぞ戰鬪的勞働者の當面の、最大の任務でなければならない。そして我等がこの重大なる任務を完全に果さんがためには、統一戰線のための正しき、具體的な方法を持つことが絶對に必要である。

三、對立鬪爭は何をもたらしたか?

最近まで無産階級戰線を、分裂から分裂へと導きたる、極左福本氏一派の「宗派的分裂主義」、及びその相續者たる「新黨準備會」一派の奉ずる極左的理論は、既に決定的に批判し盡され、その根底から覆へさるるに至つた。所で、然らばかゝる非階級的理論が無産階級戰線の一部に、即ち評議會や、勞農黨等の間に、一時非常な勢力を得るに至つたのは如何なる理由に基くか? これを知ることは、分裂主義的傾向を實踐的に克服し、統一戰線の具體的方法を樹てんがために、是非必要なことである。私は、評議會に所屬せし一勞働者としての經驗により、こうした點に就て少しく所感を述べてみたいと思ふのである。

×

總同盟は、大正十四年、左右二派の對立の結果、第一次の分裂を惹起し、この左翼によつて創立されたのが評議會であつた。この

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

分裂が、果して避くべからざるものであつたか否かは姑く後に廻し、この分裂によつて、一體如何なる結果がもたらされたかを考へてみやう。

分裂後總同盟の指導分子は、評議會の切崩しに備へ組合員の結束を圖る必要からも、極力反評議會熱を煽り立てた。「評議會は、空想的、小兒病的分子によつて支配され、現實を無視した過激な理論によつて、勞働運動を手習草紙にし、勞働者の生活を破壞する危險な組合である」等と盛んに攻撃を加へ、組合員の評議會に對する敵愾心を煽り立てることに努めて來たのである。だが評議會側の行つて來た所も亦、決してこれに劣りはしなかつた。評議會はその成立の事情によつて、總同盟に比較すれば、當然遙に多數の左翼的分子を抱擁してはゐた。だが評議會も亦、勞働者の大衆的團體である限り、一般組合員の水準は、總同盟のそれに比して大なる相違であるべき筈はない。この一般組合員のギルド的意識、組合根性に訴へ、これを刺戟して、評議會の指導分子も亦、頻に總同盟に對する敵愾心と、競爭心の激成に努めて來た。かくて兩團體の間には、終には敵に對する以上の憎惡反感がかもされるに至つたのである。

評議會は、總同盟の右翼化に反比例して左傾し、一般組合員のギルド意識、組合根性の上には強烈なる左翼的優越感が釀成され、評議會内に漲るこうした空氣は、更に逆に指導分子の意識に働きかけずにはゐなかつた。右翼團體内に於ては、餘程勇敢な者でなければ、公然と左翼的意見を發表し難いと同樣に、評議會内に於ては、餘程勇敢でなければ、如何に疑惑を感じてゐても、左翼的な理論を批判することは困難となり、左翼的に振舞ふ者程巾がきく有樣となつた。當時偶々出現したる極左「福本主義」が、忽ちにして評議會の指導分子を捕へるに至つたのは寧ろ當然であつた。「福本主義」は評議會のこうした傾向に恰も烈火に油を注ぐ役割を果した。これまでは自己の極左的分裂主義的行動と、その左翼理論との間に多大の矛盾を感じつゝあつた評議會の指導分子も、今や「福本主義」の攻撃によつて、その行動は是認され、正當化するに至つたのである。彼等の極左的、分裂主義的行動は、愈々益々大膽ならざるを得なかつた。かくて評議會は、評議會を最も有力なる支持團體とする勞農黨と共に、分裂主義の使徒と化するに至つたのであつた。

當時評議會は、確に多數の戰鬪的、左翼的勞働者を抱擁してゐた。然るにその大多數が、終に極左に墮し、非階級的な戰線分裂の元兇犯となるに至つたのは、實に分裂と對立鬪爭のためであつた。そして分裂と對立の結果は左翼分子自身と左翼團體の發展を阻害したるばかりでなく、右翼團體の大衆に對しては、左翼的影響を與ふるの途を斷ち、右翼指導者の指導に任せ、その發展を甚だしく阻害する結果となつたのである。少くとも大衆團體の對立鬪爭は絶對に發展をもたらすものではない。無產階級の現實の利益の擁護も、大衆の發展も、左翼分子の發展も、それは統一戰線の中に於てのみ、統一戰線實現の鬪爭を通じてのみ可能なのである。

× × ×

× × ×

傍聽記

日勞黨 第五回擴大中央委員會 傍聽記

高見憲介

◇

外部的には日勞黨の危機を謳へられ、内部的にはお家の大事と騷がれ、家の子郎黨を蝟集せしめるに至つた合同問題を中心とする日本勞農黨の第五回擴大中央委員會は秋雨煙る十月七日、芝區青年館の會議室に開催された。

記者はこのお家の一大事が如何に進展するかを、一種の興味と、極めて緊張した氣持ちとをもつて傍聽するの榮を得たことを感謝しつゝこの日の早朝六時三十分、この大會議に列席すべく名古屋より馳參じた日勞黨名古屋支部長、佐々木市太郎氏同支部・片桐市藏氏猪口了介氏等を品川驛頭に迎へ共に會場を指して乘り込んだ。

會議は午後の一時・例の如く麻生書記長に依つて開會を宣された集まる者、執行委員、加藤勘十、三輪壽壯、河野密、山名義鶴、吉田賢一、淺沼稻次郎、河上丈太郎(代議士)の諸氏を始めとし、中央委員、田所、三宅、川俣、清水、望月、坂本(勝)、岩内、長沼、石山、棚橋、堀川、安藤、菊家、森、今村、光吉、藤岡、西村、細野村松氏等、聯合會代表、松本(和歌山)監田(東京府)林(青森)平山(神奈川)網島(新潟)の諸氏及び支部代表として、青野(宇都宮)植松(長岡)小松原(大谷)可兒(岩城)小原(雄平)本田(龜戸)鈴木(淀橋)植田(南花原)役(北豐島)金井(京北)松坂(川崎)名倉(市久)松本(三河島)熊谷(王子)佐々木(名古屋)金井(横濱)の諸氏五十四名一騎當千の猛闘將の面々がズラリッと着席に及んで、いでや一番無かる可からずと重厚ならざる當日のプログラムを右手に持ち左手を机上に着けたる樣は流石は大日勞黨の堂々たる偉力を眞に天下に示すの觀があつた。

加ふるに傍聴者五十五名、之れ又、記者の如き者四五名を除くの外、何れも総聯将の後を継ぐ日労系の闘士諸生、傑物と謂はずして何ぞやである。

議長には満場一致を以つて吉田賢一氏を推薦し議長席に着くや、次いで麻生書記長は起つて一般報告は後廻しとし統一問題に対する経過及び前回執行委員会の決定事情等を詳細に報告し第十四回中央執行委員会の決議を内容とする統一問題の件を議題に供する旨を宣し質問に入る。

斯くして茲に党内外の注目の的となれる重要なる統一問題は一騎当千の古強者に依つて論議され龍虎相闘ふの一大論戦は開始されることゝなつた。

◇

先づ第一に質問の矢を放つたのは堀川氏であつたが、此席で一寸場内の空気を説明して置く必要がある。即ち何故にこの会議が斯く迄も内外の注目の的となつたかと云ふことを簡単に述べて置く必要がある。

それは既に読者諸君も知るが如く、日労党の支持団体の一つである日本労働組合同盟と、全国農民組合の殆全日系に属するものとが、この統一問題に対して相異なれる二つの意見を持つた事にある。

即ち組合同盟に於ては、九月二十二日第三回中央委員会に於て政党合同問題に関して左記の如く態度を決定して了つた。

(2) 日本労農党が単独にて無産大衆党とのみ合同することは現下の情勢に於ては一大階級的大衆党の結成に支障を来すものと認め之に反対す

(3) 同時に社会民衆党との合同は日労党立党の精神たる階級的大衆党結成のための妥当なる第一歩と認め我が同盟は総意を以つて之が促進に努力すべし

と決議して発表したに対し、全国農民組合側は「無産大衆党と即時合同すべし」と云ふ意味の決議を、組合同盟で態度を発表した後に発表した。

斯くして労働組合側と農民組合側とは同じ日労党支持団体でありながら二つの異つた方向に向つて合同すべしと云ふ態度を明かにして一路各自の信ずる方向に向つて邁進せんとした。故に各自がこの主張を飽くまで強調するに於ては日労党はいやでも分裂せざるを得ない情勢となつたのである。日労党分裂の危機も故なきことではない。

この二つの意見の衝突は、この会議の必然的帰結と考へられるのが當然であるから、熱狂した党員の精神に燃へる党員各自の顔に不安と緊張との色が漂て居るのも無理からぬことである。

然るに、この不安なる情勢を観て取つた中央執行委員の諸士は、その以前に於て九月二十三日夜より翌二十四日の朝に至る迄徹宵協議を続け各組合側の意見を出来る丈け接近せしめやうと努力したが、この徹宵協議は不幸にして何等具体的の案を決定する事が出来なかつたのみか二十四日の朝に至つて前夜来の集会は無届集会であるとの理由を以つて三田警察署へ一同が検束された等の余興まで演

するに至つた。

次で二十五日第十四回中央執行委員會第三日目として討議を續行し組合側とは懇談會を開き然再びかの懇談を重ね、各組合側の意見も幸に接近して來たので茲に中央執行委員會の決議として左の事項を決定するに至つた。

一、吾黨は立黨精神に基き階級的一大大衆黨の結成に今後益々邁進す。

一、無産大衆黨との即時單獨合同は現下の情勢の下に於ては吾黨の合同方針完成の上に支障あるものと認む。

一、合同政策遂行のために中央執行委員會の統制下に支持團體代表をも加へたる無産黨統一委員會を設置す。

發、同時に聲明書として左の一文を發表した。

我黨の傘下にある全黨員は勿論、全無産大衆は階級的大衆的統一主義の旗が尙高く翻くことを待望してゐる。

我等の期するところは全無産政黨の統一我等の目標とするところは階級的一大大衆黨の結成、而してそれが支柱をなすものは我黨の外にない。

外界の猶豫臆測に拘らず、我黨は微動だもしない。陣營を整備して一大躍進をなすの機は熟しつゝある。

我等はもと血盟の士、更に全黨員の奮起を望むとともに邁進せんことを誓ふ。

階級的大衆黨の結成へ。

日本勞農黨を通じて戰線の統一へ！

と謂ふにある。而してこの日の中央執行委員會提出の議案＝政黨統一問題の件＝は實にこの決議と聲明書を内容とする（前述の如く）討議に外ならない。

以上、極めて簡單ながら不安なゝ經行きと議題に供さるべき内容とを說明したから次へ筆を進めることゝする。

◇

話しは前へ戻つて堀川氏の質問の第一矢の要點となる。堀川氏は「中央執行委員會が意見を決定するに先立つて支持團體の少數の幹部と懇談會を開いて、結局、中央執行委員會の意見が支持團體の少數者の意見に依つて動いたと云ふは、斯くの如き重大問題を控へた時に於ては不都合であり、又、中央執行委員は如何なる形式を以つて如何なる手續を執つて懇談會を招集したるや」「我々支持團體の中には懇談會の通知に接しざるものもあつた」と云ふにあつたが、この點は手續上の問題について第二三の質問者を出した、これに對し麻生書記長の答辯は極めて要領を得たものであつた。即ち「緊急を要する場合であつたので手續上の手落ちはあつたとしても、事は極めたデリケートの問題を含んで居る場合であつたが故に……」とあつさり片付けて了つたが、「緊急を要する場合」と謂ひ「事は極めたデリケートの問題を含み」と云ふ該責任者としての麻生氏の答辯を察するに餘りあるものがあつた。併も堀川氏は「一體この合同問題は何處から合同を申込んで來たのか、何處からも申込んで來ないとすれば何にも騷ぐことはないし私はそうしたことには反對だ」と遂に大脫線をして了つたが、一齣の御愛嬌として次ぎの質問に移る。

質問者は次から次へと議長に發言を求めて起つたが、何れも「斯くの如き重要なる問題は中央委員會を招集して決せられたい」と云ふにあつたが、質問中場内をヒヤリッとさせた一つとして「總同盟の機關紙「勞働」の今月號に合同問題に對する吉野氏の秘密會議に出席より參列したるものあるが如く記載されて居るが、若し斯くの如き秘密會議に吾黨幹部として參加したるものありとせば參列者の氏名を明かにし、而して内容を發表せられたし」と云ふの一事であつた。吉野氏に於ける秘密會議と云ふ言葉それ自體が既に陰謀的に響く音律を伴ふが故に、これはしたり一部策動派の現狀暴露かと、議場は不思議な色に包まれたがこれに對しては山名執行委員の答辯にて「私も吉野氏の會合に列席した一人であるが………」と明解なる答辯を避けたので一同今更の如く何とかの姿と見れば枯尾花、別に陰謀でも策動でもなく返つて必要事であつた事を諒解するに至つた

◇

愈々、質問を打切つて討論に入る。雨になるか風になるかの討論の模樣こそ詳細に報導する必要があるが餘りに長くなるので、記者は此處では要點のみを記すに止めて置く。

先づ提出された議案に對し「大衆黨とこそ即時合同すべし」とする總全日系の假尺派と關東方面の一部、日勞黨をしてより左翼的ならしめんとする人々等は期せずして一致の論旨を以つて、議案第二項大衆黨云々の項を削除すべしと云ふ意見を立てた。之に對し組合同盟側は既に決定したる決議文の三項は何れも變更の必要なしと力說して互に一歩も讓らざるの概を示した。

殊に棚橋氏は起つて「折角、懇談に懇談を重ねて決議した、この三項の決議こそ我々が折れ合つた最要のものであるから、若しこの三項の中、一字たりとも變更をするが如きことあらば組合同盟は、恐らく諸君の想像もせざる重大なことになるであろう、私達組合同盟は削除は勿論のこと修正すら絶對に反對すべきである」と暗に言外に脫黨すべきやも知れざる意味を含み斷乎として言ひ放つ。

然して、甲論乙駁の議論は何時、果つるべきやも豫想すら許さざるの情勢となつた。田所執行委員は「諸君が三項の決議に對し變更を求めらるゝは明らかに執行委員會を不信任とするものであり、若し變更するが如きことであらば當然執行委員會の責任の問題になる」「殊にこの決議は既に發表したものである以上、今更變更も出來ないではないか」と言ふ。

斯くして數時間の討論は結局、斯くの如き既に決定し發表を終つたるものを議案としてこの會議に提出することが間違ひであるから、この議案は撤回して執行委員會の報告と改め、これを承認し、更に本會議に於ては別の決議を決すべしと云ふ意見が出で、滿場一致を以つて議案ならざる、この報告を承認することゝなつた。

さて次は、本會議としてこの態度を決定するのであるが、これには三つの案が出た、即ち

（一）東京府聯合會、松谷與二郎氏案

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

執行委員の決議中の第二項即ち無産大衆黨云々を全部削除し且つ統一委員會を增員すべし

(二) 新潟聯合會、(中央委員)三宅正一氏案

吾黨は大右翼結成及び大左翼結成の名の下に行はれる統一論は無産政黨を永遠に分裂せしめるものである。故にこれに反對し飽くまで立黨精神に從ひ單一大衆黨結成を目標としてこれが必要なる行動を開始す。

(三) 青森秋田聯合會、西村中央委員、小原支部提案

三宅案に次の如く附加す。

適當なる時期に於て各黨に對し合同提議をなすべし

松谷氏が「統一委員會を增員すべし」と云ふことは、執行委員會にて決定したる人員以外に黨の幹部外に在つても日勞系に屬する人々にて有力なる人々をも加へよと云ふにあつた。松谷氏の說明に依れば例へば山崎今朝彌氏、稻田狂二氏、中村太八郎氏の如きと云つて六七名の人名を擧げた。これに對して一同は一寸、意外とする論であるかの如き思ひ入れであつたが、記者はよく松谷氏の眞意のある處を諒解するに苦しまざるものである。

三宅氏の原案に對しては何故、「大右翼結成及大左翼結成」の字句を入れるやと云ふ問題に對して可成り激烈なる論爭が開始されたが、三宅氏は「大右翼結成及び大左翼結成」の字句こそ必ず入れなくては、この決議の意義がなくなると强硬に主張した。

この間、前代議士(候補者)綱島正興氏は堂々たる二十四貫の體軀を重も重もしく起つて一場の演說を試みる。其堂々たる演說は場内を壓して、熱辯眞に火を吐く觀があつた。さしもの一騎當千の猛者の面々タヂタヂの體であつたが、惜しいことには大演說は遂に大演說に過ぎず、論旨は問題の中心を外れて「綱島さん御說は御もつともです。私等も其の爲めに今討論をして居るのですが、貴殿の御說の方法は」と問はれて「それは執行委員一任に願ひます。」と笑ひの種をまく、何のことはない大劍士が試合に木劍を落したやうなものだが諸君、堀川氏以後第二の御愛嬌と云ふ勿れ、氏の愛黨の熱情を買はざるべからずである。

この時、五時四十分議長は休憩を宣し六時三十分再會、討論續行の結果、遂に左の如き折衷案を決定して、この重大なる統一問題の幕を下すに至つた。

決議

一、吾黨は大右翼結成大左翼結成の名の下に行はれる統一論は無産政黨を永遠に分裂せしめるものであるから飽迄單一大衆政黨の實現を目標として之が達成に必要なる行動を開始す

二、中央執行委員會統制の下に支持團體代表をも加へたる無産政黨統一委員會を設置し適當なる時期に於て各黨に對し合同を提議すべし

三、執行委員會に於て適當なりと認むる相當數の委員を增員すること

◇

統一問題の討議が終ると、一時に緊張味も解けて了つたが、尚ほ左の議案

二、九州事務局設置の件

三、黨大會に關する件

四、全國勞農青年同盟の組織を積極的に指導すべき件

五、市町村會改選に關する對策
六、役員補任の件
七、全國遊說の件
八、日勞會館建設の件

を討議に附し決定を見るに至つた。この討議のうち、就中大會に關する件は、山名執行委員の說明にて會期を御大典の關係上明後年一月を期して開催すると云ふ事情を說明したに對し、何時も議論の雄として議壇に花を飾る、九州の今村等氏、光吉悅心氏、關西の醍醐文六氏等々、今日の會議には始めから一言も發せず只默々として風雲を望んで居つたが、この時、即ち大會々期を明後年一月にすると云ふ說明に對して今村氏は起つて「自分等はこの統一問題は決してこれで済んだものとは認めない。自分等も大會に於て何れ論戰を闘かはうと思つて殊更に一言も云はなかつたが大會には自分達の意見も闘はしたいので明後年などと云はずに來月位には是非大會を開いて貰ひ度い」と論外に一物、何物かを忍ばせて居ることを察するに充分なる言ひ廻しを以つて大會の早からんことを望んだ。

本會議を通じての情勢を見るに出席者は、何れも日勞黨を愛する精神を以つて臨み、例へ組合同盟と農民側とが意見の相異を見るに至つたとしても、日勞黨を分裂させて迄も自己の信ずる道に走らうとするものは一人もない。日勞黨、安じて可なりである。

然し、斯くの如く重大なる統一問題を議するに當つて、本會議の如く何等、統一問題に對する根本的の理論を闘かはず、又殊更に、理論闘爭をなさざることに努めたかの觀があつたことは、返つて日勞黨の將來の爲めに惜しむべきことではなからうか。

今村氏の言と謂ひ、光吉氏、醍醐氏の殊更らしき沈默と謂ひ、これ等は軈て來るべき大會に於て、記者の想像を許さざる情勢の急轉を見ないとも限らない。

一時的、不安の雰圍氣は去るゝあり、日勞黨の將來も他の政黨と共に又、多事多端と謂ふべきか。

想ふに、何れの時、何れの團體と雖も、其內部には常に右に左に走らんとするもの、現狀を維持せんとするもの、更に左せんとするものの三派が伏在するものである。只要は勢力のある分子が他の勢力を克服した時に一致を見る、日勞黨內部に於ける勢力は何れが勝を謳るべきか＝＝不幸にして記者は其の明のなきことを悲しみつゝ日勞黨立黨の精神たる單一大衆政黨の實現の爲めに邁進せられんことを望み筆を擱く。

日勞黨萬歲の聲ぞ勇ましく聞ゆ。正に午後八時三十分、閉會。

第十七回總同盟大會記

大野佳良

第十七回總同盟全國大會が十月七、八、九日の三日間に渉つて大阪土佐堀青年會館で開かれた。多くの議案が上程せられたが、時節柄問題となつたものは「總同盟大會を二年に一回とすること」「勞働組合總聯合に關する件」「產業合理化に關する件」「對支外交に關する件」等であつた。

第一日目と第三日目の鈴木會長と米窪某との握手の一幕は何の爲めに勞働組合の大會があんなことをやらなくてはならぬかと、多くの勞働者は憤慨してゐたが、それは實に見苦しい場面ではあつた。

「總同盟大會を二年に一回とすること」と云ふ提案は關東同盟會所屬の組合から出されたと云ふだけで、提案の理由の腹の底の底が既に見拔かれてゐた。それだけに關西側の反對にあつても、流石に關東側も腹の底の底を露骨に現すことも出來ず遂に否決されて仕舞つた。

「對支外交に關する件」は單なるメッセージの發表で、そこら邊にざらにある民政黨や、革新黨あたりの壯士が何處でもやる所謂既成政黨の「決議」の發表であつた。此の既成政黨流の「決議」は無產政黨の代議士によつてわざわざ支那迄持つて行かれるのだそうである。

「勞働組合總聯合に關する件」は關西側から提案されたもので、これは階級戰線の統一問題に重要な關係を持つものである。從つて總同盟には……否總同盟の幹部即主として主事に、或る別の意味から重要な關係を持つものであつた提案者側の關西派は終始一貫階級戰線の統一の上に立つて居り、反對側の關東派は終始一貫感情の上に立つて居つた。反對演說を行つた人達の中に、締付工場の人事係を拜命してゐる幹部のあつたことには、何人にも成る程とうなづかしめた。

「產業合理化に關する件」は關東と關西と兩方から提出され、關西から提案したものは、全く反對の意味を表明するものであり、關東側（中央委員會案）からのは必ずしもそうゆう意味ではなかつた。即ち勞資が一致して、そして資本家が勞働組合の團體的交涉權を認めれば產業の合理化が「產業の民主化」と云ふ形式の下に行はれるから、そうゆう產業の合理化なら贊成すると云ふ意味であつたらしい。だが討論六時間を費して、どうやら產業の合理化と云ふことが判明したらしく、反對しなければならないことゝきまつて、委員附託と云ふことになつた。

總同盟の第十七回大會を通じてヘツキリと我々が知つたことは、主事の演說によつて、總同盟の幹部が「共產主義を全く知らない」こと、野田の爭議が「階級鬪爭を激成するものでなかつた」こと、「日本の勞働組合は今一つに固まることが良くない」と云ふことであつた。

即ち總同盟幹部は共產主義を知らないから反對するものであり、野田の爭議は階級鬪爭をやつたのでなく、資本家諸君――松岡氏はかう云つた――の頑迷に警告を與へたものであり、急速に統一や合同をやらないことが、總同盟の傳統的精神だと云ふことが、第十七

回全國大會を通じてハツキリしたのであつた。松岡氏は、勞働組合總聯合に關して、「宋襄の仁」と云ふ六ケしい言葉を用ひられたが勞働組合を現在のやうに、政黨を中心とした分裂線に副つた、四分五裂の狀態に置く事は「宋襄の仁」ではなからうか。

我々は階級戰線の分散狀態を永久化することによつて利益するもの、何故なるかを知らねばならぬ。

嘲々、寇に兵を籍す「宋襄の仁」者はそも誰ぞ！

日本農民黨大會傍聽記

高木輝夫

大正十五年十一月、「現下の形勢において左翼も右翼も、勞働者も農民も擧つて單一無産政黨の旗下に集まれと謂ふが如きは、主張としては正しき純理なるも斷じて一箇の空論である」と論斷して當時の單一無産政黨であつた勞働農民黨に對立して、我國の六割五分を占める農民層を對照として「農民は農民黨へ」のスローガンを掲げて結黨したところの日本農民黨は餘りに發展の跡も示さぬばかりでなく、昨年の府縣會議員選擧直後、會長北澤新次郎氏を失ひ、今年又日勞黨の合同問題にからんで高橋龜吉氏脫黨して御難續きではあつたが、十月二十日他黨に先だつて協調會館において第二回大會を開催した。集まるものは羽織袴で農民氣分タツプリの代議員三百六十五名、傍聽席にも空席多く、淋しい情景の中に大會の幕は定刻に遲る〻二時間後午前十一時になつて漸く開かれた。議長和田傳次氏も白髪童顔にて好々爺らしくは見へるが、議長振りは餘りに冴ず、ペンペンダラリの内に議事は進んで行く。

正午近に本部事務報告を終り、午後一時から議事に移つた。

一、肥料國營運動に關する件

一、電燈料値下全國的運動に關する件

一、農地金庫並に自作農創定案に對する態度決定に關する件

一、規約改正組織改革に關する件

等滿場一致で議了し昨年も各政黨の中心議題であつた合同問題が、再び中心議案としての價値を失はず上提された。この合同問題の態度決定に關する議題の上提される頃より議長席には坂本利一氏ありて場内の空氣も稍々緊張味を帶びて來た。この提案理由の說明は群馬、北海道の意見を代表して田村勘次氏によつて成されたが、その大略を記すと、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

「日本農民黨が合同問題に對する態度は從來餘りにも無定見であつた。總選擧前にあつては日勞黨との合同を提議し總選擧後にあつては農民組合の全國的統一に參加せんとし最近に至つては社民黨との合同を提唱する等、所謂日本農民黨式合同方針は今後絶對に排して最も確固たる方針の基に合同問題に對する態度を決定しなくてはならない。從來、合同方針の決定せざりしは、各支部共何等の定見なく、本部に追隨して來たるがために、大會の價値を失はしめた。そこで私はこの點を改めるために、本部員としての資格でなく、群馬縣聯合會の代議員の資格をもつて提案したのである」と前置して「この合同問題を論議するに先立つて、農民黨がその指導精神とした「農民は農民黨へ」のスローガンを變更する必要がある。今や資本家と地主が完全に握手し、我々被壓迫民衆に對峙してゐる時に當つて、農民は農民のみによつて政治鬪爭を成す事は出來ぬ。又資本家の搾取の對照は獨り勞働者、小市民のみでなく、農民もその苛酷な搾取の對照とされてゐる。かくの如き狀勢の基にあつては、すべからく勞働者と農民は提携しなくてはならぬ。我黨においても山梨北海道においては勞働組合が成立してゐる位であつて、「農民は農民黨へ」のスローガンが間違つてゐると謂ふ事を明瞭に認識する事が出來る」とスローガンの變更を力說して、合同方針の態度決定に移り、「我黨が從來極右翼黨と見られし關係上、一部左翼の批判は止むを得ないが、發展の一段階として、社會民主主義的大衆黨の結成に猛進すべきである」と結んだ

それに對して種々の質問はあつたが、その主なるものとしては

問「社會民主々義とは日本の何れの政黨がこれに包含されるか」

答「社會民衆黨、日本勞農黨はこれを社會民主々義的黨と見るが一步進めて無産大衆黨も昨年の勞農黨の大會において「社會民主々義の批判の自由」を撤回すべく主張したるに鑑み、これも抱含されると思ふ」。

問「田村君は合同に對して、我黨がその態度が不徹底であつたと云はれるが、他黨の態度も不徹底であつたではないか、徒に我黨のみの弱點、欠點を暴露することは對立的合同でなくて併合されるの恐れなきや」

答「私は自己批判によつて誤謬を清算する事は最も必要と信ずるが故に批判したものであつて、自黨、他黨の別なく批判する必要がある」

問「農民黨のスローガンの變更によつて合同は實現するか」

答「それは出來ると思ふ」

問「社民黨と日勞黨の如く社會民主々義的政黨にても合同は出來ないではないか」

答「それは種々なる對立關係があるためであつて、指導精神が一致してゐるから直に合同が出來るとは保證出來ぬが、指導精神が異なれば困難であり、他黨との合同に誠意あれば必然にスローガンは捨てる事となる」

等々の質問戰を終つて討論に入るや須貝快天老先づ立つて現狀維持說

を唱へ

「田村君の自黨攻擊は他黨のスパイの如く聞へる。我黨結黨以來社會情勢は餘りに變りなく、六割五分の農民を擁する我國においては勞働者と提携せずとも、努力によつては日本一の大政黨となり、日本農民黨の上に大命は降下するであらう。故に敢てスローガンを變更するの必要はない、田村君は本部員でありながら自ら行つた仕事を誤つてゐたと云はれるのは、餘りに若氣の至りで理論にのみ走つたがためであらふ」と大氣焰をあげ、山梨縣聯合會の代議員は「社民黨の合同に對しては絕對に反對である」と主張し、北日本農民組合の立川君は「日本勞農黨との合同は絕對に拒否するものであるが、それはかりではなく、日勞黨は我々の陣營を攪亂するものであるから、よろしく全無產階級の名をもつて解散を命ずべきである」と合同論より脫線して議長をマゴツカした等のエピソートを殘しつゝ紛糾を重ねたが、結局北山亥四三氏の合同問題研究會によつて決定した案卽ち

「擧黨一致を根本條件として、大會をもつて合同問題研究委員を擧げ合同に對する態度方針を決定する」事を提議し滿場異議なく承認、さしも曲折を經た合同問題も落ちつく處に落ちついた。小憩の後二三の議案を終了して午後六時閉會した。この大會を通じて筆者の感想を述べれは、結黨當時において、「左右兩翼、農民と勞働者が同じ政治戰線に立つ事が空論であるとし、現實に於ける可能なる範疇において、農民は農民黨を組織すべきである」との論據の基に闘爭を續けて來た日本農民黨の內部において、此の指導精神が誤謬でありこれを愈々變更しなければならぬと謂ふ事が若い闘士の頭に考へられて來た事は、今年の農民黨大會よりの大きな收穫であつたそれと同時に自己批判を拒否して自黨の誤謬を合理化せんとしてデマゴギーを飛ばす一部の無產團體の卑劣なる態度に反して、勇敢に自己批判を行つた點は、最も敬服に價する事である。社會民主々義的政黨の結成についても一言すべきであるが、從來最右翼と見られた日本農民黨に對しては餘りに無理な注文であるが故に、一歩にても二歩にても進出した事を諒として差控へておく。

附記

猶同黨內の合同派（群馬、北海道、愛知、宮城）は大會終了後その主張の貫徹のため、左の如き申合せをした。

一、我等は日本農民黨合同委員會をぺんたつし、誠意をもつて合同に邁進せん事を期す。

一、我等は日本勞農黨、社會民衆黨が從來の行懸りを放棄して三黨合同を邁進するに努力せん事を望む。

一、我等は合同實現のために各黨が、一應解黨して、合同の熱意を示さん事を望む。

一、我等は完全なる合同實現のため各黨のろう劣なる策動を絕對に排擊す。

一、我等は公明正大なる態度をもつて對外交涉に當り、斷じて卑劣行動に出でざる事を誓約す。

年鑑日記解放社の萬人必携
贈答用◎注文殺倒將絶品◎勞農紳商大衆急

解放群書

○各冊[illegible] ○[illegible]あり

◇新居格 傑作集
◇青野季吉 隨筆論文集
◇山田清三郎 創作集新附
◇屋隈錄
◇山崎今朝彌 駄文集地獄
◇憲兵火事巡査
◇幸德秋水 名文集
◇幸德秋水 書簡集
◇消費組合の理論と實際
◇石川三四郎 世界社會運動史普及版
◇岡陽之助 日本社會運動史
◇佐倉啄二 日本女工虐待史
◇近藤榮藏 革命運動史
◇小川未明 最近傑作集
◇中西伊之助 長編傑作試
◇左衛門一揆
◇守田有秋 古今東西理想鄉物語集
◇山内房吉 各種古今東西社會思想解説
◇尾瀬敬止 革露革命藝術大系
◇神近市子女史 傑作選集
◇續編プロレ大家最近傑作集上下二冊
◇續編社會主義的隨筆論文集上下千頁
◇赤松克麿 英國婦人勞働運動史
◇守田有秋 世界革命家列傳

解放社（五十錢）四年版

大衆年鑑日記

特色

◇年鑑日記解放社
◇萬人必携贈答用
◇便利重寶御經濟
◇美裝堅牢第三種
◇辭典懷中活動的
◇机上便覽常識的
◇官吏町人お百姓
◇學生腰辨失業者
◇注文殺倒將絶品
◇勞農工商大至急
◇日記年鑑顧問官

内容一部

1 年鑑の部

◇昭和四年陰陽暦
◇一九二九東西暦
◇郵便小包電報料
◇各國メートル表
◇印紙營業所得税
◇各種相續税率表
◇天皇御歴代表
◇年令年利早見表
◇世界解放運動大觀
◇日本解放運動鳥瞰
◇無産階級現勢大觀
◇政治經濟婦人各種統計
◇勞農組合各種統計
◇圖表統計約半百
◇團体名簿約二千
◇日記年鑑歴史二十頁

2 日記の部

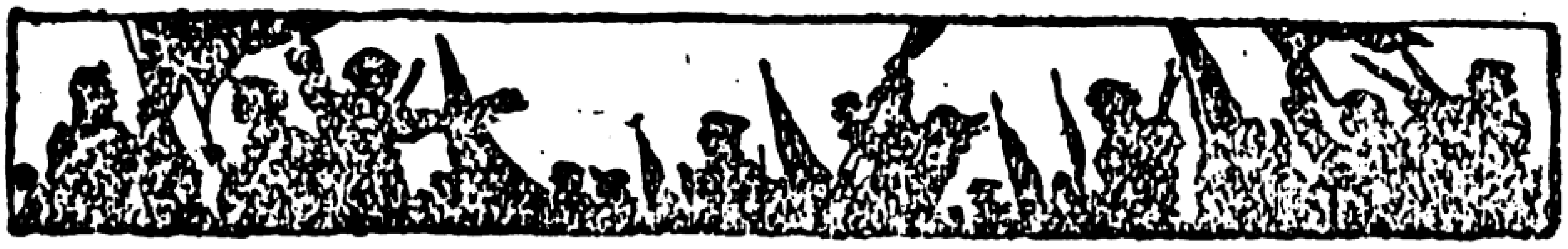
◇新案大衆日記滿壹年

3 附錄の部

◇解放法律十戒則
◇現行解放法律年別表
◇日常必要法令約百頁
◇黑旗赤旗に國際史
◇メーデー及メーデー歌
◇我等何から讀む可きか

『解放群書』『宣傳用書』及月刊『解放』發行所
解放社
東京市芝區新櫻田町十九
振替東京三六九四四番

便利重寶御經濟の美裝堅牢第三種◎辭典懷中活動的◎日記年鑑顧問官



全土戰報

柏山青年會の同志諸君に與ふ

朝鮮青年總同盟創立以來××××××帝國主義の分遣隊共に依つて一切の集會を禁止されてゐる、これ我々朝鮮人に取つて屈辱この上ない大醜態でなければならない。否!それのみではない。總、勞總も又解散同樣の屈辱を與へられてゐる又新幹會、槿友會の大會禁止、朝鮮×××事件の數千名の我が闘爭的同胞は今奴等の爲めに××されんとしてゐる等、在滿同胞壓迫、渡日防止等々數へ切れない程の彈壓が我々の頭上に襲ひつゝある この時に際して我々は一層勇敢に依り一層活潑なる闘爭を展開しなくてはならない。

親愛なる柏山青年會同志諸君!

諸君はすべての闘爭力を集中して青年會の再組織へと向へ、それは決して現在の樣な普通な藥生――即ち小地主ののらくら息子の遊び半分の集團であつてはならぬ、しかし現在の會員は勿論その再組織の場合の先頭隊とならなければならない。そうして貧農の若い青年を抱擁した大衆的な戰闘的な團體としてゞなければその存在は全然無意義なものになり終るであらう。從つて素人劇團もその一藝術部門として編入すべきである。

親愛なる同志諸君!諸君は直に再組織に着手せよ!而して柏山青年會をして大衆的な戰闘的な闘爭團體たらしめよ。これこそが柏山青年會同志諸君の當面の最大急務であるのだ、斯かる組織のみが××の彈壓とよく闘ひ得るのだ。

青年會の再組織と農民組合の組織準備……これ歷史が諸君に強た當面任務だ。

一切の力を青年會再組織へ集中せよ!。

(一九二八、一〇、二〇××××)

北鮮水害罹災同胞救濟基金を送れ

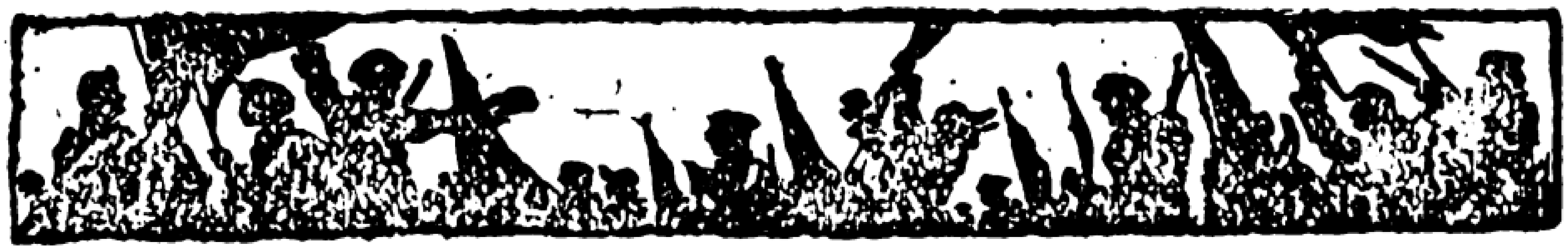
――本誌讀者は一人殘らず應ぜよ――

全北鮮一帶を襲つた前古未曾有の大水災は實に莫大なる生命と財産を劫奪して了つた。

數十萬の生靈は一朝にして水鬼となり數十町歩の沃土は泥海と化した。

全北鮮一帶に漂着しつゝある白衣同胞の死骸!おゝそれこそ我等と共に闘ひ、我等と共に生きやうとした我等の同胞ではないか、塗炭の貧苦の我等の生活に光を失せる無明地獄の襲來であるのだ、人「生き地獄」とはこれを指すのであら

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



う、滿洲風荒れ狂ひ、雪霜凍る北鮮の蒼天に山なす死屍を取りまく數百萬の同胞等は今死に直面してゐる。——降り積る雪！吹荒ぶ凪い風！その上飢餓！寒！何人がこれに抗し得やう。

草根木皮を喰り飢餓から逃れやうとする同胞はそれで救はれる筈なく、その大部分は凍傷を負ひ半身不隨の病體となり日毎に「凍餓死」者の數は激増しつゝある。……死に直面せる老夫はその子を呼び、母を失へる幼兒はその乳房を求めて泣き叫ぶ、力なく行き倒れし老女は呻き、母の死骸を抱きし少女は悲痛なる哭聲をはりあげて涙にくれる暗黒地獄！酸鼻の修羅場！慘憺たる現場は實に筆紙盡き名狀すべからざる有様である。

親愛なる同志等よ！諸君はこの死に直面せる白衣同胞に一片のパンを分ち與えよ！眞に彼等を救ひ得るものは諸君より外にないのだ。雪凍る北鮮の蒼天に餓えし白衣同胞を救え！なけなしの財布をはたいて鬪爭基金を送れ！

——送金は本誌發行所、又は東京府下戸塚町源兵一四四在日本朝鮮勞働總同盟本部宛に——

一〇、二〇

中部地方の戰線は統一したぞ！

未曾有の反動期をけ飛ばして、戰線統一を絶叫する民衆のシレツな要求が抑えることの出來ない力となつたのはトックの昔のことだ

全土に捲起つた此の要求はやがて全國勞働組合會議と成り、或は地方的に中部地方勞農組合協議會となつて現れた。

然るに前者は一部ダラ幹の躁躙する處となり未だに其の成立を見ず準備會の形で停頓してゐるのである。が後者は幸ひ敗隣的ダラ幹も飛出さず此處に輝ける中部地方勞農組合協議會は成立した

戰ひに惠まれた中部の勞働者農民諸君！此の隙を逸せず俺達はより強力な闘爭へ進出しなければならない。

そして鮮血の闘爭は廣汎な未組織勞農大衆の獲得だ。

牢獄の様に暗い大工場に呻吟する未組織の男女工を……自分が汗脂で作り上げた米すら食ふ事の出來ない農村青年等の間に——俺達の組織を延長するんだ。

そして又一方全國的勞農戰線の統一へ向つて邁進しなければならないのだ。

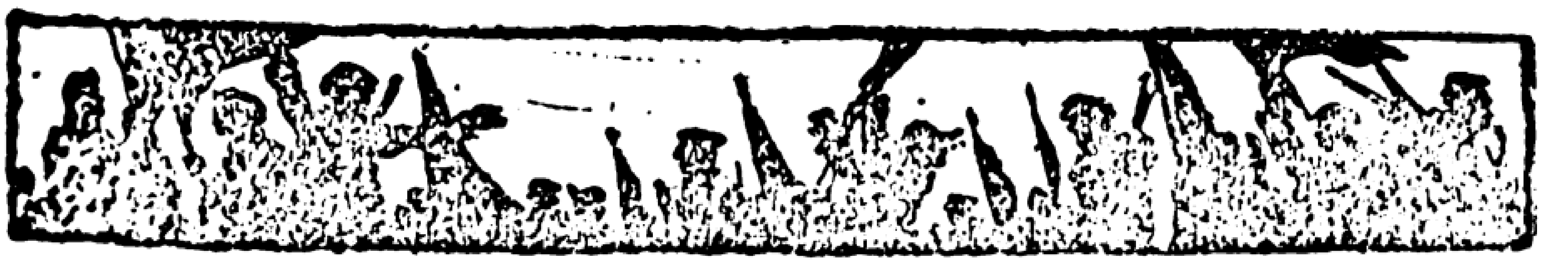
全國の戰線に、さきがけて成立した中部地方勞農組合協議會の任務は斯くも重大だ。それだけに俺達は愼重に又大膽に闘はねばならない。

闘爭を通じて未組織勞農大衆獲得へ！

中部地方勞農組合協議會の旗を工場に農村に進めて行くのだ。そうだ云ひ後れたが諸君よ！

未だに勞働組合農民組合に加入してゐない勞働者農民諸君は速かに協議會の旗の下に馳せ參ぜねばならない。

未組織の勞働者農民諸君が、君が陣營



に投じ我々の眞の部署に就いた時三、一五事件以來頓に沈滯し切つた中部の勞農戰線は完全に再建される時が來るのだ。そして輝かしい鬪爭舞臺は開かれて行くであらう。そしてやがて中京の街、中部の平野に大衆の凱歌は上るであらう。中部の未組織勞農大衆團結しろ！中部地方勞農協議會成立萬歲！

（愛知、天木生）

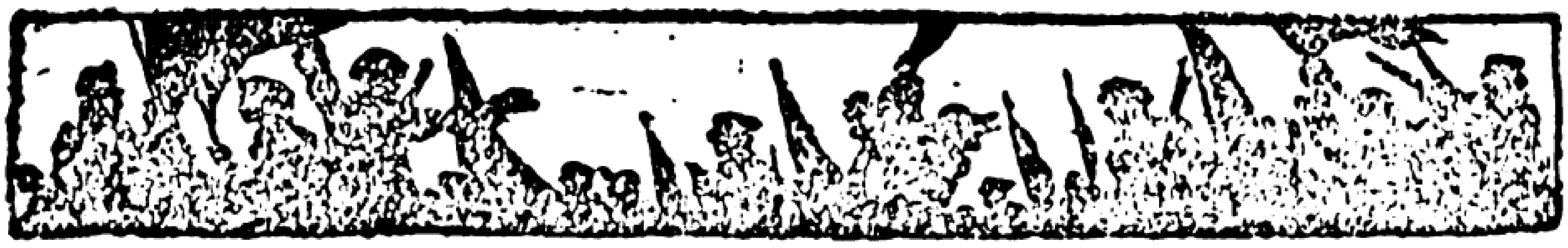
最近の慶南情勢

慶南青年聯盟事件といふのがでつち上げられて全慶南一帶の戰鬪的な青年鬪士數十名が大邱や其他の監獄に繫がれてゐる。が、言論、否すべての自由を奪はれてゐる朝鮮では未だにその眞相が發表されない。もう一ケ年餘りにもなるのに……。

それはかりではない馬山×××事件だの、やれ××××な件だのといつて大袈裟に騒ぎ立てちやかい苛酷な刑を科せられる青洲の××學校や大□の高等普通學校馬山の×信學校釜山第二商業學校等數へ切れないほどの學生ストライキで所謂「煽動」や其他くもの巣のやうな朝鮮特有の法律に引つかけられた連中等もやはり赤い着物に大豆と滿洲粟八割南京米二割といふ飯を喰はせられて大邱や釜山の監獄、否、刑務所に二本の手を後にしばりあげられ××を續けられてゐるその○○といふ奴が又東京あたりの○○は「×さない程度に」やるのだそうだが、朝鮮では朝鮮式○○といふ奴をやるんだそうで、その朝鮮式○○といふのは「×す程度」にやるのだそうだ。例へば第十回朝鮮×××の××が保釋で出獄したらすぐ發狂して人を見ると恐怖心を抱いてにげ出し妻や子すらも姿を見ると恐いくといつて居たが、間もなく死んでしまつたといふ。こんな話はいくらでもある。白光欽君もやはりそうだつた。又々あるが、逆に捕へられたらたゞちにさめといふ朝鮮の警察政治の彈壓爾來下に鬪爭を續ける同志等の慘苦は實に言語に絶し、名狀すべからざる有樣である。

話がとんでもない方に向いてしまつたが、これから少し新しいレポを書くことにする。密陽の郡守某がお手のもの、收賄をしたといふことが暴露したので、密陽郡内の青年がよりくく協議中であつたが去る×月恰度密陽城内の市の日に郡守の野郎が大威張りで自動車の中から葉卷をふかして利權取引に出かける途中を密陽名物船橋の上で青年によつてストツプされた自動車諸共南川江の中にドブン。サーベルがかけつけた時にやつつけた同志等は手の塵をはたいて知らぬ顔！、その後から續々と白い着物が集まる、あまり多數なのでサーベルの大將そのまゝこそこそ歸つて行つたそうだ。

次に勞働夜學校だが、どんな田舍へ行つても一つ位は必ずある。教科書は總督府で許可したものでないと、所謂治休に引つかゝるのでいやくながら乃ぶ



將、廣瀬中佐はどえれえ獣人だ、否、獣神だつてなわけだが、仲々奴等が考へてゐるやうな具合には行かねえ、といふのはイロハも碌に讀めなかつた百姓の子がルビ付の新聞でも讀めるやうになると裁判所の偉い人が——といふよりも鬼見た樣な奴が——東拓會社御付の自動車で五六里もある山の中にわざ〳〵出かけては立てて行く「立入禁止」だの「立毛差押」と書いた木札がわかるのだから仕樣がない。

だから「朝鮮總督府版權所有」と石版で刷り込んだ拾二錢の本よりは月に三十錢拂つても日勞新聞か進めの方が面白く讀めるといふわけで……………。乃木大將や廣瀬中佐よりもマルクス、レーニンが、有產階級と書いてある本よりも無產階級と書いてある本が、ブルヂョアを逆いた本よりはプロレタリアを書いたもの、地主を書いたものよりも農民や勞働者を書いたものといふわけで百冊の拾二錢の本よりも一枚の日勞新聞、一冊の進めを歡迎してゐる、月おくれでも何でも村中引張りだこだからといつて奴等は乃木や廣瀬をほめないわけにも行かず、夜學校を一ッ殘らず全部解散するわけにも行かないとみへて——否やはり〇〇〇〇の〇〇〇〇を吹き込む上に於いて是非必要かも知れないが、いづれにしても奴等は奴等、俺達は俺達だ、どうしても一致しないことはいふまでもない。

釜山の紡績工場

釜山鎭にある朝鮮紡織株式會社の釜山工場では巡査上りの守衛が十人餘りもごろごろして居て、いふまでもなく所謂「不逞鮮人」の見張りをしてゐるがといつて日給二十八錢で一人前の男が喰へるわけではない、だから男女工間に不平不滿は頂點に達し近く××の×行××を上げる手筈で猛運動が續けられてゐるそうだ。

大邱片倉製糸工場

南鮮一の工業地としての大邱には山十、朝鮮生糸、片倉兼太郎經營片倉製糸の工場等があるが、いづれも朝鮮特有の搾取術、應用してゐる、片倉等では滿一ケ年を勤めないと無給！男一匹の年俸七圓といふ。こゝもやはり内部から猛烈な反抗運動が起りつゝある。大邱・慶山、清山道、密陽、釜山、金海、馬山等其他慶南浦一帶では奴等の〇へる〇〇の如き彈壓にも屈せず、北鮮水災罹災同胞救濟基金募集運動を展開してゐる。

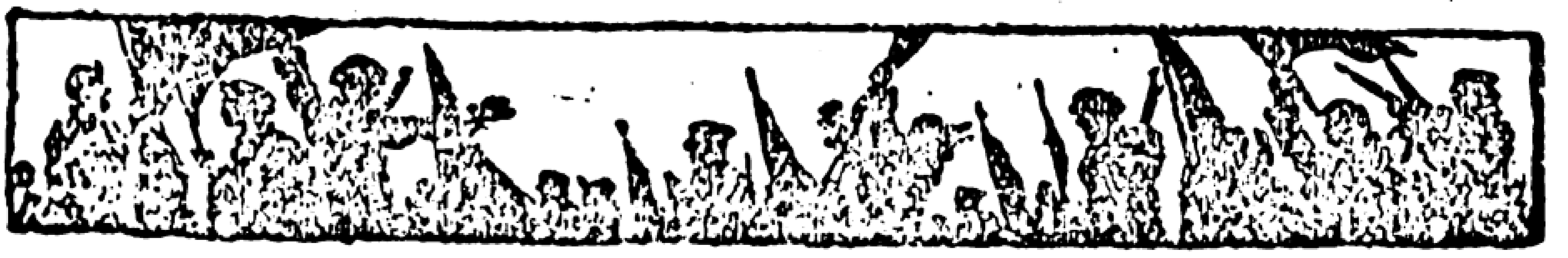
一九二八、一〇、二〇釜山支局

二つの報告

日本農民組合系の富山縣農業團體聯合會は富山縣會議事堂に於て九月十五日臨時大會を開き左の宣言と決議を發表した。

宣　言

我が富山縣農業團體聯合會は茲に臨時大會に當り縣下の情勢に鑑み富山縣下の全農民大衆のため運動方針を定め、茲に宣言す。今や不景氣は日本全土を襲ひ就中農村に於ける農民大衆は地主階級と商



工資本階級の二重搾取に惱み、其の生活は益々深刻化しつゝある、斯の如き重大なる状にのぞんで、我等は一致團結し組織者の力を以て現下の緊急問題たる穀物檢査制度の改造と補償米制度確立の爲めに吾等の決意を表明するは最も意義ある事と確信す。

然して其の目的の遂行に當り、輕率妄動を戒め、合理的手段により一般農民大衆の眞實の要求を聽きつゝ、堅實なる歩を進めんとするものである。

斯くの如き吾等の穩健にして堂々たる態度は遂に縣農會の當局をして「小作人の努力に酬ゆる爲めに補償米問題に對して各町村農會は協議會を開いて應分の處置を執るべし」との通達を發するに至つたのである。我等は當局のこの苦心の跡と誠意を認めるものではあるが更に結束を固ふして當然の權利である補償米制度確立の爲めに猛進すると同時に更に縣下の未組織農民大衆の自覺を促し、聯合にして強大なる農民組合を結成し社會一切の不合理を克服し、以て農村問題の根本的解決を期せんとす。

斯くして吾等は穀物檢査制度の改造と補償米制度の確立を期し、更に一歩を進めて耕作權の確立に努力し町村會の改選に際しては我等の同志を選んで町村會の耕作者本位への改造に向つても全力を傾注し以て新日本建設の基礎的大任を果さんとするものである。

右宣言す

昭和三年九月十五日

決議

一、補償米は特甲(五升)甲(四升)乙(三升)丙(二升)丁(一升)とする事。

二、小作米の納入は丁合格米を以て標準とする事。

三、前二項の要求に應ぜざる地主に對しては無檢査米を納入する事

四、等級標準米査定會の委員には生産者側より半數以上の委員を上ぐる事

右決議す

昭和三年九月十五日

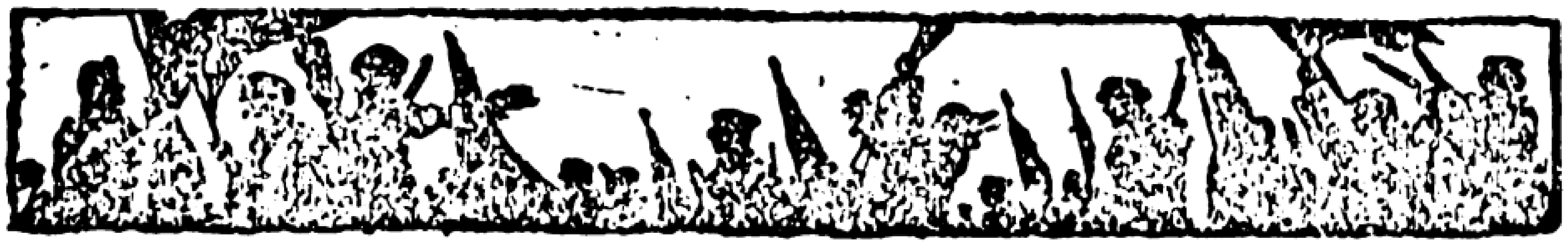
富山縣農業團體聯合會

また勞農黨準備會は伏木勞働組合組織準備會をして伏木町佐賀造船所の爭議を惹起せしめ職工側の要求の全部を工場主認めたるも特高課はこれを不可となし準備會の藤田祐吉、町野宗七、藤谷定山田平太郎氏等を引致してなぐり飛ばし等せし由。尚十七日造船所職工が、午後五時代表者は工場主と會見十九ヶ條全部を撤回し首謀者として村田政一氏は解雇され整理の職工諸君は十八日から復職した。尚この問題に對して北陸タイムスは公平に近い報告をしたが、高岡新聞は勞働者をケダモノ扱ひにしたやうな記事を書いた。この爭議の主謀者として藤田祐吉氏は伏木電化を解雇された。勞働農民黨高岡支部の萩原貞一氏も伏木署に引致されたが、直に釋放され目下新野町富山紡の解雇職工の爲めに奮鬪してゐる。

(高岡市加藤友吉)

處女會を欺く反動主義者

帝國主義戰爭の危機が刻々と近寄りつゝある時、彼等ミリタリストは青年に向つて軍事的、〇〇的敎化を怠らない。そ



の一例として我が縣下安佐郡大林村の職女會員を、「青年訓練所に出席せぬ青年とは絶對に結婚しない又途中で出會つても決して口を利いてはならぬ」と決議させて、否應なしにからめ手から青年に軍事教育を普及せんとした一戸勤の手先がある。

奴等の魂膽は、はつきり分つてゐるのだ。來るべき世界再分割の戰爭に勝利を占め、資本家の前に山の様に黄金を積み立てゝ、その分け前にあづからうとするのだ。

吾々、無産階級にとつては、戰爭は、子を失ひ親を失ひ兄弟を失ふばかりだ。よし、生きて返つたにしても永久に治らぬ不具者であつたり、貧乏は愈々つのるばかりだ。殊に、科學文明の進歩は、日一日と精巧な武器を作りあげてゐる。それだけに、今日の戰爭の悲慘は目もあてられないに違ひない。

奴等は、俺達を、この恐ろしい武器の試驗台に追たてようとするのだ。

そうだ、俺達には、戰爭によつて得るものは貧乏、悲劇の外何物もない、

吾々無産青年は、この○○○○の陰謀をうち破り、世界戰爭の危機と戰はねばならぬ。それには先づ青年團の、官僚的、軍國的その他一切の反動的支配をたち切る事だ。

萬國の無産青年諸君・

吾々には、資本家の爲めに○○○○戰場に行くか、立つて世界平和の爲めに支配階級と抗爭するか、問題は不可避的に課せられてゐるのだ。

大衆的全國的青年同盟を樹立せよ

全國非戰同盟を支持して帝國主義戰爭の危機をぶち破れ。

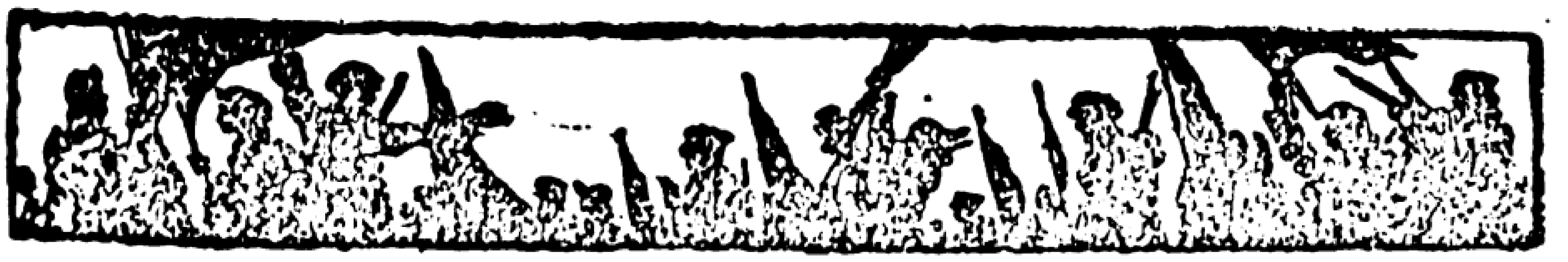
未來は青年のものである。

（廣島、山岸虎次）

農村青年に檄す

「我等に自由を與へよ然らずんば死を與へよ」との叫びは今や我等プロレタリヤ青年の叫びでなくて何であらう。

農村青年諸君諸君はブルジョア青年達が藝術だ戀愛だ宗教だと云つて騷ぎ廻つて居るのに、君達は一年中酷烈なる自然と生活の脅威とに追跡されつゝ奮鬪して居るのだ。君達が太つた腕で白日の下で鍬を輝かす時、避暑中の奴等は何んと美しい繪でせう詩でせうとか言つてゐる・君達の戀人は都に賣られ可愛い妹は彼の大工場で骨と皮許りに搾り取られ、君達の友人は志を立て都に出て失業と貧困に襲われ、年を經ずして病みて歸り一家は赤貧と不幸に落されて行く。斯くして土地の地主と都會のブルとの二重搾取を受けてゐるのだ、働いた者が食ふそれが當然の眞理だ、然るに現状を見よ、大部分は營養不良と勞働過多の爲に知らず識らずの内に身を削られて居るのだ、諸君の小學三年の弟から七十の老母迄働いてく白い飯が食へないのだ。一體此れは何奴の爲か諸君よ君達が汗と努力を流して働いた結晶を公然盗む奴が居るのだ。君達の友人も戀人も老父も皆其奴等のた



めに斯様な奴隷で居なければならないのだ。奴等は毎日今日はどうして搾ろうか明日はどうして遊はうかと考へて居るのだ。諸君そして奴等は其の状態を續けて行くために軍隊、警察、宗教、政治機關を造つて居るのだ。奴等は君達を欺く爲に民心振興とか農村救濟等々、君達は欺かれちやいけないぞ。諸君は先づ我々が住む此の社會を科學的に解剖して科學的解剖に於てのみ我等は如何にして斯く迄我々を不幸にした其の原因とプロレタリア解放の眞理を攫るであらう。諸君よ立ち上れ君達の前途は常に不斷の闘爭に充ちて居る。大膽に勇敢で忍耐強くそして團結の一語を忘れず猛進せよ、彼のブルジョアジーをして我がプロレタリアの前に戰慄せしめよ。

全プロレタリア青年團結せよ

（大野佳延）

長崎に於ける電燈爭議

富山縣に於ける電燈爭議は、それが打ては全民衆の胸にひゞく生存權確立の運動であつたからして、爭議の波は全國的に擴大した。我が長崎市においても、東邦電力株式會社に對する料金値下運動が、日勞、社民、勞農黨の各府縣支部の共同闘爭によつて展開され、九月廿三日午後七時より左の如く市民大會が開かれた、會するもの七百名。會場立錐の餘地もないぐらひの盛況であつた。これを見ても、如何に、全民衆が資本の横暴に憤慨してゐるかゞ分る。吾々は、全民衆の要求が單に電燈料の値下るのみでなく、惡税の撤廢、家賃の値下げ、小作料の低減にある事をよく知つてゐる。吾が日本勞農黨はこの民衆の要望の上に果敢に戰ひ行くであらう。

さて、市民大會の模様を簡單に報告するならば、社會民衆黨の田中定吉君が司會者としての挨拶を述べ、議長選擧には日勞黨の森登君が當選し、議事は進められた。

そして左の如き宣言、決議を發表し、東邦電力との交渉委員として、宣言、決議文の起草者たる、社會民衆黨の遂原、秋山、布田、社會民衆黨の小島、松尾、日勞黨の小松、平吉増氏その他十數名をあげた。

宣言

底知れぬ不景氣の嵐は凡ゆる階級を通じて窮乏化し今や全く悲境の苦しみに喘ぎつゝある。然るに從來依然として暴利を恣にしつゝある東邦電力株式會社は日本に於いて第一位を以て任じ豐富なる資源によつて莫大なる巨利を得つゝも飽くなき搾取を敢てなすが如きは我等長崎市民の斷じて許さゞる所である。於茲我等市民は敢然立つて市民大會を開催し、以つて電燈電力の値下げに向つて勇往邁進し以て目的の貫徹を期するものである。

右宣言す

昭和三年九月二十三日

要求項目

一、電燈、電力料金を二割下げよ。

一、電力開閉の申込金を撤廢せよ。

一、料金滯納猶豫期間を三ヶ月に延せ。
一、工事費を低減せよ。
一、休燈料を撤廢せよ。
一、會社は需用者に對する不遜の態度を改めよ。

決議

長崎市民大會は共益事業の美名に隱れ時代逆行の暴利を貪る東邦瓦斯株式會社に對し絕對的値下を要求す
右決議す

昭和三年九月二十三日

長崎市民大會

終つて永久座、八幡座において大演說會を開き、大いに全民衆の歡迎を受けた。聽衆約千名、森・伊藤・藤原君等出演した。（以上）

長崎市一市民生

長崎戰報二

長崎紡織會社では、不景氣對策として十月一日現在使用せる男工四百名、女工千六百名に對して、日給約二割引下げを發表した。勞働者の不平不滿は極度に高まり、日本勞農黨長崎支部の應援を得てストライキに入つた。

檄

全國の同志諸君！

反動の波に乘つてヒシヽ押し寄せ來る資本の攻勢は全國到る處に賃銀の値下げ勞働時間の延長人員の陶汰臨つて失業者の續出等一大社會不安を現出せしめてゐる。

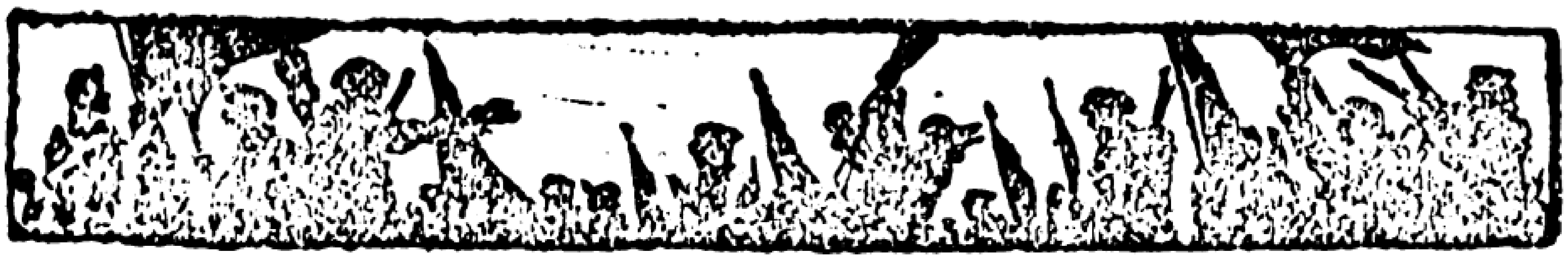
折柄我が崎陽の地に於て有數の大會社たる長崎紡織株式會社では從來幾度か待遇の改善を爲し來つたが、更に今回突然賃銀二割値下げを發表し、十月一日より實施せんとしたのである。

今や三千の從業員は最後のパンの一片をもぎ取られんとしてゐる斯くの如き我等の生存權をも蹂躪せんとする横暴な待遇の改善に對し如何に從順なる勞働者と雖も敢然として起たざるを得なかつた。然して去る二日午後二時夜勤者男女工一千名は正門を叩き破つて雪崩れ出で藤田ビルに引上げたのである。然るに不意を喰つた會社は狼狽おく處を知らず翌朝五時半二十數名の警官隊を使嗾して罷業女工の取り戻しに押しかけ來り、暴力を振ひて寮内に亂入し無理に女工を引出してしまつた。此の間警察は傍にありて只傍觀するのみにて横暴なる切崩しを默認し爭議團側の戰闘分子を續々と檢束し、未曾有の迫害と彈壓の下に我等の姉妹はさらわれてしまつたのである。噫！呪ふべき迫害よ！憎むべき彈壓よ！然し乍ら我等は四圍の狀勢上止むなく涙を飮んで傍觀しなければならなかつた。

然し數百の男工は屈服せず、斯くの如き迫害彈壓と戰ひつゝ持久戰に入つた。正義か？然らずんは死か？我等は悲壯なる決心を固めた。

全國の同志諸君よ！我等の爭議を勝たしめよ！資本の攻勢と横暴なる反動政策とをして凱歌を揚げしめよ！資本の攻勢と横暴なる反動政策をなして凱歌を揚げしめるな。

各地の兄弟諸君！人と金とを送れ！



積極的に應援を乞ふ。

昭和三年十月四日
長崎市樺島町磯山ビル
日本勞働組合同盟九州聯合會

軍官學校報告

日勞黨の中堅分子養成の目的をもつて生れたところの關西軍官學校の結果を報告する。

その講師及び卒業生を見るならば

經濟學……辰巳經世
近世政黨利權論並に政治學……坂本勝
支那革命論……後藤貞治
組織宣傳術……淺沼稻次郎
財政學……河上丈太郎
無産者法律論……吉田賢一
一般戰略社會主義概論……岩崎正三郎

卒業生

（鳥取）赤尾源太郎、平木光（神戸）湯田有國（鹿兒島）宅間森右衛門（徳島）北央夫（島根）山本秀一（和歌山）土屋秀一（兵庫）田榮、大西松治、杉本隆行、（奈良）島谷與志雄、以上十一名

軍官學校は盛會裡に九月廿三日開校され、同二十九日終つた。二十九日の夜同校主催で戰爭反對大演説會開催の豫定であつたが、廿六日から學校幹部總檢束の厄に遇つて開く事が出來なかつた。學校幹部の中、吉田、谷口、前田の三君はいづれも進め社の同人である事を付加しておく。支配階級の彈壓は愈々激しい。

出鱈目に苦しむ百姓

團結せよ

（大阪一讀者）

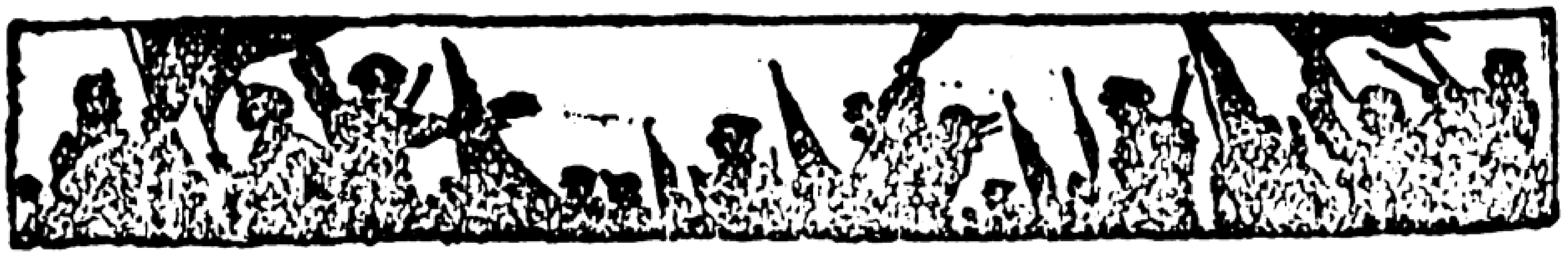
大豐作と聞いて呆れる、政府の發表によれば平年より四百萬石の增收だと云ふ地主等は得意滿面で、「こんない丶年に爭議の起る理由がない」とささぼけてゐる。

おれ達小作人には大凶作だ。地主の機關である縣農會の報告を綜合した政府の數字はウソでかためてあるのだ。凶作か豐作かは、ほんとうに稻を作つてゐる、百姓がいちばんよく知つてゐる。彼等の魂膽はこうだ。豐作だ。豐作だとおさへつけて爭議を起させまいとの考へなのだ。

地主の機關が如何に農民を愚弄してるかを一例として報告しよう。他縣は知らないが我が茨城縣の米の檢査制度の出鱈目には呆れて了ふ。稻敷郡の某村では檢査の前日、檢査員を上座にして村中の百姓達が無い財布をはたいて酒肴の用意をして御馳走する。檢査員は好い氣になつて村の娘さんにまでふざけ廻る。

何故こんな御馳走をせねばならぬかと云ふと、御馳走をせぬと、米の等級を下ろとか馬鹿に規則通りに嚴重にしたり手におへないとの事である。縣農會なぞの不良ぶりはざつとこの通り、こうした連中の報告がアテになつて堪まるものか。地主の手先になつて百姓をいぢめる奴等の云ふ事を眞面目になつて聞いてをれるかい。

何が豐作ぢや、小作爭議はかまはんから、どしどし横暴な地主に要求をたゝき



つける。

秋の農民闘爭を小作人の大衆的政治闘爭にまで高めねばならぬ。

全國農民組合の旗の下に。

（茨城、高川久治）

毒ガス防止に起つ王子の戰線

大日本人造肥料株式會社王子工場より吐き出す亞瓦斯の防止に就いて、各無産政黨は協同して協議を進めてゐたが、遂に近人肥亞瓦斯防止同盟創立準備會を組織し十月十二日夜王子町に町民大會を開催して火蓋を切つた。聽衆二百五十人、司會者長山直厚（無産大衆黨）氏の開會の辭に始まり、左の如き、スローガン、決議を定めた。

スローガン

一、亞ガスを完全に防止せよ！

二、今迄の損害を全町民に賠償せよ！

三、從業員の衛生設備と勞働條件を改善せよ！

四、煎熱部を移轉せよ

決議

貴會社王子工場は設備不完全にして有害ガスを王子町及び江北村等に彌漫させ、住民に多大なる損害を與へたのみならず、人體に害毒を與へ、民衆の生命を損ひつゝあり、然るに利潤の追求に汲々として、之を顧みず、害毒に惱める住民が貴會社を糾彈すれば惡辣なる買收手段を講じ、或は壓迫に、何等誠意を以て改善を加へず、企業を營んで社會生活を破壞しつゝある。

吾が同盟會は町民大會の決議によつて、貴會社に左の要求をなす。

（要求は（スローガン）と同樣なれば略す編者）

右決議す。

昭和三年十月八日

人肥毒ガス同盟會

王子町町民大會

實行委員として、石井幸太郎氏（王子町會議員）五十嵐茂登彌、臼倉惣次郎（王子町）齋藤八十八（江北村）新黨準備會、大衆黨、日勞黨、社民黨より名一名乃至三名の割合で選出する。

全國の同志諸君、企業勝つか、無産者勝つかそれは一にかゝつて民衆の後援の如何によつて決せられるのだ。吾々は人道を無視した三井財閥の專横に反抗し、毒ガスに惱む王子町民の健康の爲めに飽くまで戰はねばならぬのだ。

王子町山本生

編輯部戰報係より

戰報と投書をどし〳〵送れ。聲明書、ビラ何でも結構だ。寫眞なら尚更だ。

「進め」を大衆雜誌たらしめるには是非それが必要なのだ。農村から、工場から、いやしくも、貧乏と無産階級のあるところ、小作人と地主、資本家と勞働者の對立があるところ其處には、あらゆる不平不滿があるべき筈である。そして生存權確立の悲痛たる要求があるべき筈だ。大衆運動が捲起されるべき筈だ。其處には、戰報が必ずあらねばならぬ。腹藏なき戰報を進め紙上から、資本家地主にぶつつけろ。全土の民衆に訴へよ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

日勞黨第五回擴大中央委員會の批判

羽田光雄

日勞黨合同方針の展開

日本勞働組合同盟が九月二十二日の中央委員會において、無產政黨合同の態度を明かにし、次いで同じく日勞黨支持團體の一である全國農民組合の舊全日系の態度も明白になるに至つて、日勞黨は分裂するではないかとの杞憂を抱かしむるに至つた。

即ち、組合同盟は、「日勞黨が單獨に無產大衆黨と合同する事は現下の狀勢において一大階級的大衆黨の結成に支障を來たすものとして反對し、社會民衆黨との合同は日勞黨の立黨の精神である階級的大衆政黨の結成の爲めの妥當なる第一步と認めこの促進に努力すべく決議した」之に對して後者は、「日勞黨は無產大衆黨とこそ合同せねばならぬと決議した。この對立は、單に支持團體別のものであるが、地域的に云ふならば、關東の日勞黨幹部は概して無產大衆黨と合同すべしとする舊全日の意見と同意であり、關西に於ける日勞黨幹部は組合同盟の意見を支持すると見て差支ない。全農の一部であり、關西における日勞黨幹部は、內心において組合同盟說を支持しながらも、自己の立場からして否應なしに全農の多數意見に引づられ、同時に組合同盟の幹部であつても內心全國農民組合の態度を支持しながら、之亦自己の組織上の立場から引づられてゐるものもあり、內部關係は可成り複雜を極めてゐるものゝ如くである。

日勞黨內の工場勞働者が社會民衆黨に近寄らんとし、農民團體が左翼政黨へ行かんとするのは甚だ矛盾せるものとも見える。しかしながら、これは組織を目標とせる組合の態度としては止むを得ない狀態の下におかれてゐるからである。即ち、組合同盟は、日本における最も强固な組織と戰鬪力を有してゐるのは何と云つても總同盟であると見てゐる。組合同盟はこの總同盟への接近を最も緊急の關心事としてゐる。殊に總同盟の關西大衆の進出を目のあたり見ながら、これと戰線の統一を阻害する一切の試みに全力を傾けて反對して

ゐる。この立場から、組合同盟及び關西派の日勞黨幹部は現在において無產大衆黨との單獨合同は躍進する總同盟との提携を阻害するものと認識した譯である。

之に反して、全國農民組合の舊全日は、先に極左小兒病を清算した舊日農と合同したばかりの生々しい組織をもつてゐる。殊に、舊全日の幹部がかつて日農の小兒病的態度に憤慨して飛出し日勞黨に參加しこれを組織した關係から見ても元來左翼的な畑に育つてゐるこの點、組合同盟が總同盟から分離して出て來たのと決定的でないまでも相違してゐると見ねばならない。其處で舊全日は新黨準備會に立てこもる舊日農を自己の指導勢力下におくためには、新黨準備會の誤謬を精算しながら結黨した無產大衆黨の助太刀を最も必要とするのである。全農にとつては、何等農民の上に勢力なき社會民衆黨は全く論外の存在である。以上の論述によつても知られる如く、日勞黨内の對立は、一つには思想的な開きもあれ、それを尖鋭ならしめるものは組織上の問題であると云つても過言ではあるまい。思想的に社民との合同を支持しながら、結局組織上の力におされて引づられ、一方左翼の大衆黨と第一步的に合同せねばならぬと思ひながら、之亦組織上の立場からそれに引づられてゐる人々の多きを見る時、組織上の必要が、對立を尖鋭ならしめた事が首肯されると思ふ。

しかしながら、かく明瞭に對立はしたものゝ、分裂を賭してまでやらうとする樣な非階級的不純な意企の上に立つてなされたものではなかつた。單一大衆黨結成といふ日勞黨立黨の大精神の上に立つて、これがその理想實現の爲めに便利であり、近道であるかといふ事の大衆的討議が集中された事の表現であつた。それは内訌と見做すべきものでなく、むしろ、合同への具體的狀勢の前提である。今迄の樣に單なるカケ聲の時代から、實現の時代が來た事を示す、されば、大衆的討議が白熱化するのも當然であらう。

然るに、事あれかしと願つてゐるところの大右翼結成論者、極左小兒病の一派は日勞黨は分裂するぞと拍手してゐたのだ。

こゝにおいて、日勞黨は、左の樣な意味の聲明書を九月二十五日の中央執行委員會の名によつて發表する事になつた。

「我等の期するところは全無產政黨の統一、我等の目標とするところは階級的一大大衆黨の結成、而してそれが支柱を爲すものは我黨の外には無い。

外界の揣摩臆測に拘はらず、我黨は微動だもしない（前後略）」

即ち、日勞黨は、社會民主主義者も、共產主義者も共に合同すべしとする大衆政黨論の下に戰ふ事を明かに聲明したのである。

そうした、狀勢の下に期待された十月七日の擴大中央委員會は開かれた。

御承知の一大事として集まる者滿場を埋め、熱烈な質問討論が開始されたが（本號高見氏の傍聽記參照）結局、大右翼結成、及び大左翼結成の名の下に行はれる統一論は無產黨を永遠に分裂せしめるものであるからして飽迄單一大衆政黨實現の爲めに邁進す云々の決議を發表する事になつた。

×　×　×

この決定に就いては盛んに討議されたのであつたが、その重なるものは、この決議では、日勞黨は左右兩翼が共に合同する機運にまで到達せねば合同が出來ぬ事を語るものであつて、結局何時迄經つても合同は出來ぬ、それよりもすぐにでも合同出來る大衆黨と合同すべしといふにあつた。しかし、かゝる態度を取るならば、單一大衆政黨實現の爲めの統一戰線の柔軟屈曲性ある働きかけを放棄するものであり、黨内の不一致を來たすや明かである。もし、かゝる偏狹な態度をもつて、日勞黨の不一致を表面に表はすならば、單一大衆黨主義の破綻を物語るものであり立黨の精神は夢となる。殊に、關西派日勞黨の態度が大右翼結成に絶對に反對するものであるにおいておやた。日勞黨の對立が組織上における戰術の相異からくるものであり、單一大衆政黨主義を絶對的に支持するものである以上、兩派の活動を充分ならしめる爲めにこの決議は絶對に必要であつたのだ。この決議の下においてのみ、柔軟屈曲性あるところの統一戰線の戰術は有効となるであらう。

元來單一大衆政黨主義は眞正左翼の進むべき道である。大衆の上に左翼勢力の確立を強固ならしめる道である。大右翼結成論者、及び極左小兒病患者はこの單一大衆政黨主義をボイコットする事により、分裂を永遠のものたらしめんとする本質がある。前者は意識的に協調主義に墮し、後者は小兒病者の故に左翼勢力の強大を夢にたに企圖しない。されば、單一大衆政黨確立の爲めに柔軟屈曲性ある方針を定めて、統一戰線の働きかけを可能ならしめたところに日勞黨擴大中央委員會の意義がある。それは單なる妥協策ではなかつたのだ。

單一大衆政黨主義――統一戰線の働きかけは國際的にも國内的にも左翼の戰術として用ひられてゐる。吾々は如何なる大右翼結成論者の反對があつても、その指導下に大衆の存在する限りこの戰術は執拗に繰返されなければならぬ。

元來日勞黨は單一大衆政黨の一典型たるの觀がある。即ち、黨内の構成分子の中には、社會民主主義者もゐるであらうし、又、左翼共産主義もあるであらう。されば、もし、黨内の對立が高まつて、兩派共に支持してゐる單一大衆黨主義をブチ破つて分裂でもしたら遂にその責任なる輕蔑は免れざるを得ない。否、單に輕蔑のみに止まらない。單一大衆政黨の誤謬を常に高く揭げる大右翼結成論者に愈々口實をあたへるのみである。これは、左翼の統一戰線の戰術の上に決定的な失敗を作るものである。されば、黨の内外を問はず同じ單一大衆政黨主義を奉ずるものは、日勞黨の分裂を極度に防禦しなければならぬ。その爲めには黨内の兩派の活動を包容する柔軟屈曲性あるところの方針を定め、立黨の精神の下に戰はされねばならない。一方的方針は警戒しなければならない。この意味において、執行委員會決議第二項より、擴大中央委員會の第一項がはるかに正當であると云はねばならない。

吾々は以上の立場から、日勞黨第五回擴大中央委員會の意義を過小評價するものではない。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

各黨各派の批判の批判

この日勞黨の擴大中央委員會を、他の無産黨は何と見たか。

社會民衆黨内の大右翼結成論者は、日勞黨對立萬歳で、その分裂を待つてゐる「合同論の裏から脱黨組出」なごと書き立てゝ拍手してゐる。そして、日勞黨内の關西派、及び組合同盟が右翼結成論は絶對に反對で反つて、大右翼結成論から脱却しようとする先進分子との固き握手の獄吠たと見てとるや、憤慨してゴシップぐらひ飛ばしてゐる「日勞黨立黨の精神に依り社民黨との合同を策して失敗、無産黨合同の喜悲劇一幕、之をもつて第一卷の終り」だと。ところが、その喜悲劇は日勞黨が大右翼結成に賛成するとでも思つた一部幹部諸君自身ではないのか。

次に新黨準備會。

これは結黨せねば頭から相手にされぬので無産大衆黨と日勞黨との喧嘩を煽つてゐる。日勞黨がかつては「單一絶對條件」今は「結黨してから」などゝ條件のみもち出すから、合同運動の裏切りものだなどゝ毒づいてゐる。大衆黨に向つては、曰く「大衆なき大衆黨との合同は何等用なしとの組合同盟の一蹴によつて、彼等の線統一の大方針は無殘にも粉碎されて了つた。さらに日勞黨の「大衆黨との即時單獨合同は我黨の合同方針完成の上に支障あるものと認む」との決議によつて彼等の非階級的陰謀は全く手も足も出ない破目になつた」と笑つてゐる。

次に無産大衆黨を見よう。無産大衆黨の見解は、合同問題の上に一番重要に取あつかはなければならぬ。

十月二十日發行の無産大衆新聞は語る。先づ關東における社民黨大衆進出の意義を論じて云ふ。

「現に大衆は（社民黨）全合同へ進みつゝある。

（一）關西大衆に、先づ日勞黨との合同のためにその官僚的黨幹部の邪右をはねのけ、關東の右翼幹部と果敢に鬪爭して來たが、その先進分子は、更に進んで無産大衆黨をもふくむ合同に突進せんとしてゐる。……」

以上の見解が、關西の日勞黨幹部との認識の相異點になるらしい。日勞黨關西派幹部は、社民大衆の進出はまだ無産大衆黨をふくむ合同にまで進んでゐないと認識し、こゝに戰術上の相異があらはれ無産大衆黨との合同は、現在において單一政黨合同方針完成の上に支障あるものとしてゐる。

無産大衆黨の考へ通り、社民大衆が進出してくれば、單一政黨主義の上にいゝ事であるが、必ずしもそうした狀勢とは云へぬ。無産大衆黨はこういふ獨斷論をもつて、關西派日勞黨幹部を大右翼結成論者かの如く見做す事は單一大衆政黨主義實現の上に重大なる結果をもたらすことだ。日勞黨としては關西派幹部の愛黨心の上に立つた認識と戰術を容認した前述の方針を取るのが正しかつた。これは自由自在に理想實現の戰術が使ひ分られるといふ意味において、又無産大衆新聞がいふ樣に九月五日の「無産大衆黨との即時單獨合同

は現下の情勢の下においては、我黨の合同方針完成の上に支障あるものと認む」との一方的決議から、無産大衆黨云々の文字を抜いて「適當なる時期において各黨に對し合同を提議すべし」と無産大衆黨をふくめての合同方針を取るに至つて愈々正當化したと見るべきである。無産大衆新聞は、新黨準備會の蹶起を突ひ返して云ふ。

「擴大中央委員會（日勞黨）において、彼等（新黨準備會）を有頂天ならしめた決議の第二項は削除された。しかも青森、秋田、新潟其の他多數の代表者によつて、わが無産大衆黨との即時合同が力強く叫ばれたのである。お氣の毒にも新黨準備會との合同は一言も聞かれなかつた」と。しかし、最後の新黨との合同論が一言もなかつたといふのはデマゴーギである。會議の席上、和歌山縣代表によつて新黨との合同も考慮の中に入れておかねばならぬとの意見があつた。

無産大衆新聞は續けて日勞黨の擴大中央委員會の決議を批判する

「一、日勞黨は單一階級的大衆政黨を實現する具體的方法として即ち段階として、わが無産大衆黨との即時合同の要求がおこつたのである。決議は逆轉してその點を明確にしてをらぬ。

二、同時に大右翼結成を宣明せる社民黨の右翼幹部の結成運動即ち他黨の分裂策動に對する態度方針が明確にされてはならぬ

三、「各黨に對して合同を提議する」時期は適當なる時期と云つてあいまいにされてゐるが、今日はその時期又は具體的方法を決定すべきときである。」と云つてゐる。

日勞黨第五回擴大中央委員會の決議は本號新政治見聞子氏の解説記事の中に挿入してある故、略く。

× ×

（二）の批判は的はづれである。決議の第一項において大右翼結成に反對するとはつきり云つてある。

（三）の問題は（一）の問題が解決されて、はじめてはつきりする事である。

（一）の批判に就いては、すでに述べた樣に一方はその一段階として大衆黨との合同を唱へた事は勿論だが、他の一方は社民黨との合同を最初の段階として唱へた。さればこそ、戰術上の對立が展開されたのである。一方的決議は黨内を危險化せしめるものである。されば組合同盟、及び關西派幹部も讓歩して、無産大衆黨との單獨合同に反對す云々の言葉を決議から削除したではないか。これも單一大衆黨樹立の理想實現の爲ではなかつたか。そして、その爲めに柔軟屈曲性ある、換言すれば、自由自在に兩派の戰術が相抵觸せずに使ひ得られる方針を樹立したのではないか。無産大衆黨との單獨合同反對なる一文が決議から姿を消したと云つて、日勞黨内の大衆黨との合同論が勢力を増したなどゝ自惚てはならぬ。そして今度は逆に無産大衆黨との合同の重要性が決議に上に現はさぬは誤謬だと暗に示唆する如きは、現段階における單一大衆政黨主義にとつて正に危險なる事であらねばならぬ。

時事日誌

自九月二十一日
至十月二十日

■九月二十一日 金
全國農民團體會議日勞黨本部に開催、香川縣下農民組合再建策が樹立す

■九月二十二日 土
日本勞働組合同盟は日勞大衆兩黨の合同は階級的大衆黨結成に支障ありとし、社民黨との合同は其目的に必然なる第一歩なる旨決議す
舊勞農黨新黨準備會は合法政黨結黨に決定幹部試案を發表す

■九月二十五日 火
日勞黨中央委員會は合同問題には現狀維持の方針を執る事に決定

■九月二十七日 木
社民黨は他黨への合同提議はせず、大右翼結成に邁進する旨聲明す

■九月三十日 日
獨乙ハンブルグに於て、共產黨員と共和黨員衝突し死傷二百名に及ぶ

■十月一日 月
陪審法今日より實施
日比谷公園角にて無政府主義者大島英太郎(二四)直訴を企つ
滿州撫順炭坑に爆發起り坑夫五千人慘死
英國勞働黨年次大會バーミンガムに開催
左翼排除案分離
上海郵政局の郵務工會二千五百名罷業、天津郵務工會も罷業
第一回米收穫豫想六千百卅萬石と發表さる
東京市電自治會要求容れられず怠業

■十月三日 水
支那國民政府組織法發布、即日實施
英國勞働黨年次大會は來年總選擧に對する政綱可決
1. 炭坑運輸機關動力土地生命保險は公營とし、勞働組合法廢止
2. 銀行は國民全體の利益を考慮すべし
3. 最低賃銀法を有効に實施すること
本年度米實收高二千八十二萬石、昨年より二分五厘增

■十月四日 木
印度ボンベイ紡績罷業解決

■十月五日 金
上海郵局罷業解決

■十月六日 土
米國マサチユーセツツ州紡績工場二十五工場三萬三千人は今春來賃銀減額に反對罷業中の所、五分減を以て解決

■十月七日 日
波蘭クラコウロッツ其他の織物業職工の大罷業は各所に流血の慘狀を呈す
勞働總同盟第十七回大會は大阪にて三日間開催
日勞黨擴大中央委員會は單一無產黨實現に努力する旨決議す

■十月八日 月
支那國民政府幹部氏名發表右傾の色彩顯る

■十月十四日 日
東京[illegible]會解散即時斷行要望を決議す
工場法改正案、健康保險改正案、勞働者災害扶助法、救護法、船員保險法を來議會に提出に決す

■十月十六日 火
米國十五石油會社は輸出聯合會を組織す石油のトラスト化

■十月十八日 木
南京に於て濟案解決の日支交涉開始

■十月二十日 土
日本農民黨第三回大會開催、合同問題の態度決定保留

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

現實主義の評價

吉田源藏

日本勞働總同盟の第十七回全國大會では、「現實主義」と云ふことが、徹底的に強調されたが、その「現實主義」とは、同大會の席上、松岡氏によつて、野田の爭議に關して、縷々陳述せられた、「我々は階級鬪爭を激成する爲めに行つたのではなく、頑迷なる資本家諸君に警告を發したのである……」との言葉によつて、それは、改良主義であることがヘツキリしているが、改良主義なれば何ち右翼のみの專賣ではない。

吾々は、權力がブルジョアジーの手中にある間においては、改良……即ち勞働者の境遇改善を目標とする鬪爭を、決して輕視するものではない。たがしかし、吾々は、改良の爲めの鬪爭と同時に、改良の爲めに、勞働階級の前進と活動を制約せんとする改良主義者―即ち現實主義者……頑迷なる資本家諸君に警告を發するだけの仕事に止まつている人達―に對しては決定的に鬪爭するものである。何故なれば、改良主義は資本の支配が存在する限り、個々の改善にも不拘勞働階級は永久に賃銀奴隷としておかれるものであり、その爲めにブルジョアジーが、勞働階級に投げ與へる石斷子であるからだ。

改良主義が如何にブルジョアジーにとつて必要なものであるかは、既に全世界の經驗が充分に示している。改良主義はプロレタリアの團結を分離せしめ、一度與へた改良を直に奪還する。此のブルジョアジーの改良の欺瞞政策は、たいてい自由主義者が代はつて實行する。彼等によつて爲される改良は、それがたとへ、純眞なる動機から出發していたとて、實際においては、結局勞働者の力を殺く以外の何ものでもない。

現在の日本の階級戰線の分裂も、何が一番統一の妨碍になつているかを見れば直に分ることである。そして、このことは、もはや我が國の戰鬪的プロレタリアートは意識しつゝある。總同盟第十七回大會に於ても、現實主義と既に相容れないところの、階級意識がヘツキリしておつた。たとへば同大會に於ける議案の、「勞働組合總聯合に關する件」「産業合理化に關する件」等に於ては、現實主義の馬脚を全く暴露した。

戰鬪的勞働者は、資本の支配が存續する限り、賃銀奴隷の不可避であることを意識し、自由主義ブルジョアジーの如何なる改良主義の呼聲にも應じなくなつて來た。

たが吾々は、改良を、従つて現實問題を決して等閑に附してはならない。吾々は資本主義の存在下に於ける現實主義が、決して、眞面目な、誠實なものでないこと、そして、そ

れが勞働者を賃銀奴隷として永久におかれるものであることを認識しつゝ、改善を利用して、階級闘爭の發展と擴大の爲めに闘爭せねばならない。

もしも吾々が改善主義に對してかゝる認識を持たないなれば、既に「頑迷なる資本家諸君に警告する」と云ふやうな現實主義者の影響が大きくなり、それが大きければ大きいだけに、勞働者の力は弱められるのである。從つて、それでは個々の改良さへも實際には出來ないことになつて終ふ。卽ち「頑迷なる資本家諸君に警告」した例へば「團體交渉權」「團體協約權」等を得たとしても、それは、より多くブルジョアジーに隷屬したことになるからである。

かゝる改良主義—現實主義の害惡は、それの過重評價に原因してはいるが改良主義の評價による害惡は、獨り現實主義のみによつて爲されるものではない。プロレタリアートを賃銀鐵鎖から解放することを一手に引き受けているかに考へているところの、革命主義者も、區分と「改良」の「か」の字も行はれない害惡を流している。革命主義者によれば、改良は堕落するから不可ないものであつて、「村民大會」「工代會議」等によつて、「すべての人民に自由を與へよ」とのスローガンの下に、「ソビエット」を作り「總ての權力をソビエトへ」と云つて「蜂起」せねばならぬのたそうたある。從つて勞働爭議にしても、小作爭議にしても、解決を度外視して「階級意識」を闘かひ取ればよいのである。

卽ち勞働者の要求や、小作人の主張—當面の改良—はどうでもよいのであつて、これは改良の過小評價から來るものである。

かうした革命主義はインテリゲンチヤによつて指導され、此の兩者の本質は共に小ブルジョアーであつて、小ブルジョアーは、有産者社會意識の最惡の意識の代辯的階級である。そして何れも、それの結果は改良のかの字も出來ない結果になる。

改良主義者は、プロレタリアートをブルジョアジーに隷屬せしめて、改良を裏門から取り返され、革命主義はプロレタリアートを改良の裏門を塞いで仕舞つて、表と裏と兩門からプロレタリアーの腹を空にして仕舞ふのである。昔からよく言ふことだ。「腹が減つては戰ひが出來ぬ」と吾々は腹を膨らさねばならぬ。だが吾々の腹を膨らませるのは、決して睡氣を催す爲めであつてはならぬ。戰ひをする爲めであらねばならぬ。

吾々は、吾々自身によつて爲さねばならぬ眞の「改良」を把握せねばならぬ。

階級闘爭の發展と擴大の爲めに「現實主義」を吾々の手に闘かひ取らねばならぬ。

「現實主義」を戰闘的プロレタリアートの手に！

—（をはり）—

石山賓吉著
日勞パンフレット第一編
惡税撤廢の叫び
一部十錢　本社取次

問題の解說

國民政府の內容

十月三日、國民政府組織法が發布され、即日施行の運びに至り、次いで武漢革命の記念日である双十節、――十月十日を期して、政府役員の顔觸れが發表され、その就任を見た。打倒帝國主義、打倒軍閥のスローガンを掲げ三民主義の大旆をかざして全國的統一の目鼻をつけた國民黨の反革命的本質は幾度か本誌上にも紹介されたが、國民黨の最高機關たる全體會議――これは二三年間に一回位しか開かれてゐない――の下にその執行機關たる國民政府がある。國民政府の最高機關が十六名からなる政府委員の組織する國務會議で、これを代表する者が政府主席である。更に其の下に五院があつて、立法、司法、行政、監察、考試、に分れてゐる。(これは孫文提唱の五權憲法によつたものだ。軍事は政府委員の直屬で、何れの院からも獨立してゐる。

政府主席は蔣介石氏、政府委員は彼と他の十五名とで、其の顔觸れを見ると、國民黨右派の元老、西山兩派が六名、浙江派二名、無所屬の學者が二名外に馮玉祥、閻錫山、孫科――(孫文の長子)張學良で、國民黨右派の元老西山兩派が大勢を支配してゐる。元老派も西山派も名を異にしてゐるが實は同じもので、支那ブルジョアジーと密接な關係があり之が代辯者たる役割を努めゐるものである。政府委員陳果夫は西山派で有名な抹殺派であるのでも分明だ。また蔣介石の代表者する浙江派なるものは山紫水明物資豊富な浙江省を根據とする浙江派財閥を背景とするものであり、太子派の首領孫科は都偉――海外に在るブルジョアー――の支持を受けてゐるこそ元老派同様である。斯く純粹に支那ブルヂョアジーの支持による抹殺者、十六名中九名を占めそして廣西派も浙江派にほゞ近いのだ。殊に滿洲を抱込む策として張學良を入れた事は國民政府中にも大分異論がありもしたが、蔣介石が職を賭して反對論を一蹴した事は彼の獨裁主義者たる本領を發揮したものであると聞く。

進め案內

一行六號二十字詰 三行迄 料金一圓
申込 進め社宣部宛
問合 右宛(返信料封入ノ事)

幸徳秋水氏珍藏の書籍、英書等(幸徳氏の署名あり)右相當の條件にて讓りたし (東京芝、愛讀生)

社會主義綱領 片山潜編輯 東京社會新聞、西川光二郎編輯、破帝國主義論、山口孤劍著 高價に讓り受く (姓名在社一番)

二十世紀の怪物帝國主義、幸徳秋水著 右の再版至急に受けたし (姓名在社二番)

堺利彦編輯社會主義研究、明治三十九年發行 右御所持の方御讓り下さい (姓名在社五番)

無產階級戰鬪雜誌進め創刊號より七號まで 賣りたし但し三十圓以上 (姓名在社六番)

理解ある士に讓れたし、勞力二十五號、大學左傾、大衆、社會思想、雜誌、新興科學、經濟、振替校正等あり 西ヶ鴨町二五一三高田方ドハ

平民主義 幸徳秋水著 至急讓り受けたし (姓名在社八番)

レーニン著作集全卷揃 右安價にて至急希望者に讓り渡したし (姓名在社九番)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

時に、國民政府の極右翼化、反動化を物語るもので、右于仁や陳友仁などの國民黨左派を全然除外し去つた事は、國民政府の前程が、支那ブルヂョアジーの爲めに用意された事を意味する。

次に注目すべきは、五院制度である。現在までのブルヂョア各國の憲法は、モンテスキューの三權分立主義に基く、司法、立法、行政の三機關併立を原則としてゐた。所が孫文提唱の五權分立主義が生れ、國民政府は之に依つた譯である。監察院は、日本の會計檢査院が内閣直屬の機關である如く、政府委員會――國務會議――の直屬で、全國農民組合に於る統制部を大にした樣なものである。考試院は支那古來の考試制度から生れ、國家試驗制度の樹立と運用を司る。また圖の如く軍事は國民政府委員會に直屬する。そして、これを通覽すると、國民政府は、蔣介石、胡漢民、譚延闓の三巨頭を中心として、各地財閥を背景とする各派の聯合したものである。李濟琛が廣東で排日運動を嚴禁し、共產黨員の彈壓してゐる事や、上海天津に於る郵務工會の罷業が國民黨中央黨部の指導下に行はれて居ながら、國民政府の干渉と壓迫で復業した事等其他内的にも色々な證左がある。紙面がないので詳細は後日に譲る。

國民政府組織一覽

政府委員

蔣介石、陳果夫、胡漢民、何應欽、戴天仇、李宗仁、譚延闓、李濟琛、蔡元培、張繼、王寵惠、閻錫山、馮玉祥、林森、孫科、張學良

政府首席

蔣介石

- 立法院長—胡漢民
  - 副院長—林森
- 司法院長—王寵惠
  - 副院長—張繼
- 行政院長—譚延闓
  - 副院長—馮玉祥
  - 内政部長—閻錫山
  - 外交部長—王正廷
  - 軍政部長—馮玉祥
  - 財政部長—宋子文
  - 交通部長—王伯群
  - 鐵道部長—孫科
  - 工商部長—孔祥熙
  - 農鑛部長—易培基
  - 教育部長—蔣夢麟
  - 衛生部長—薛篤弼
- 監察院長—蔡元培
  - 副院長—陳果夫
- 考試院長—戴天仇
  - 副院長—孫科
- 軍事參議會々長—李宗仁
- 參謀部長—李濟琛
- 訓練總監部長—何應欽

日本に於ける社會運動家直接執筆者によつて次の値段にて依頼に應ず、照會を乞ふ
短冊　一圓、三圓、五圓
色紙　三圓、五圓、拾圓
軸物　五圓、拾圓、貳拾圓
社會運動者後援會（本社扱）

高尾平兵衛氏の寫眞及直筆等相等價格にて買ひたし（姓名在社十四番）

日本現下之下層社會、横山源之助、明治三十年頃發行　右書籍譲られたし（研究好み生）

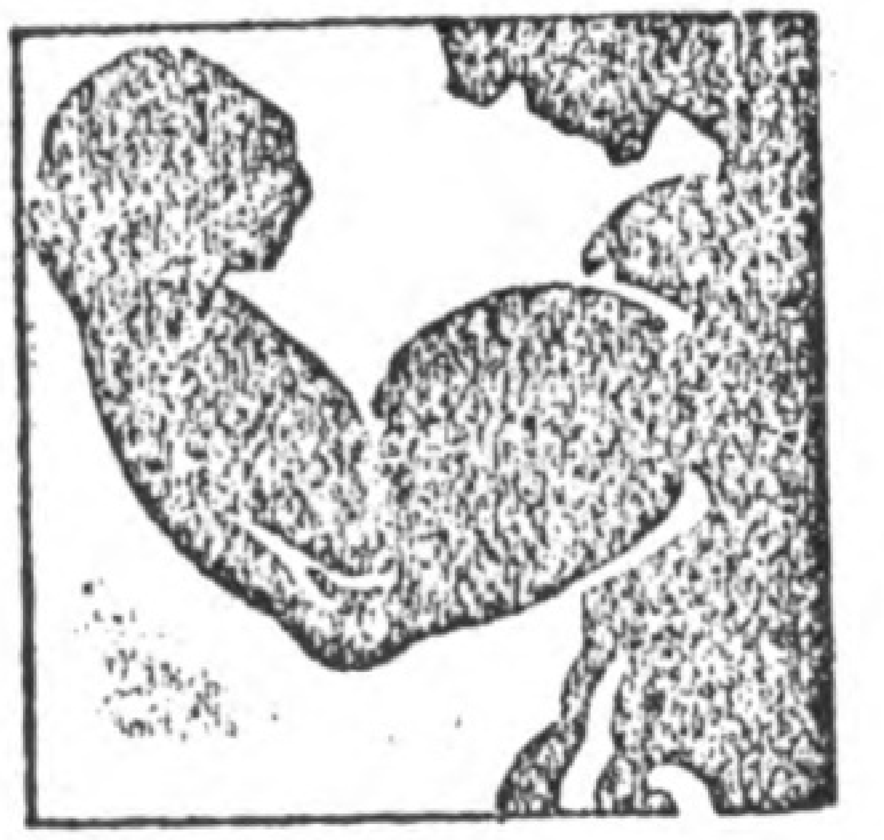
大正七八九十年頃の社會運動の資料ビラ、ポスターの類を保存す。同好保存の士と交通を希望す。小生同好愛藏の士と互に愛藏する種類目録を交換し、東京にて展覽會の如きを開催したき希望を有するものなり（進め社氣附T生へ）

幸徳傳次郎氏著「キリスト教抹殺論」お譲り受けたし、又は責任を以つて拜借するも可なり（秋水黨員）

友愛會日本勞働總同盟時代の機關誌「勞働及産業」何部にても譲り受けたし（姓名在社十五番）

英文讀解、應依頼、社會主義的のもの殊に得意とす。（進め本部經由、山川遊止）

大正七、八年以前、明治初期迄の社會運動勞働運動の諸種の文書文献寫眞等所持の方は其内容明細に御一報を乞ふ。ものに依りては相等の代價にて譲り受けます。
日本社會運動資料保存協會
日本社會運動資料編纂會（進め社扱）



講座

社會政策の本質

第五十六議會の欺し太鼓に具へよ

清水寛一

一

ブルヂョア政治家は、ブルヂョアジイの代辯者である。その番頭である。元來ブルヂョアジイはその基本的存在において、無產階級と對立する、無產階級の搾取の上に立つてのみその存在の根據がある。しかし、彼等は表面はつきりそんな事は云はないブルヂョアの利益をこつそりと全人民の名の下においてたくらむ。階級對立をぼかそうとする。ゴマかそうとする。こゝに所謂社會政策の發生の根據があり、ブルヂョア政治家の最大の仕事がある。

何故、ブルヂョア政治家は之を最大の任務として意識し、努力するのであるか。それは階級社會の發展の生みもたらすところの、ブルヂョアの存在を根底からおびやかす無產階級の運動が如何に抑壓しても激しくなつて行く狀勢に、恐れおのゝくからである。この無產階級運動に人民を奪はれては、それこそ一大事である。天下のひつくり返る騒ぎとなる。これを防止し何時までもブルヂョア政權の社會の存在を保つためには、どんな手段でも講じて人民の奪ひ合をせねばならぬ。こゝにブルヂョア政治家の、社會政策と、彈壓の使ひ分けが生れてくる。一方では「政府はこういふ風に人民の生活の安定のために努力してゐる」と云つて、その社會政策を見せつけ、一方では、この社會政策の本質を曝露する無產者運動に對しては壓迫を連續的にやつてのける。發賣禁止、これは言論戰鬪の壓迫であるが、無產者から發しられる曝露が彼等の痛いところにふれるからこんな不合理な事もしなければならぬ。もし、彼等の存在に少しも痛痒も感じないならばこんな事はしなくてもよい。かつて資本主義が自由主義の時代にありし頃はまた資本主義は發展の時代で無產者の言論が痛烈を極めても人民がそれを痛烈に意識しないし爲めに彼等は寛容の態度をもつて之に臨んだ。しかしながら、資本主義が行きつくところまで行きつくと、現在の樣にアラの續出で、失業者が

溢れ、生活苦がひろがつてゐるから無産者運動の主張が、ピリッと人民の心にひゞいてくる。彼等はこゝにおいて弾圧をやらねばならぬ状勢となつてくる。その他、結社の禁止、集会の解散、演説の中止、農民組合のタヽキコワシ

二

人民を弾圧する為めに、社会政策と、弾圧を両方にやらねばならぬといふ事は、すでに支配階級が社会政策的に無能力である事を示す以外の何物でもない。即ち、彼等が社会政策の実施によつて、人民の生活を安定せしめ、失業をなくして仕事に困らない様にする事が完全に出来たら、彼等はそんなにピクピクして狂犬の様に吠立てなくてもよい譯だ。人民の弾圧は極めてらくである。それが出来ないから、圧迫しておさへつけ様と騒ぎ廻る必要が生れてくる譯だ。

では、何故彼等の社会政策は効を奏しないのか。これは資本主義社会の発展の帰結である。資本主義は搾る者と、搾り取られるものとの二大階級の対立する社会である。殊にその対立が、資本主義が発展すればするだけふかくなつてくる、即ち、中産階級が没落して有産階級が少数化する、別の言葉で云へば大資本家が完全に社会を支配する様になる。例へば、現在において三井、三菱の如きものである。中産階級——小企業家、自作農が没落すればそれは無産階級に落ち込んで了ふ。一方人口はふえる一方だ。貧乏人が拡大せざるを得ない。では何故に、中産階級は没落するか。それは、資本主義社会は、大資本家ほど商品を生産するに都合がよく、従つて商品も小企業家に比して安く出来る。大工場で分業制度でやつて行けるところと、個人経営的徒弟制度の様なところは既に問題ではない。

資金の運用が充分に行かぬ、生産組織が小規模だから生産上に無駄な時間を費さねばならぬ。

そういふ譯で対立が尖鋭になる。こういふ風に年々月々拡大して行く無産階級、即ち、身體一つを資本とする人が多くなるに反比例して、科學文明が進歩すればするほど、機械が人間の役目をつとめる様になる。

このふえる一方の失業者に、貧乏人に對して資本家政府の温情政策は一々手がとゞかない。

何故手がとゞかないのか。それは、社会政策の本質が、資本家の利益を阻害しない程度にやつて行かねばならぬ法則になつてゐるからだ。この法則あればこそ、今迄歴代内閣の盛り沢山の社会政策の実施の饒舌が、結局饒舌に終つた所以であるのだ。又少し多少の成功があつたにしても、別の方面から十倍二十倍にもして取りあげてゐる。

こゝに社会政策の本質がある。しかし、我々は支配階級の為すところ盡く失敗であるからとして安心してはゐられない。彼等は欺すことに無中になつて手をかえ、品を變へて意識水準の低い、例へは、「誰某は非常に幸福な生活を送つてゐる」「何處の奥さんは大變高価な着物を買つた」と喜んでゐる様な人民達をつらうとし、

又つられて了ふからである。しかし、彼等もやがて失望して了ふに違ひない。けれども、吾々は一日も早く吾々の社會を實現する事を願つてゐる以上、こうした人々に一日も早く働きかけねばならぬのだ。

三

無産階級運動の根本的主張は「搾取階級」を無くすることである人民の生活を安定せしめるには、資本家の利益に反しないでやるといふ方法に反して、資本家の利害なんかテンデ問題にしない。搾取することは不合理の骨頂だ。人民の利益の爲めに人民自身の手によつて、この資本主義社會を、社會主義社會にまで引きあげやうとするのである。

社會政策と、社會主義運動――無産者運動の差異はこゝにある。この觀點より一切のブルヂョア政治家の社會政策は批判されなければならない。

以上によつて種明しの終つた社會政策を、無産運動攪亂の張本田中政府も見逃すものではない。

曰く、自作農創定案――これも大低種明しの終つた品物だ、それにもかゝはらず、地主にさうして儲けさせようかと今豫算編成を前にして三土と山本の兩閣員がいがみ合つてゐる。曰く、陪審法の實施――しかし、その外觀の美しさにかゝはらずその裏面にひそむ反動性は本號三輪壽壯氏の暴露的論文によつて盡きてゐる。曰く徴兵保險法の制定、――保險料金を[illegible]四、國庫二の割合、又養老年金給附が六十才にして初めて受けられる等の不合理、その他眉唾もの、救貧法、地主本位の米價政策、地租、營業收益税の地方に移讓して大穴のあいた國庫を口實に、關税引上、公債政策で又コッソリ搾りあげる政策、全く沙汰の限りである。毎年一百戸づゝ沒落する自作農を知らぬ顏の自作農創定、小作法の度外視した農村救濟策――すべてが亂調子である。

四

しかし、社會主義運動の成果は一足飛びには來ない。こゝに社會主義運動によつて導かれたブルヂョアに對する社會政策實施の徹底化の要求がある。それは、彼等に哀願するのではない。大衆の團力によつてそれを正當に要求し、支配階級の牙城に肉迫せんとする一切の試みである。この要求鬪爭を通じて、聰明なる人民に、ブルヂョアジーのなすところを暴露し、眞に民衆の爲めに戰ふものは社會主義運動以外にはあり得ない事を知らしめる。この局部的改良の要求をつらぬく深奥な社會主義的鬪爭精神、忘れたものを、吾々は現在の有識幹部の一部に見る、彼等はたゞ改良によつて滿足しやうとする。これは無産階級の解放をもたらすものではなく、支配階級の妥協をもつて滿足するものだ。

吾々はこの社會政策の美名に醉ふ前に、先づふんどしを締めてその正體を見きはめなければならぬ。（十月二十三日夜）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

歐州通信（一）

巴里のプロ展を見る

在巴里　淺野研眞

一

地下鐵道の壁に貼られてゐる廣告によつて、九月十五日から三十日まで、プロレタリア展覽會が開かれることを知つて、小春日和の一日これが見物に出かけた。

二

會場は社會黨の地盤である所の巴里市東部の第二十區である。ポアイヤル街二十三番地の消費組合會館の「ジヤンジヨーレスの間」である。

有名な社會學者オーギユスト・コムトや其他有名なフランス文學者などの墓があり、且つかの有名な巴里コムミユンの時の虐殺のモニユマンのある所の、ピエール・ラシエーズの墓地は、此の近くである。

私は小春日和の土曜日の午後、この墓地を訪ひ、その足を以つて直にプロ展の會場に向つた。

因に「巴里コムミユンの遺跡を訪ふ」なる一文は、別に纏つた形のものを書いて見たいと思つて居る。

三

何とか夫人の寄附によつて建てられたとか云ふ所の、とても立派な勞働者住宅の前を通つて、その會場に着いた。

會場なる「ジヨーレスの間」は日本式に云へば、二階にあつた。消費組合會館と云つても、巴里の建物としては、見すぼらしい方のものである。

二フランの入場料を拂つて、會場に入る。

四

會場と云つても、大きなものではない。

悄々たるものではない。僅かに一室である。それでも可なりの作品が並べられてゐる。繪畫、彫刻、工藝品など、かれこれ千に近い出品である。それらは別に印刷になつた目錄書に詳細に記されてゐる。

レーニンやマルクスの肖像畫は如何にも多い。その他の運動家の其れも多い。

「戰鬪の勞働者、團結せよ」と云ふのや、「二つの階級」「黄金の犢」「人類のコメデイー」など云ふ表題の附けられたアージ！

アレキサンドロヴイチの作品（油繪）は、最も優秀なものであつたと思ふ。（其等は特に繪ハガキにさへ印刷されてゐた）。

さても深刻なのもあるが、流石は歐洲の先進國である。撤回などと云ふことは無いらしい。

一般に表現は、どれもこれも、希望に滿ちてゐる。悲觀的にセンチメンタルなものは無いやうだ。

中には、平凡に日本ムスメを描いたのも一つ二つあつたやうではあるが、全體としては、甚だしく階級的であつたことを痛感せしめられた。

入場者も、土曜日の午後のこととて、相當にあつた。そして皆緊張してゐた。

五

「今まで餘りにも多く、ブルジヨア藝術の有閑なる影響を受けてゐる所の、勞働者たちの藝術的感情並に革命的意識を發達させること、同時に又消費組合の社會的性質を表明し、以つて其の發展を開するること。」――

これが本展覽會の目的の第一條に書かれてある所のものである。

あゝ自由、あゝフランス、藝術のフランス、近世プロレタリア運動の國フランス、運動の大[illegible]者！

私の腦は、かう叫んでゐた。會場を出づれば、初秋の太陽は、早その投ぐる光線に力がない。次いで隣りの消費組合キヤフエでは、暖かく香り高いキヤフエの一杯が極東異國の巡禮者の席に運ばれて居た。（九、廿五日）

藝術に於けるアヂ、プロの問題

―序に藏原惟人君の所論を駁す―

深谷進

（一）

プロレタリア藝術に於ける直接アヂの問題！

これは鋭くも、階級鬪爭の全面的展開の一翼を擔當して登場して來たプロレタリア藝術が、現在の瞬間に於て緊急な問題の一つとしてその解決が要求されねばならぬ。

然らばプロレタリア藝術のアヂ、プロとは何か？

それは云ふまでもなく藝術の形式が許す、「最大抵抗線」に於ける大衆的アッピールである。即ち階級鬪爭に於ける行動への藝術的働きかけである。そして吾々は此のアヂ、プロの問題を度外してプロレタリア藝術を考へることは出來ない。

然るに此の事から次の如き三つの疑問が生れるかも知れない。

一、プロレタリア藝術の大衆への直接的アヂ、プロの問題が藝術上それ程重要な位置を占めてゐるとするならば、然らばプロレタリア藝術確立の本質的な運動の問題はどうなるか？

二、更に大衆の直接的アヂ、プロの運動がプロレタリア藝術の主體となり得るか？

三、而して若し大衆の直接アヂ、プロがプロレタリア藝術の主體となり得るならばその二つの問題を如何に解決し、如何なる關係のもとに發展せしむべきか？

右に對する結論的な解答は次の如くである。

先づ第一にプロレタリア藝術のプランが、階級鬪爭の政治的なプログラムの線に添ふてその本來の役割を遂行するためにはその本質的な確立の運動が勿論必要である。

然るに第二に大衆の藝術的直接的アヂ、プロの運動はプロレタリア藝術の主體となり得る。

第三に此の二つの解答に矛盾はないか？然り―矛盾はない。

たが此處で必要な事は、此の二つの問題を稍々もするとインテリゲンツイアの小市民性の陷り勝ちな觀念的理論に引き入れないと云ふことが[illegible]とされねばならぬ

それはどんなことであるか？

それはこの二つの問題を別個に切り離して考へてはならないと云ふことである。

そして少くとも藝術に於けるマルクス主義的な唯物辯證法はそのやうな考へ方を許さないのである。

ところが此の事について最近我がプロレタリア藝術運動の輝ける機關紙「戰旗」を守るグループ内に於て此の點興味ある二つの對立とその論爭とを我々は見た。併し此の二つの論爭は未だ我々に何等の解決をも示して呉れない。のみならず、此の二つの論爭は共に、明かに一つの混亂にすら陷つてゐる。

（二）

雜誌「戰旗」八月號に於て、プロレタリア藝術の大衆への直接的アヂ、プロの問題と、それが本質的な確立運動との關係に對する、一つの見解を代表して藏原惟人は次の如く述べてゐる。

「藝術を利用しての大衆の直接的アヂ、プロの運動はプロレタリア藝術の確立と云ふことを直接の目的とはしない。」更に同じ事の具體的表現として、その機關雜誌「戰旗」の役割について彼は云ふ

「我々は今此の藝術運動の機關誌（戰旗—筆者）と大衆のアヂ、プロの機關を斷然區別しなければならない。此の事から生れて來る實践的な結論は何であるか？それは極めて簡單である。我々は我々の機關誌「戰旗」を眞に藝術運動の指導たらしむるべく努力するとともに、廣く工場・鑛山・農村に持ち込み得べき大衆的繪入雜誌の創刊に向つて凡ゆる努力をなさなければならぬ」と。

藏原の之等の言葉は明かに次の二つのことを意味してゐる。

一、プロレタリア藝術確立の運動と、大衆的アヂ、プロの運動を明確に區別してゐる事

二、そしてその確立の運動によつて大衆的アヂ、プロの運動を指導して行くこと。

此の事は同時にマルクス主義の藝術上に於ける俗化を意味するものである。

そして藏原の小市民的イデオロギーを遺憾なく暴露してゐる。

それは何故であるか？

我々がプロレタリア藝術運動と云ふ時、その藝術の確立と云ふことが對照されるのではない。

それとは反對にプロレタリア藝術の運動は、藝術の形式とその特殊性を利用して、如何にして大衆の藝術的要素を動員せしめ、如何にしてより効果ある階級鬪爭の特殊な武器たらしめるかと云ふことがその全目的であり對照とするところである。

併し此の事は決してプロレタリア藝術確立と云ふことを否定することにはならない。

それはどんなことであるか？

即ち階級鬪爭に於ける特殊の武器としてのプロレタリア文藝が、それ自體の確立を完成するためには、熾烈な階級鬪爭の大衆的直接

アヂ、プロが實踐的に展開されなければならない。

此のアヂ、プロの運動が、より急速に展開されることによつて、プロレタリア藝術の確立もまたより急速に促進されるのである。

工場、職場、農村に於ける被搾取大衆の渦巻く現實を、その生きた心臓を貫くところの闘爭の實踐の中からこそ、その藝術自體の確立の要素が生れるのである。

併しプロレタリア藝術確立への要素を、ただそれのみを吾々は具體的には抽出することは出來ない。

それはただ大衆的直接アヂ、プロの仕事を展開して行くことによつてのみ、その確立への道が指示されるであらう。

そしてその道が指示されることによつて、アヂ、プロの仕事が展開される。

此の二つの關係については更に後に稍詳しく説明したいと思ふがさもかくも此れは、決して藝術確立への運動と大衆的アヂ、プロの運動を區別するものではない。

そして此の二つのものは只一つの目的を有するのみである。

即ち階級闘爭への道！ただこれのみである。

此のただ一つの道はプロレタリア藝術運動の全活動を次の如く規定する。

一、プロレタリア藝術は、自體その藝術の確立と云ふことを目的としない。

二、併しプロレタリア藝術はただ一つの階級闘爭への道！即ち大衆的アヂ、プロの運動を最も勇敢に戰ひ取つたとき、また戰ひ取らんとするとき、その藝術の確立もまた完成し、完成せんとする。

三、從つて大衆的アヂ、プロの運動を離れて若くは別個の方法に於て、プロレタリア藝術運動と云ふことは許容されない。

四、そしてプロレタリア藝術に於けるよりよき藝術とはよりよく階級闘爭の武器たり得ると云ふことがその絶對條件とされなければならない。

以上に於てプロレタリア藝術が、大衆の直接アヂ、プロの運動とは別個に、若しくは異なれる目的を持つところの、その藝術の確立の運動があり得ると考へてゐる派閥の小市民的イデオロギーは明かに誤まれる一個の觀念的抽象理論に過ぎないと云ふことが判るであらう。

（三）

吾々は更に、然らばプロレタリア藝術が、政治的プログラムの線に添ふてその任務を遂行するためには、如何なる發展過程によつてそれが行はれるかを明かにしなければならぬ。

このことはさきにも簡單に觸れて置いたが、プロレタリア藝術確立への道と、大衆的アヂ、プロの運動との關係とその進展過程を説明することによつて自ら解決されるであらう。即ち先づプロレタリア藝術が政治的プログラムの線に添ふといふことは、プロレタリア藝術の運動が一般階級闘爭の全面的な戰鬪部隊の各部隊と協

に於て、常にその運動の特殊の形態と方法とを以てその運動を遂行しなければならぬと云ふことである。

そしてその運動過程の各瞬間、各場面を貫いて發展するところにおいてのみ、藝術上、主體と客觀との正しき認識があり、プロレタリア藝術の正確な主體が把握し得るのである。

即ち客觀的狀勢に應じて敏感にして熾烈な大衆的アヂ、プロ。此の實踐から生れるプロレタリア藝術確立への運動。此の場合大衆的アヂプロはそれ自體既に確立への運動の要素であり、從つて確立の運動は大衆的アヂ、プロによつて規定されるのである。そしてこゝに規定された確立の運動が次の瞬間には大衆的アヂ、プロの指導的役割をも演じ得る。

併し又次の瞬間には大衆的アヂ、プロの中に沒入し、大衆的アヂ、プロによつて規定される。そしてこれは只一つの大衆的アヂ、プロの實踐的姿の中に表現されるのである。

此の姿こそ藝術に於けるマルクス主義の歷史的唯物辯證法の正しき發展の姿である。そして此の正しき關係の上に立つてのみプロレタリア藝術運動確立が必要とされ、大衆的アヂ、プロが藝術運動上に於ける主體となり得るのである。此の事は同時にプロレタリア藝術理論と藝術運動理論とを混同するものではなくしてむしろこの二つを正しく認識し從つてこれが正しき地位に引戻すことである。

此處に於て所謂「藝術を利用しての大衆的アヂ、プロはプロレタリア藝術の確立といふことを目的とはしない」そして此の二つの運動を「斷然區別しなければならぬ」と云ふことは明かに一つの過誤を示すものである。そして確立の運動のみが藝術運動の指導的役割を演じ得ると考へるところに原　小市民的な惱があり、マルクス主義を俗化するところの公式主義がある。

×

重ねて云ふ。プロレタリア藝術運動は元來その藝術自體の確立を目的とするものではなくして、よりよき階級鬪爭の特殊武器たることをその本來の目的とするものである。そしてそれがよりよき武器となり得た時、又なり得る時、プロレタリア藝術もまたよりよく完成し、またよりよく完成し得るのである。

×

附記　本稿に於て更に中野重治の見解に對して多少の論及批判をなす心算であつたが約束の誌面がつきたので殘念ながらそれが出來なかつた。又他日稿を新ためることにする

一九二八、一〇、一四

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

進め社だより

大阪より

軍官學校、關西合同の結成、研究會、勞農青年同盟の準備會、職務委員會等々と忙しい。こと目の廻るようだ。奈良縣では第一回の軍官學校學生が、盛んに事務擴張の爲めに日常闘爭を展開している既に研究會等も行つたし、研究會等もどし〳〵やつてゐる。全國の同志諸君！秋だ、灯火親しむ候だなんてブルジヨアジーのドラ息子の眞似事なんてやらずに街頭に出ろ！俺達は闘爭だ！（米永）

大阪進め社が九月の廿六日に突如總檢束を食つた。全國の同志諸君からの御見舞厚く感謝します、何しろ同人は言ふに及はず、進め社に訪問した人は片つ端からちよつと來いたから隨分迷惑せられた同志諸君もあつたことだらうと思ふ。どうせ我々は敵國にすんでいるのだ、憲兵も鼻の頭もあるものか、そんなことは問ふだけ野暮だいつ引つ張られたとて、我々自身に原因の分つたためしがあつたことがない、我々が引つ張られたら無產階級解放運動をしているからなんだ、それ以外には我々を引つ張るには理由はいらないんだ、進め社には大阪を告訴して、ありもしない權利を主張する馬鹿は一人もいないから御安心下さい。同志諸君やらうぜ。（涼風）

十時間と云ふ苦役を終へて、茶になつた腕を抱へ、疲れて棒になつた足を引きずつて顏若の肌を秋の冷たい夕風に吹かれて工場からの歸りがけ、進め社に寄つたところが一寸來いと云ふ次第、御言葉に甘へて行つたところは、サーベルの臭さ、「オイ」と「コラ」との別世界、私が出て來るときに、「いつ出られるか見當もつかない」と言ひながら、別れを惜んでくれた、彼の肉とやらを負つた女拘留囚はどうしたか、私は他人とは思へない。あゝ私達は闘はねばならぬ。（はつ子）

我々の云ふところの官製の別莊から、此の間一寸迎へに來て下さつたので御厄介になつて來た。隨分可愛がつて貰つた。頰べたを撫て與れたのには恐れ入つた。御可噂にも兩方の往復と來ている。階級意識を闘ひとるには、何も苦勞して資本論や唯物史觀を讀む必要はないと思つた、一寸別莊の厄介になつて來れば、「一應」ところか、マルクス、レーニン以上に意識化することを請合た。御蔭で大きな學問をした。（作已）

東京より

天高し馬肥ゆるの秋だ。俺等が田畑には一年の勞苦の實が金色の波を限りなく漂はせる秋だ。秋は俺達の苦痛の秋だ。金色の波の稔りも一時の間に地主に取り上げられる悲痛の秋だ。

然るに都會のブル達はどうだ。日光の紅葉は、もうそろそろ見頃だとか、日比谷の菊は出來がどうだとか。やれスポーツのシーズンだのなどと騒いでゐる。

御命式に五十萬人の人を集めた東京のことだ。早慶戰の時報に事務のペンを放り出して飛んで行くのも無理からぬことである。

だが、ブルジョアのスポーツが何になる。ブルジョアのスポーツは階級戰の敵ではないか。見よ海の彼方の同志等は。このブルのスポーツに反逆して、プロのスポーツに依つてブルを壓倒しやうとして居るではないか。「ブルジョアジーは四年目にオリムピックを催

ふ。ソヴイエート共和國のプロレタリアートは今年、アムステルダム（皮肉ではないか！）のオリムピックに對抗して彼等自身のスポーツの競技會を持つた。「スパルタキアーデ」アムステルダムに出場せずにモスカウのスパルタキアーデにドイツやフインランドやメキシコからスポーツマンやスポーツウーマンが參加した。

「スポーツのためのスポーツ」は民衆に對する麻醉劑でしかないスポーツは民衆を政治に無關心にし「灰色」にするための優秀な手段である。大きなスポーツクラブの對立や鳴物入の競技會や、祭やレコード爭ひや、ジャーナリズムの作奏やは巧に階級對立の事實をおほひかくす。だが國家は更に積極的にスポーツを利用する。プロレタリアの税の上にお尻を据へたブルジョアのスポーツのレコードを國別で爭はせることに依つて愛國心を刺戟する」と云つて反對して居るではないか。我社のU君の如きも、こうした意味に於てプロレタリア、スポーツマンの雄たるものである。社の同人等の日課である早朝の體育時間には、何時も五十ポンドのアレーを連續して三十二回のレコードを作つた。嘗て君が我國最初のプロ、スポーツマンの代表としてブルジョアの息子共に悲鳴を揚げさせるのも遠きことではあるまい。時は秋だ。諸君何事にも、本當に茶飯事のことに至る迄、總ゆるブルの遣る事に反對せよ。（曙紅生）

合同問題を中心として、日勞黨内に現れた二つの傾向、總同盟大會における現實主義に對する反現實主義、日本農民黨大會の勞農提携說の擡頭の如き過度期的の現像として左右中間各黨を通じて、深き悩みをもちつゝも、鬪爭の秋の深み行くと共に活氣を呈して來た

■

進め讀者はいかに戰ふべきかも、痛切に感じられて來て、全國各地に遠くは朝鮮、臺灣の方面よりも「進め讀者の會」の組織されし事を聞くは嬉しい。我々の永い戰ひが始めて報ひられて來た事を思ふと、益々奮鬪せねばならない事を痛切に感じられる。

■

鬪爭の秋！鬪爭の秋！との掛聲はかりでなく、組織に宣傳に絶へざる努力を望む。我社も研究會に演說會に積極的に邁進してゐる。（ＢＵ生）

■

日勞黨系の大衆雜誌大衆時代の創刊を祝す、然し飽くまで永續性を大衆は祈つてゐる。二號雜誌や三號雜誌は讀者のみでなく、實にそのグループの弱さを語るもの、日勞黨をして讀者たるの感が世人に與へる勿れ。由來日勞黨系の雜誌、發刊後直に失敗する歴史多し。試みに見よ。「プロレタリヤ」あり「第一戰線」あり。努めよ。

×

進め間接讀者にして差支なくは讀者名簿係宛にハガキをもつて名を示されたい。進め研究會、進め座談會等を通知致します

銘酒 澤之鶴

問題の解説

金解禁の話

佐々木敬三

大藏省、日本銀行、東京大阪兩手形交換所（別名日本銀行團）、商工會議所、實業中央會、諸實業者、等が大童になつて金解禁問題を論じてゐる。無論これは昨今に初まつたことではなく、大正六年以來の懸案であるが、最近日本金融經濟界の最大の關心事として論議され、金解禁の時期が眼前に切迫した所に意味がある。そこで、金解禁問題はどんな由らいを持つてゐるか、解禁されたら如何なるだらうか。

金―貨幣―爲替の關係

この問題は資本主義社會の國際的流通經濟の具たる爲替から始まる。資本主義社會の血液にも比すべきものは貨幣であつて、貨幣がその職能を果してゐるのは、其の背後に金本位制が確立してゐるからである。正貨即ち金貨、乃至は金塊が充分準備されてゐて、補助貨幣や兌換券（紙幣）が何時でも兌換價値となり得るといふ作用が確保されて居なければ、資本主義社會のあらゆる關係は不圓滑になつて了ふ。そして國內的のみならず、國際的商業貨幣とも云ふべき外國爲替も、産出國の金に依存してゐる。即ち外國爲替が金價値を媒介として自國の貨幣に變形し得るからこそ流通するのだ。從つて國際間の貸借及び、貿易の收支の決濟は結局金の移轉といふ現象を生ずる。であるから、種々な國內的動搖――內亂、大飢饉、恐慌――があれば爲替は勿論變動し上下するが、充分、金價値による被媒介性のある爲替は先づ安定したものである。所が、現在對米爲替の正金銀行建値は十月十五日には四十五弗四分の三であり、且つ爲替の高下が激しい。これは日本が金の輸出を禁止してゐるからだといふ。

では爲替の高下するのが何故悪いか。一國の商業は勿論産業までが多分に投機的となり、そのため金融資本がその權威を確立するまでに幾多の犠牲を拂ひ、今後も亦拂はせられると考へるからだ。茂木・阿部幸、高田、鈴木、沒落、それ等に伴つて起つた幾度かの金融恐慌は皆にその適例である。併し此れに依つて大資本集中、金融資本の獨裁時代が生れたのだから、日本資本主義發展の要素は、資

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

本主義社會の不利益は殆ど總てそれ自體であつた譯で、今更いやとはどはかりに、投機的商業會社は泣いてゐよう。

では、金價値より幾分下る對米為替建値四十五弗四分の三が何故悪いか。日本資本主義は天與の資源に乏しいため、極度の工業國化と極度の搾取によつて他國と競爭してゐる。その産業の原料は近くは滿州、支那、南洋、遠くは印度、米國に仰いでゐる。この原料買入に際して、自他共に完全な金價値を再現し得る爲替關係があるなら百圓で買入たる原料は、日本に於ても百圓である。(運賃や保險料は便宜上省略)然るに、金價値の再現が不完全のため百圓の原料に對して百十圓の爲替を振出さねばならぬとすれば、原料に於て既に十圓のハンディキャップを附せられる事になる。其上、加工の結果百二十圓となつた商品が輸出された場合120圓 $\times \frac{100}{110} = 109.09$圓となり、十圓九十一錢の損失となる譯である。嘗て他國の原綿を輸入し使用する鐘ケ淵紡績社長武藤山治が金解禁を議會で絶叫したのは、實に這般の事情を説明して餘りがある。

金禁輸の歴史的意義

「それなのに何故、今迄金の輸出禁止令を解かなかつたか」が當然疑問になるがこの問題に入る前に「どうして金が輸出禁止になつたか」に就いて一瞥を試みる。

事は少々古くなるが、世界大戰の最中、交戰國はいづれも血眼になつて新しき販路獲得――所謂世界市場の再分割戰爭に熱中してゐる時、漁夫の利を占めたのは、米國と日本の資本主義で、米國が大成金なら日本は小成金の類であつた。戰爭に要する物資を供給する事により、若くは戰爭のため交戰國が一時的に放棄した市場をそつくり占領することにより、兩國は莫大な利得をしたが、其の結果必然的に金の流入を見た上、日本の如きは、世界金融市場としてロンドンに代つて覇權を掌握したニユー、ヨークに在外正貨として金の積立を得た。米國は前述の如く金融市場として覇權を握つて、諸外國の逃貨の避難地となり、一時は四十五億弗の正貨を有してゐた。四十五億弗と云へば世界正貨總額の半にも達する巨額である。かくて、大正六年九月七日、米國はこの流入した金によつて基礎をかためた聯邦準備銀行制度擁護のため、金の再流出をおそれて金の輸出禁止令を發布した。この聯邦準備銀行制度は、後段敍述する筈であるが、要するに金融資本獨裁の最新型である。人眞似上手の日本資本主義は、早速これに依つて、同月十二日、金輸出禁止令を出した。實に戰爭に乘じて資本主義の、「やらず、ぶつたくり」主義を遺憾なく發揮したものではある。日本の資本主義はこの機を逸せず産業組織の擴大化、再組織化に着手し成功を收めた。原内閣の放漫政策は實質的には斯かる資本主義の要求する所であつた。

金輸出禁止によつて意氣昂れる日米兩國は大正八年に至つて新しい狀態に直面した。即ち米國に在つては、金融市場の覇權が確立し國内の態勢が完成して、世界大戰終熄を迎へたのであるから、歐州諸國の復興資金供給國となつた。戰時中は政府が民間から公債を募

つて、之を友好國に貸付けてゐたが、戰ひやんでは、左樣な譯には行かぬ。國際的金自由市場として出直すことが、必要なのであり且つ有利となつてきた。米國産業の優越と、他國貨幣安とは相俟つて金輸出禁止當時同樣に金の流入を經驗した。是に於て、汎ヨーロッパ同盟が叫ばれ歐州の米國への隷從が恐しまれ、シユペングラーの「西歐の沒落」が生れたので、みな歐州ブルヂヨアジーの悲歎である。かくて戰時大成金は率先して金解禁を斷行し上乘の成績を得たが一方日本はどうであつたか。云ふまでもなく、米國とは客觀的狀勢を異にしてゐた。當時日本の正貨は、國內四億四千萬圓、海外十二億四千萬圓見當を保有し、爲替は對米五十弗の三であつたから、金解禁を斷行したからとて大切な虎の子たる金が流出する理由はないまた世界大戰も終結し戰時中の如き際どい投機は却て資本主義の危險を招來するに過ぎないから、反動的不景氣を覺悟して、産業の編成を、戰時編成から平時編成にうつすべきであつたと說く人は、日本資本主義の主要なる目標を見損じて居ると云はねばならぬ。時の大藏大臣高橋是清は明々白々に日本資本主義の意圖を語つてゐる。曰く、

「對支政策は武斷戰から經濟戰に移らねばならぬ。而して對支投資戰に優勝的地步を占めるためには、潤澤に正貨を保有せねばならぬ」

日本資本主義はその特殊性を明瞭に認識し始めた。米國は原料國であり産業國であり金融制覇の國として、黃金による世界支配の旅程に上り、日本は足下の原料國である半殖民地支那に完全な經濟的隷屬を強ひんとして黃金の槌をふりかざした。今となつて見れば、米國は成功し日本は味噌をつけた。

解禁の目的

其後列國の進出による日本の輸出減退は、やがて貿易國際貸借の決濟に使用されて來た海外正貨の減少を來し、從つて爲替安が徐々に日本産業資本を脅し出した。然るに日本資本主義の平時編成は容易に成就せず、ボロ企業とボロ銀行は、多額の內地正貨保有による通貨膨脹——物價高と空景氣を生ずる——を楯として依然存在してゐた。大正九年の恐慌後大正十一年十二年頃は金解禁が盛んに論議されたが、ボロ企業、ボロ銀行、投機的商人の一團は極力反對し遂に關東大震災に際會し、大正十三年には對米爲替三十八弗半に低落した。以前は金解禁すれば金が流出すると大事を取つてゐた連中も戰時利得による在外正貨は國際收支決濟のため徐々に消失し戰前以下の額に下つてしまひ、圓價の金貨幣價値の代表者たる資格を缺如しては、金そのものを派遣して資格證明をせねばならない。片岡前藏相は、金解禁の準備に急いだ。急いだ結果は昨春の金融恐慌となり、ボロ企業、ボロ銀行の沒落となり、實はこれ等に依存した政黨ブルヂヨア黨、民政黨內閣の瓦解を來し、大正六年來兆朕を具へ明確に目的を認識し行動し來つた金融資本は寡頭獨裁にまで到達した。そして政治から取殘されてしまつた金解禁問題があるのみとな

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

つた。

今や金融資本は、自己の統制する產業資本のために金解禁に向つて突進しつゝある。蠶絲業者を代表する中央蠶絲會の御都合や利益、會社の窮狀など耳を傾けはせぬ、況んや無產階級の生活問題に於てをや。東京銀行團の決議――十月十五日――には、金輸出のために騰落常ならず、我が產業は發展振はぬとある。更に曰く、「內地金融界並に事業界は已に著しく整理進捗し（中略）換言すれば財界は解禁の打擊に堪へ得る」これは何を意味するか。即ち金流出より國內の通貨が收縮し、在來既に巨頭金融資本獨裁の結果、資金融通の道を失つた小企業は、この爲め更に金融難に陷る。しかも小企業の多くは國內の需要を見越しての生產に從事してゐるから、通貨收縮による物價低落に對して採算不能となり、破產する。大企業も、よし金解禁の聲明と同時に爲替が三弗方はね上つたにせよ、物價低落の步調に引づられ、その生產品の價格を引下ねばならず、從つて輸出價格も從前より低落するから、輸出量の增加に拘らず利益は僅少で從つて爲替高を利用して有利に買付けた原料による生產品が市場に現れるまでは、所謂緊縮方針をとらねばならない。この物價低落による不景氣のために收入減、小企業倒產により增大する產業豫備軍、大企業に於ける資本の攻勢――人べらし、勞働時間延長、及び產業合理化による極度の搾取が勞働者農民を窒息せしめるだらう。ボロ銀行を整理した彼等は金解禁に對して遺憾なく準備を整へてゐる。その上、米國の聯邦準備銀行の制度さへも取入れ、日本銀行を日本銀行團の代表者の統制下に置き、政權との直接の結合を計らうとしてゐる。現在日銀制度改善準備委員會が設けられ、新しき金融狀勢に適應せしむべく、殊に金解禁により金保有高減少に當面して金比例準備法を採用して從前よりも僅少なる正貨準備を以てより多額なる紙幣發行の可能性を政權に結託し法律の力を借りて實現せしめ樣と努力してゐる。また、解禁による購買力――爲替高――を利用して外國市場で公債を募り、或は金利安に乘じて、國債社債を借換し直接、又は政府の手を通じて資金を作り、通貨收縮による不景氣回避を行ふ策も存在してゐる。併しこの緊縮主義は金融資本の統制を弱めるものとして極力拒否される。外債などで內地產業が息をつけば日本金融資本の魔手が完全に產業を支配し得ないのは當然であるし不自然な內地債は再びボロ銀行の倒產を何時かは實現する原因となる。だから、彼等は偶、暫ひ續ける。

「金解禁を斷行するに就いては政府は先づ財政の緊縮を圖り、公債の增發などは斷じて見合すべきは勿論、國民としてもいゝいゝ、勤儉貯蓄等大いに緊張して之に對するを要する。」

彼等は人爲政策を用ゐず、解禁後に來る難關を抜けよと叫ぶ。彼等は既に準備を完了した。無論人爲は必要でない。彼等にとつてたゞ恐るべきは米國金融資本の干渉である。高橋是清が最近東京朝日記者に語つた所によると、

「日本が金を解禁したら、外國品は買易くなるだらうが、イギリスの樣に金利も下らず物價も下らず製造工業が發達して行かなか

つたら」として遜色を濃はしてゐるが、これ日米金融資本の對立抗爭による結果を恐怖しての盲である。米國の資本輸出に抗爭するため國民の貯蓄を悉皆吸收しやがてこれを新しい奪取の機械として變形せしめ、勤儉の美辭で搾取率を大ならしめる。無產階級は今日以上に搾取され、今日以上に失業の自由を與へられたのだ。我々はもうそんな事は澤山だ。

×

金、貨幣、爲替、等の資本主義社會の流通手段を通じて見た資本主義社會の本體が何であるかは明白である。我々は金解禁に直面して、日本金融資本の成長と階級對立の尖銳化を認識すると同時に當面の具體的要求として、

一、失業救濟基金制度の確立

二、解雇絕對反對

の二のスローガンを掲げねばならぬ。失業手當は、就業時賃銀の同額を要求する。生活費の半分にも足らぬ失業救濟金で我等を欺瞞してゐるのが獨逸其の他の資本家の奸策だ。要求は同額でなければならぬ。資本の攻勢、これに對して我が陣營を防衛してゆくのは無產階級全體の任務だ。

（十月十七日）

合同運動の危機に際して聲明す

秋の鬪爭を前にして、勞農大衆の戰線統一の要求は愈々強烈となり、各勞農政黨中央部に合同方針を具體に議することゝなつたが、日勞黨中央部は一は社民との合同を主張し他は大衆黨との合同を主張し何等確たる方針を立て得ざる狀態に陷り、日勞黨に追隨、同調する無產大衆黨は、その歸する所を失ひ、社民黨は相變らずの右翼結成を頑強に固持して統一運動を妨害し、ために統一の日一日も早かれと切望する勞農大衆の要望は益々裏切られて行くばかりである。此の如きは、結局彼等が分裂主義者であり、左翼大衆を排除せんとする試みの當然失敗に終るべきを物語るものである。

又無產大衆　たてこもる勞農一派が日勞黨一部幹部との取引きに失敗して、その一枚看板の統一大方針の馬脚を露はして徒らに反動的右翼結成を助長してゐる如きは社會民主主義の批判に反對し、大衆と大衆との共同鬪爭を無視し、幹部間だけの所謂感情の融和のみに依つて合同を謀らんとする「勞農」一派の一貫的の全破綻を曝露するものである。

かくて今や日本勞農黨並に我が準備會が、とり來つた「共同鬪爭の展開のみが合同の推進力である」との方針が、如何に正しかつたかゞ、完全に確認されるに至つたのである。

現在日勞黨々員諸君は、青森、東京、島根、鳥取等到る處に於て準備會並に諸地勞農政黨の即時合同實現を熱望して居り又關西・宮城その他の地方に於て社會民衆黨員諸君は、中央部に向つて、全階級戰線の統一を要求してゐる。これこそ共同鬪爭の收獲なのである。

而して、我が準備會は、大衆のひたすらなる支持の下に、勞農政黨合同の鬪爭を通じてその力を充實し更に合同運動に向つて一大巨步を進めつゝあるのである。

茲に我等は、我準備會の戰線統一における任務の愈々重大なるを覺ゆると共に、統一の日近きにありと確信し、當面、日勞黨との合同實現のために努力し、且つ無產大衆黨、その他の諸政黨の全階級戰線統一への參加を切望するものである。

十月四日

新黨準備會本部

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

◎慴讀せよ〱本書を慴讀して幸德の眞價を知れ

◇攻撃の材料にせんと本書の慴讀を初めたる某大家も母への手紙に至るや忽ち卷を投じ一書を飛して曰く『志士の決心同志の意識我れ之を堪へたり、孝子の心情烈母の決意に至りては我れ遂に之れを讀むに堪へず』と

解放群書（8）

故幸德傳次郎著

四六制 二百頁

定價壹圓送料拾錢（半紙定價版あり）

新重版

幸德秋水書簡集

故秋水の私信祕文を集めて凡そ七十有餘通を得た。その文字の悲壯言々の肺肝に出ずるは改めて言ふを要せぬであらう。

〔一般内容〕

（一）明治三十八年巣鴨監獄より同志知友に宛てたもの……

（二）明治三十九年シアトル桑港等より故國に宛てたもの……

（三）明治四十三年より四十四年迄最後の獄中（東京監獄）から知友親戚特に母に宛てたもの……

（四）明治三十八年より四十三年間の書簡……

○夏草○小山久之助君を弔ふの記○兆民先生序……

○附錄大石誠之助遺稿……

◎幸德何者ぞ秋水何者ぞ彼れは只一個の傳次郎のみ

「解放群書」「宣傳用書」
及月刊誌「解放」發行所

解放社

東京芝區新櫻田町十九
振替東京三六九四四番

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

理想郷を造らんとして 支那革命に從ふ (四)

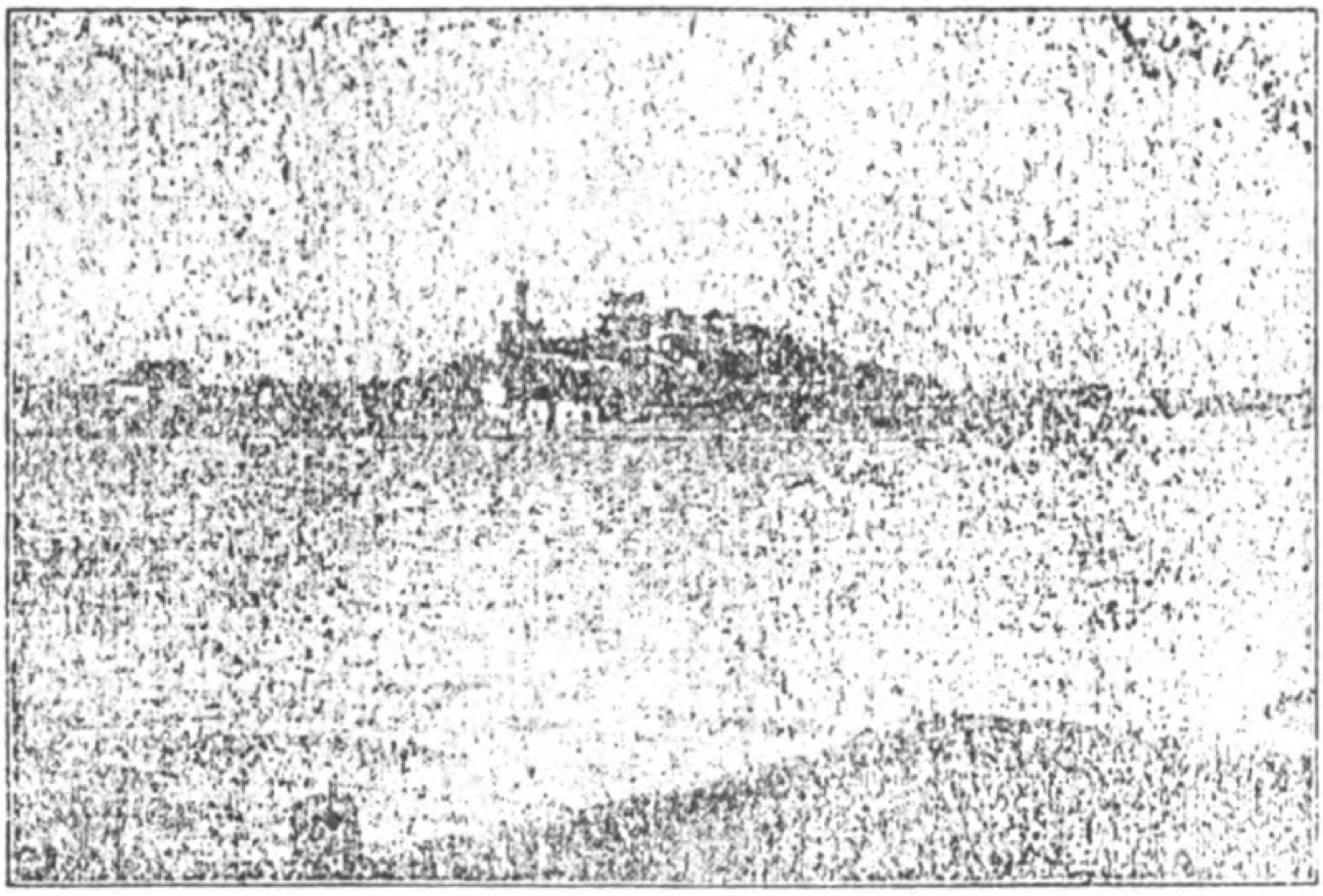
福田狂二

馬上の劉狂民

南京の旗上げ

六月三十日何海鳴君と日本人二十人と共に滬寧鐵道によつて南京に向つた。七時間許りで着いたが、夜もほのぼのと明ける頃であつた。一行は、下關、長田旅館と云ふ日本人經營の宿屋に投宿した。私は午後一時頃、何君と共に城内に這入つた。そうして、一時間許り南京の要所を見て歩いた。それから都督府に二人が這入つた。そして、都督に面會を求めたところ都督は居らず、誰か居るかと言へば、師長が居ると云ふので、それなら師長に會はふと待つて居つたが、約三十分の後、師長陳子毅が出て來た。此の人は飾もなく平凡な風采の人であつた。下級七人許りと五人の兵が銃劍付きで應接室で會つた。で私は先づ口を切つた「我々は革命黨の者だが、南京の第三次獨立をして貰ひ度い」と云つたところ、陳師長は「これ迄二回も獨立したが、何時も主將が逃げ出すので、獨立しても何にもならない、又自分は、自分の首も危ぶないから出來ない」と言つた。私と何君とは種々と說いた、私は日本人である、中國革命を援助する爲に來たものであるとて、私の日本人の名刺を出し、又「日本からは機關銃、野砲、爆彈が商船に滿載して、今青島沖あたりに來つゝある、又金も上海から來る、少くとも三千万元は來るから、獨立すれば中國革命が完成するのだ。決して躊躇する事なく獨立されよ此處で獨立されたら君は武昌に於ける第一革命當時の黎元洪だ。君の將來は洋々、偉勲赫々たるものあらんと、滔々富婁那の妙舌を振つた。陳もいくらか、うなづいた。そうすると何君と低い聲で話し出した。五分間もすると激論に及んだ。それは軍用金の事であつた

師長は今何程か出して呉れ、たとへ五萬元でも十萬元でも良いから出して呉れ、氏は疲れているから早く俸給を渡さねばならぬ。何君は私の三千萬元來ると云つた事を、三十萬元上海から來ると云つた爲めに化の皮が現れて、師長の怒號となり遂に形勢一變した。「此小僧斬罪に處せ」とて吾々は矢庭に引き立てられて、監倉にぶち込められた。そして吾々は何時引き出して死刑に處せられるも知れない事となつた。私は一時は、監倉で、悶へたが最早如何ともする事が出來ない、只自若として運命に從ふ許りだと決心した。夜、監倉では蚊帳があらう譯がない又蚊帳を呉れる筈もない、南京の蚊は猛烈に突貫して來る。せめて明日殺される此身は、今夜を最後と安らかに眠らんものと思ふたけれど、蚊軍の猛襲の爲めに眠る事が出來ない又故國にまします父母に、私が南京で銃殺されると云ふことを知らせてやり度いと思つた。又自分は二十七年の生涯を空しく此處に朽るかと悲觀もした。そうすると夜が明けて來た。朝飯を食つて監倉の壁に仮眠りしながらもたれて居ると、將校や下士が何回となく來て見る、そして將校がなれなれしく話かけて私の生國等に就いて詳しく訊ねた。それは私が日本に留學した關東人位に思つてゐるらしい。日本人だと云つてもなかなか承知してくれない。そして「愈々今日死刑が執行されるか」と聞いたら、今日は師長が出て來ないから分らないと云ふ。其の將校が立ち去ると私はせめて、あわてずに死なふと思ふて座禪を組んだ。そうして、生即死死即生と豁然として大悟した。そこには囚はれの身もない、天地萬物即是我、我是天地、我是萬物、私の心身は宇宙と一體となつた。其時の私の境地は安らかなものであつた。私が座禪を續けて居ると、私の呼吸が私の耳に這入る。私の身體は大宇宙となり、呼吸は宇宙の呼吸となる。かゝる境地は、死の巷に入りしものか、禪の深奥を究めし者ならではわからない處だ。又夜が來た。既に大悟した私は蚊軍の襲撃や、人生の執着は少しも私の睡眠を妨げない、夜の七時頃から朝の七時頃迄安らかに眠つた。



革軍の戦ひ取りし武昌

朝、眼が醒めると間もなく監倉の扉は開かれた、私は愈々死刑にさ

れると思ひ、監倉の外に出ると、下士兵卒が三四十名来て居る。そして私に敬礼する。實に不思議に思つた。監倉から一丁許り離れて居る室へ連られて行つた、私はせめて、死に直面する大丈夫の態度を示さんと悠然として濶歩した。一昨日陳師長と面会した應接室の隣りに案内された。何ぞはからんや、何海鳴君が再び起ち上つて私に握手をした。彼れ何海鳴は既に南京都督府の總大將と仰がれて居つたのだ。これは昨夜から下士兵卒が革命黨に味方して陳師長を殺した話は後で聞いたが、夜の十二時頃に陳師長の私宅に行き陳と其妻子迄も殺した。そして革命の赤旗は朝風に飄へつて居た。それで二十七歳を一期として死する筈であつた私は生き延びる事が出來た。私はかゝる不思議な運命に驚いてゐる暇はない。直に軍の組織に着手した。

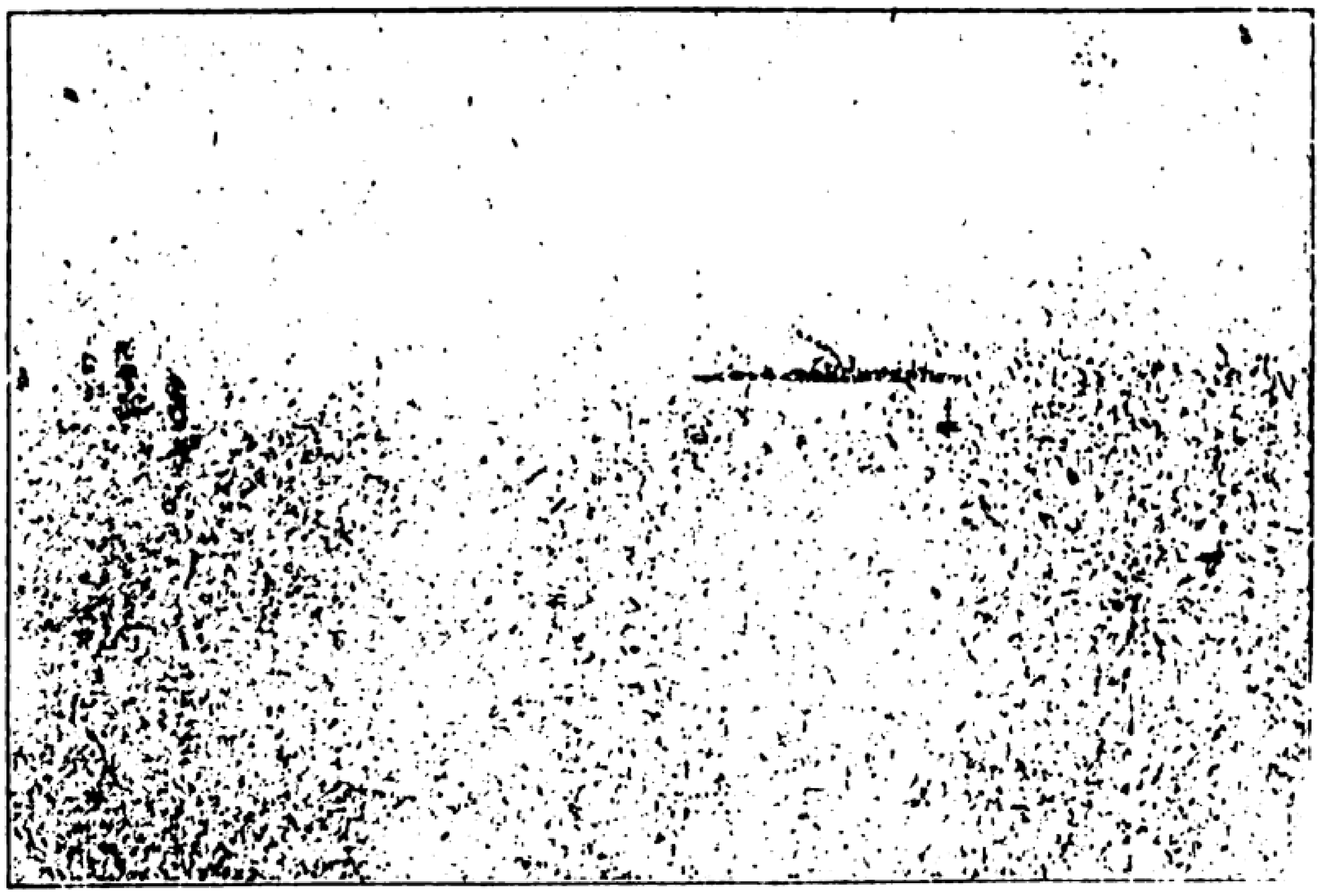
吾が總司令部の陣容

南京は三月以來黄興が旗上げをした處で黄興は支那全省に渉る革命軍の總司令である。南京に立て籠る者が當然革命軍の總司令たるべきだ。吾が何海鳴も討袁軍總司令にならなくてはならない。同君を陸軍上將(大將)に任じた、何海鳴君は軍人ではないから私に總司令になつて與としきりに言つたが、私は日本人だから支那革命の總大將になると言ふ事は避けなければならない。私は今回の南京獨立を企てたけれども私がなつては士氣に關係するだらうと思つて斷つた。私が吳淞、上海に於ける戰鬪を皆が知つてゐるから、私になれしと言つたが、私は參謀長の方が面白いと思つて、それで討袁軍參謀總長となり、陸軍中將に任ぜられた。各官皆それぞれ任命された。私共を監倉に入れて殺さうとした陳師長を殺した高佐廷と云ふ中士(軍曹)は殊勳に依り特に上校(大佐)に任官し、團長(聯隊長)に補せられた。何ぼ兵卒から一躍日本の少佐大尉(小校、上尉)に成つた人もある。或は文官で佐官階級に進んだものもある。日本人は私が大佐以下少佐位迄にしてやつた。中には全く役に立たない人もあつたが、それでも支那の軍隊は日本人の居ると云ふ事で、士氣が盛んになるから致し方なく置いた。それから日本人で、北島勇作と云ふ人は日本の三等看護長をやつておつた事があるので軍醫監にして病院長にした。其の時の討袁軍の幹部を列擧すると左の樣なものだ。

總司令陸軍上將(大將)	何海鳴
參謀總長陸軍中將	劉狂民
第一師長陸軍中將	鐘春
第八師長同	欧啓休
第十師長同	呉法輪
第十二師長同	梁孝衛
第二旅長陸軍少將	王春張
第三旅長同	何仲良
第九旅長同	江蒋
第十旅長同	黄少江
第十七旅長同	盧鼓
第十八旅長同	余東一
第二十三旅長同	波翔
第二十四旅長同	譚鉛忽
參謀副長陸軍少將	余孟有

砲兵團長上校(大佐)　陳錫彰
騎兵團長同　施金祥
内務總長　余問超

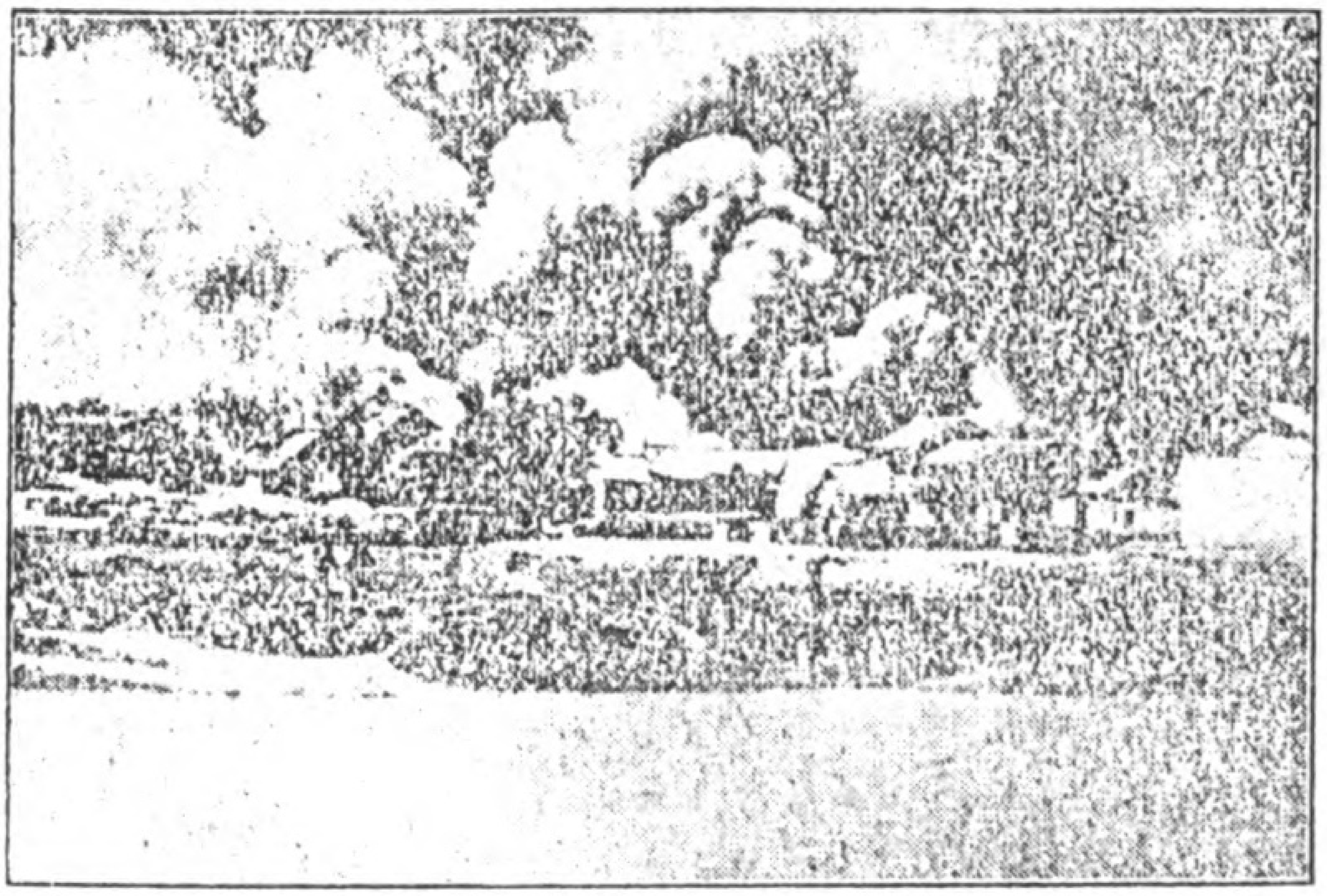
以上の外團長(聯隊長)が十六人副官等の上校(大佐)もあつた。そして歩兵二萬三千、砲兵一連(中隊)騎兵一連總計約二萬三千余、他に輜重兵の代用をなす軍夫約五百人あつた。支那の軍隊では一師と云へば日本兵の一ケ師團と同じく約一萬人居らなければならない、度々の兵亂で少くなり、補充の道もなく、又財政も許さなかつた。小銃は一萬五千余七珊加農砲六門あるのみだつた、他は無銃無劍の丸腰であつた。此の當時はこれでも武器の多い軍隊であつた。私は七月の八日閲兵式を行つた都督府の前の廣場で行つたところ、捧銃の禮や、大隊教練迄は日本の軍隊より皆よかつたのには驚いた。第八師長陳啓林君が閲兵總司令で、何上將と劉小將(私)と余參謀次長と三人で閲兵する事になつた。ところが何上將の馬が動かない、此の馬はアメリカ人の馬だつたのだ、何海鳴君は初めて馬に乗つたので馬は言ふことを聞かない。前にも言つたが何君は新聞記者で軍人ではない。騎手の敬禮でさへ私が教へた位であつた。それで馬を下りた、そして私一人で閲兵することになつた。二十七才の私は四個師團を閲兵した。雄志勃々たる私は日本の主義者、同志等に之を見せたかつた位であつた。又日本の軍隊に一泡吹かして見せんと心密かに思つた。閲兵式がすむと日本の昔の軍隊にあつた例に倣つて私は金五千元を出して兵士をねぎらつた。そして吾々は都督府で酒宴を開き我が軍の前途を祝福した。翌九日何君と團長以上を集めて「今回の革命は單に袁世凱を討つと云ふことに止まらず、中國の社會組織を根本的に變更せねばならないことにある。諸氏も御承知の通り、我が中國は内政が紊れ外國の侮りを受けて居る。これは清朝の悪政の結果で、今假に共和制を布かうとしても出來るものではない。吾々は、土地を國有とし、工場を國營でしなければならない。我が國は産業が發達しない、又地主の搾取が甚しい。農民は饑饉や不作、そして家庭の不幸や病氣になれば食ふに困る。そして善良なる農民も土匪とならなければ



吳淞砲臺より擊破したる官軍揚子江艦隊「海琛」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

なければならない。此の土匪が之迄革命にも參與したが、又革命を裏切りて居る。工場生產が盛た振るはない、將來必ずや外國の資本に依つて資本主義が我が國に生れるに違ひない。そして新しい富豪が出來るであらう。國民は資本家の搾取と外國資本家の搾取と二重搾取に苦しめられるであろう。之は先進諸國にあつたことで我が國も必ず來る。我が革命軍は單なる共和政治を目的とせず社會主義的民主國家を樹立する爲に努力しなければならない。若し吾々が此の目的を達することを得たならは、世界の壓迫されて居る人民は各々の制度を自己の國内に布くに到るであらう。そして世界の平和を確立し、人類の自由と平等は確立せられるであらう。諸君の努力によつて必ず此の事が遂行せられるのである。此の世界を一變する大使命は諸君の双肩にかゝつて居る。どうか諸君は將卒を慰撫し、このことを徹底せしめられん事を希望する。これ迄眠つて居つた中華民族は全人類を樂園に導く可く此處に門出をする、呉れ〴〵も諸君の奮闘を望むと私は言つた。團員達は皆喜びの色をあらわした。そこで吾々は、又宴を張り將來を祝福した。酒を命じて痛飲し一時頃にしてやうやく宴を終つて各寢室に這入つた。



上海機器局爭奪戰

南京城のこと

これより南京の革命戰を說かねばならないから、先づ南京城の要路を話そう。南京は、揚子江の下流江蘇省にありて、江寧府とも云つてゐる。揚子江の南で人口約五十万、後漢のときに孫權が此處に都し、以來屢々名前は變つたが、明の時代から南京と云つた。今から五十年前廣東に長髮賊と云ふものが起つた。首領洪秀全はキリスト教を奉じて天帝の子と唱へ、共產主義的內容を行する彼一流の革命を行わんとして、支那十八省の內十二省迄取た。そして此處に都を定めた。滿朝も爲に危かつた。洪秀全は此處に居る事十三年に及んだ。今から彼の事を思ひ彼を詳にすれば大本敎出口王仁三郞のような人物で目に一丁字なく理想も彼と同じたつた樣に思われる。滿朝は遂に英國のゴールドン將軍を招いて洪秀全を亡した。昨年支那學者後藤

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明太郎氏が洪秀全の生まれた廣東省香山縣に遊んだりして洪秀全の事業を思ひ、又ゴールドン將軍が清朝に味方したのを惜しむと共に新聞に書かれた事がある。私は南京の城中にあつて洪秀全のことを種々思ひ起した。南京は今回國民政府の置かれてあるところだ。恰度支那の中央にあつて、少し西にはあるが、支那全體を司どるには都合の良いところだ。日本で云へば神戸、大阪のような上海を控へて京都のある如く、京都よりも揚子江があつて便利なところである揚子江は以前にも云つたが南京の向岸浦口迄でも約二里ある。周圍十里二丈の城壁を以つて圍まれて六つの大きな門がある。その中央に都督府がある。城内の三分の二は幾度か兵亂の爲に燒かれて家はない。外人居留地は城外の江岸の下關と云ふ所にある。内外の汽船船舶が輻輳して頗る盛觀を呈し、日英佛獨米等の領事館は城内にある。名所舊蹟は頗る多い。獅子山、雞卓山、鐘山、紫金山、天保山、燕子磯、棲霞寺、鷄鳴寺、明の孝陵碑、莫愁湖、天武湖、清涼寺等、城の内外に散在して居る。旅人は常にこれに詣で、居る。一八四二年亞片戰爭のために、例の不平等條約は、此處で結ばれたのである。そして今此の不平等條約は此の南京に依つて破棄されんとじつゝある。此の地は云ふ迄もなく、政治、軍事、教育の一大要地であつて、昔から南京の大學堂があり、教育の域も盛んなる所である。國民政府が南京に首府を定めてから半年を經過しないが、將來首府としての形を備へるであらう。私共は此の地に依つて革命を起したのだ。此れから惡戰苦闘愈々佳境に入るが次號に書く。

十一月七日を迎へて　森貞次

十一月七日は、今より十一年前の一九一七年に、勞働者、農民の國が、反動の牆壁を破つてふかくふかくうち築かれた日であつた、「これは今につぶれるであろう」こう云つて世界の資本主義者は冷笑し、絶へず干渉をもつて脅威した。然るに勞働者、農民の國は微動だもしなかつた。否、益々力強くさへなりつゝある。

これは全く世界の資本主義者にとつては、目の上のコブである。なんとかして早く、ぶつつぶして了はねばならぬと考へてゐる。色々なデマゴーギが盛んに飛ぶ。××の時には父を殺し、その肉を食つたなどゝ彼等はいふ。が事實は、秩序整然と行はれてゐた。一例として各家に入つてあまたの貨物を奪取した時、或る者は、これを肩にかけ、ある者は之を首にまいて歩いてゐたが、一指導者が入つて、「それは全人民の財産である」と叫んだ時、民衆は秩序整然と室外に去つたとの事である。われわれは、支配階級の一切の機關の云ふ事を眞實なものとして受取つてはならぬ。無産階級にとつては、勞農ロシヤは正に力強い存在である。勞農ロシヤが潰れたら、「それ見ろ、」と無産運動のデマゴーギを盛んならしめるに違ひない、されば我々はロシヤを守らねばならないのだ。扨て、この意義ある十一月七日は來たが、我々は、これを單に形式的イデオロギイとお祭り氣分でさわいではならない。こんな事は何にもならない。××歌の高唱や、愉快ゴッコは自稱左翼ボーイのする事だ眞に無産階級の解放を願ふの士は、先づ沈思一考して、浮ついた無産運動の眼、力を入れる事だ。無産戰線の統一へ。

社會主義運動思出話（其五）

岡野辰之介

八、其の他の餘興

齋藤兼次郎が女房と二人で高座に上つた。亭主は尺八、女房は三味線、合奏をやつたが、兩人共七十近い老人で女房はたしか三ツ上だつたから、臆張り聲が立たず左程た振はなかつたけれども、兩人は得意滿面であつた。今や共に亡し。ア、。

岡千代彦がジヤパンダンスを踊つた。鰌掬いほどには面白くなかつた。何しろ鰌掬いは本場の出雲で育ち、小さい時から田圃の小川で實地を修練して居るのだから、全に手に入つたものである。會衆が飛び出してカツポレを踊る。一人踊ると亦飛び出す。さても盛んな會であつた。

其の翌年は常盤木倶樂部でやつた。服部が十二の佐といふ講談をやり、其の他にも色々面白い番組はあつたが、中頃民政會の壯士に擲はれ、堺利彦は入場せんとして殴打せられるし、滅茶々々になつてしまつた。

餘興が盛んな時は運動が深刻でない。餘興をやれないやうにし、やらないやうにされた時には、潜行的に實際運動が企てられるやうだ。全くこんな遊びが運動上に効果を齎らさうとは思はれないが、之れも永い戰ひの間に、士氣の頽廢を防ぐ位の効果はある。

偖、長々とつまらぬ話をした。これから少し本筋に入る。

第三齣　屋上演說事件

一、金曜會平民書房に據る

さる程に、金曜會の一黨は、金城湯地と頼みこしユニヴアサリス教會も、搦手より敵の攻撃に會ふて一溜りもなく落城し、神田三崎町に在りし吉田屋に籠城することゝなりにけり。吉田屋は一貸席に過ぎざれど、徒に席料取れば足れりとするものにあらずして、同志

の如く何くれと世話し呉れたりしかば、此處に奮戰することこそ數箇月
嗚呼されど、頼む木陰に雨漏りて、遂に此處も遷はるゝ運命に立ち至りしこそ是非なけれ。

然るに曾　週刊平民新聞が全盛時代其の發賣所長兼廣告部長として貧敗の聞こえあり、後ち獨立して本郷區弓町（椎木横丁）に平民書房となん呼べる小販賣肆を營める熊谷千代三郎は彌主と共の一家が親邊打の捨て小舟、根城も無くて漂泊するを見るに見兼ね、已が二階を共の會場にと提供したりしぞ殊勝なる。（こう書くと琵琶歌にもなりそうだ）

平民書房といふのは改正せられた壹岐殿坂の途中から眞砂町に通ずる所で、這入つて左側には榊原子爵の邸宅があり、恐い古風な門があり夫れと向ひ合つて建てられた二階立ての三軒長屋であつた。眞ん中が平民書房で、自分の二階と右側の家の二階とを打ち拔いて借りて居た。たから店は狹いが二階は廣かつた。廣いといつても八疊二間位たつたと思ふ。其處へ同志の面々はいふに及ばず、一般讀者も加はり、共の上敵方の間諜でもが多く馳參じて殆んど立錐の餘地もない盛況であつた。

夫れは明治四十一年一月十七日で、午後の六時から開會せられたのである。例によつて警部一名、速記者一名、高等三名が臨檢の前に陣取る。山川均の開會の辭に次いで守田有秋君がユートピヤの話を始めた。此の話はトーマス、ムーアのユートピアの梗概で、殆んど何回か連續したのであつた。

「ユートピヤでは金銀財寶も何んの價値もない。唯々勞働のみが神聖で貴いのである。であるから或る時アネモリア國の大使が、金色燦爛たる服裝をし、胸間に金モールの裝飾をしてやつて來るや、無邪氣なユートピアの少年達は、夫れが可笑しいとてカラ〳〵打ち笑ふのであつた」

「辯士中止―此の會は解散を命じます……」

二、茶話會を開く

富と爵を脱ぎ捨てゝ　自由の國に入るは今
正しき清き美しき　友よ手を取り立つは今
山をもい拔く大力に　天地もどよむ聲あげて
歌へや博き愛の歌　進めや直き人の道

迷信深く地に入りて　拓くに難き荊道
敵官辛く襲ふとも　敵手苦しく責むるとも
我が身は常に大道の　ソシアリズムを捧げつゝ
勵むは近き今日の梁　望むは遠き世の光

砲よ劍よいつまでも　國と國とはせめげども
我等は常に同胞の　四海友なる天の民
頼むは結ぶ手の力　かざすは高き義の心
富よ位よ地を占めて　よし今ひとり荒ぶるも
滴る汗に誠あり　打ちふる小手に命あり
行かで止まめや此の歩み　成さで止まめや此の叫び

こういふ歌を歌ひながら町界隈を數十人の若者が練り歩いてゐる平民書房から遂ひ出された連中だ。この歌は當時社會黨の黨歌とい

ふやうなもので、何れ如何なる會合でも歌はれたものだが、今から考へると低調で、文句とても微溫なものであつた。作者は某呉服店の番頭さんで（木）といふ署名でよく歌や詩を同志の機關紙に寄せた。其の後木は仲間が助けて獨立し信州の方で呉服屋さんに成つた筈だ。

此の連中は再び平民社の前に來た。戸は鎖されて潜りが開いてゐる。其れから首を出すと警部が中に手帳を擴げて待つて居る。名前を手帳につけられる。殆んど前に等しい會衆が集まつた。今度は演說會でない茶話會なのである。曾て神田で演說會を解散されたが會衆が去らない。仕方なしに茶話會を開くことにすると「一旦外へ出ればよい」といふ先例があつたのだ。

茶が出る、菓子が出る、せんべいが出る。會の費用で買つたのか熊谷が獻勞のつもりで出したのか分らない。

ツスッスー

ーカリ／＼ガリ／＼モリ／＼ー

高笑ひ、低笑ひ、ウヘヽヽヽアハツヘヽヽヽ。

三、茶話會の解散

堺利彥が起つた。パチ／＼パチ／＼。拍手の音が盛んに起る。

「米國の恐慌を研究して見ると、實に面白いものがある」ドタドタ下から誰かゞ駈け上がつて來た。警部だ。

「解散を命じます。解散して下さい」

「チェッ！」舌打ちする音が、其處此處から起る。

「こんな馬鹿た警察ッたらありやしない。僕等は何十回解散されたつて一歩も去るもんか。此儘解散しい／＼したら癖になる」

「サ、解散です、解散して下さい」

「一人一人引摺りおろし給へ。」

電燈が一時に消へる。

「解散して下さい、早く解散して下さい」

警部が上り口で哀訴して居る。一人も解散するものはない。

暗闇で落花生が飛ぶ。せんべいが舞ふ。

二三人で引き摺りおろしにかゝる。此方も二三人掛りで奪ひ返す揉み合が起つた。

先方は降口に近い方に陣取ある。味方は奥へ奥へと進む。イヤ引込む。子供のやる「子を取ろ、子取ろ」の遊びをやつてゐるやうた制服の數は多くなつた。併し何とも致し方がない。

「降りて下さい」を繰返すばかり。

落花生が追儺の晩の豆のやうに、時々パラ／＼飛んで壁に當る。

其の内誰かゞ横の方に窓があるのに氣附いて夫れを開けた。道に面した方は格子戸に成つて居たが、其の横の窓から格子戸の前の屋根に出られたのである。窓の下は御隣りの屋根だ。

外には群衆が何事ならんと片唾を飲んで待つてゐる。

警官が屋根に出た。警官隊は屋根に出たものをドウにかしようと寄つて來る。同志は窓の所を十重二十重に圍んで近寄らせない。丸で

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

戦を洗ふやうな騒ぎ。時々凶狂な女の叫び聲が聞こえる。堺眞柄子た

四、屋上演說

「吾々は社會主義者である。吾々はユニヴアサリスト教會で毎週金曜日に講演會を開いて居たのであるが、政府は我々を迫害して三崎町の吉田屋に逐ひ込んだ。然も尚ほ足れりとせず、其處をも迫害して遂に此處の平民書房樓上に小集會を開くの餘儀なきに至らしめた。然るに彼等は二十若くは三十の吾々同志を恐るゝこと數十萬の大敵の如く、此處でも今宵も吾等の上に迫害を加ふるのである。

諸君！吾々は平民の友である。労働者の味方である。吾々は貧者弱者と共に其の敵なる資本家に對して宣戰する時、何故か政府は其れ等資本家を擁護し、吾々を迫害するのである。諸君！彼の電車を見よ、是が運轉手や車掌は皆吾々と同樣な労働者ではないか。然も電車會社を所有して暴利を貪るものは株主と稱する資本家ではないか。諸君彼の電燈を見よ、金殿玉樓のみを照らす電燈は、労働者が營々として機械の運轉を助ける労力の結果ではないか。（註、當時電燈料金は頗る高價で、一般はランプのみ使用して居た）彼の瓦斯を見よ、蒸汽を見よ、總ての工業を見よ、何れも労働者の力に依つて仕事をして居るではないか。然るに労働者が其れに依つて受ける所は幾何であるか？

諸君！資本家は高枕安臥して労働者及び貧乏人の膏血を絞る。彼等は政府の手を借り法律の力に依つて労働者を××する。彼等は軍隊を有し、警察を有し、狼の如く労働者を迫害する。

あゝ諸君！政府は諸君平民の味方ではない。赤手な労働者は此の強烈な政府及び資本家に對し、どうすればよいのであるか？何等施すべき術はないだらうか？否、否、唯一つある。それは何かといふとストライキである。

諸君！ストライキは吾々の唯一の武器である。若し電車、電燈、瓦斯其の他各種の工業に從事せらるゝ諸君にして、一日ストライキをするならば、社會の恐慌、資本家の狼狽はどうであらう？

諸君！吾々は團結しなければならない。互に相扶けなくてはならない。而して一朝團結して大ストライキを決行すれば、資本家は數日にして餓死するだらう。此時になれば彼等も軍隊を動かすことは出來ない。警察を以て吾々を迫害することは出來ない。其の時代は何の時代であるか。（吾々労働者の時代だと街上から叫ぶものがあつた）其の時代は近づきつゝある。」

それから巡査諸君も吾々と同樣労働者である、テなこともいつた夫れは其通りであるが、當時官吏を以て任じたものだから、侮辱を感じたらう。労働者としては質の能くない労働者である。見れば椎木横丁には黑山の如く群衆が押し寄せて、屋上の演說に聞きとれて居る。

今日でこそ之れ位の事は少年車掌だつて知つてゐるが、其の當時は如何に耳新しく、如何に卓見と聞へたか知れない。そしてストラ

イキなさいふことはストライキ節といふので知つては居るけれども果してドンナ意味か多くは知らなかつたんだから全く隔世の感サ。

山川均が代つて雄辯を揮ふ。

大杉榮が之れに次いで屋上に飛び出してドモリの雄辯を揮ふ。

堺が再び出る。山川が再び出る。大杉が再び出る。何んでも二三回づゝ代り合つた。

堺が「モウよからう。皆んな降りやう」といふ。皆ンな降りかゝる

五、検事の手に手套

街上には澤山の私服が居る。非常召集をやつたのだ。

階段を降りると例の警部が唯一人、帽子の顋紐をかけ、手套をヘメて上をニランでゐる。上り口が狭いので澤山の巡査は這入れない降りて來るものを一人一人握手するけれども、手套をヘメてるからスルリと抜けてしまふ。又陣笠はつかまへる氣もないらしい、頻りに上ばかり見て居るので、皆んな握られた手を振り切つて、潜り戸から外に出る。

いよ〳〵堺が出て來ると之れは離さなかつた。之れを逃がしては役目の手前ドウにもならなかつたのだらう。堺の手を取つて外へ出ると其處には多くの同志が居て、之れを奪ひ返そうとする。先きは十數人で奪はれまいとする。堺の身體が八ツ裂きになりはしまいかと氣遣はれる。

×　×

「日本政府、支那政府同じある。私何もしらない、縛るイケません」

丁度雛が捕まつた時のやうな聲を出して、二人の巡査の手を振り離そうとしてる。言葉がヘンなのも道理、今は支那の革命政府で參議院議長か何かで時めいてゐる張繼だ。張は最後まで二階に籠城して、面白そうに南京豆の豆撒きをやつて居た。

夫れ！といつて二三の同志が張を巡査の手から奪ふ。

今度は張も一所に成つて他の同志の奪還にワッショイ〳〵。

張は二三日すると警視廳へ出頭して、

「ワタクシ平民新聞でアバれました。ドウか縛つて下さい」

と申出た。併し賢明なる警視廳は彼を縛らなかつた。

×　×

警部（菅谷とかいつた）は堺一人が目當であつたらしい。尤も他の連中は知らなかつたかも知れない。そこで堺一人を一生懸命押へて奪還されまいとして居た。

其處へ山川と大杉とが現はれて、

「僕等も堺と同じことをしたんだ。堺一人を引張るとは卑怯だ。僕等を縛らないんなら堺も放せ。」

と喰つてかゝつた。

「夫れは出來ない」

「出來ないなら僕等も連れて行け」

こうして山川は一所に連れて行かれたのであつた。それでも僕は

大杉はお連れを斷はれなかつた。

× ×

二十名の同志は仲間の奪返に力戰して居たが、奪ふと奪はれ、取り返すと取り返され、トウトウ數名を引つ張つて行かれた。平民社から本鄕まで、「政府は壓制である。吾々社會主義者を故なくして拘禁します。」「諸君、政府の壓制を見給へ、吾々社會主義者は何もしないのにかくの通り、拘禁します」色々なことを怒鳴りながら引かれて行く。自分が引張られて行くのか、誰か自分の知つてる者が引張られて行くのか分らない。實に從容たるものがあつた。

群衆は雲霞の如くつき從ふ。電車は止まる。店は何事かと驚いて急いで戶を閉す。（註、電車は上野廣小路から來て、三丁目の所で曲つて、松住町の方へ行く線しか出來て居なかつた）

× ×

大杉は警察の入口につゝたつて、
「諸君！」と一ツやると、
「貴樣も一所たな！」
とはかり奧へ連れて行かれてしまつた。

× ×

守田有秋は二六新聞記者の名刺を持つて岡野辰之介と連立ち署長に面會を求めた。署長は居らず、他の警部が出て會つた。
「今晚檢束せられた人々は、直に返されることと思ふが、ドウでせう」
「調べて見た上でなければ何とも御答へが出來ません。」
「モシ長く止めて置くやうでしたら、そのやうに新聞に書かなければなりませんから、御考へを聞かせて下さい」
「マア大したことはあるまいと考へますが、調べて見ませんと何とも御返事が出來兼ねます」
當時二六新聞はマダ全盛時代の餘威といふやうなものがあつたから、警察を威するに都合がよかつた。

六、同志の損失

同夜引張られた面々は左の六名であつた。

堺　利彥
山川　均
大杉　榮
阪本淸重
竹內善朔
森岡永治

そして堺、山川、大杉は三ケ月。阪本、竹內、森岡は二ケ月、治安警察法違反といふことに成つた。

これで金曜會の大將は殆んど羅致されてしまつた譯である。併し金曜會が全滅したといはれては、天下に對して申譯がないとなつて、同志演說を續けることにした。中心は守田有秋で、岡野辰之介、戶恒安藏、佐藤悟、椎橋重吉等で一座を組織し、次の金曜日に再び

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

平民倶楽部で講演會を開いた。

然し、中止！解散！ホンの五分か十分で叩き出された。然も彼等は戰法を改めて、例の窓の近くに伏兵を置いたから、屋上演説は再び出來なかつた。

どうも熊谷の野郎が不都合だ。警察とグルに成つてるんぢやないか。テな事を言ひ出したものがある。そう考へて見ると色々不審な點もあるので、何れも大いに憤慨して平民倶楽部ではやらぬことにしな

×　×

其の次ぎは神田錦町の松本亭でやつた。此處では例の更級が出張つたけれども、其の筋の方針が中止解散一點張りにキマツたものと見えて、敬愛する更級警部も何時になく、柳井警部が何かシヤベルさ「辯士中止を命じます」「解散を命じます」

かくて演説會は、闘將の出獄まで鳴りを潜めることゝなつた。

七、青柳と戸垣

×　×

青柳（警部）は二十日ばかり前に巡査から警部に成つたんだとは熊谷のいふ所であつた。そして屋上演説事件で少からず腦を痛め、心臓病となつて二ケ月にして死んだといふ。これも熊谷からの通知であつた。

×　×

戸垣と渡邊　栃木縣佐野の産で、小兵であつたが敏捷なこと夥しく、赤旗の時にも鮮かにバレて旨く逃げた。勿論屋上演説の時にもつかまらなかつた。そして平民倶楽部の第二回に堂々と無政府主義であることを宣言した。當時無政府主義といふは何の事か分らなかつたと見えて、青柳は戸垣の宣言を平氣で通過させ、守田のユートピアで中止解散を命じたのである。

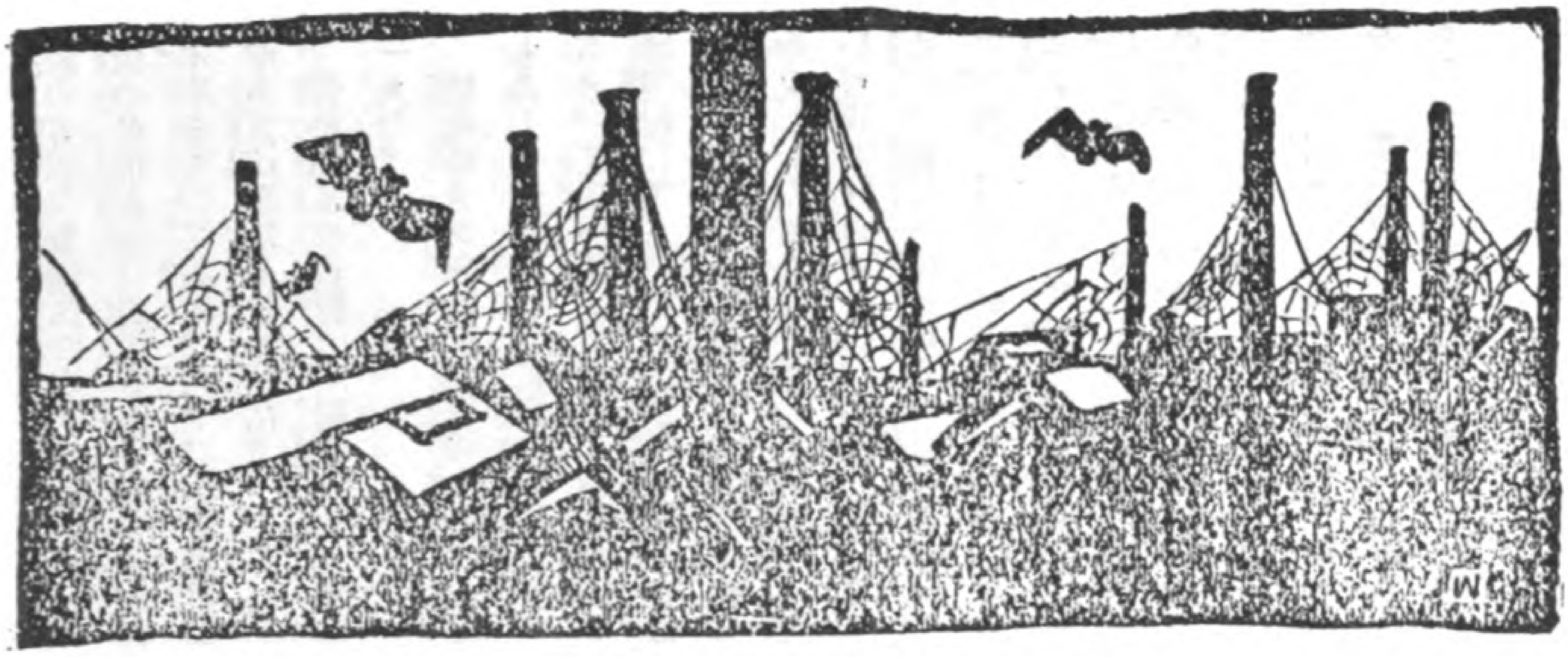
戸垣は明神下の常陸屋といふ下駄屋の職人で、下駄を作つたり入齒をしたりしてゐた。此の事件後幾何もなく獨立して、下谷御徒町は三稻から鐵道線路の方へ這入つた所で下駄屋を開業し、結婚し二三人の子供も出來たが、遂に肺病で死んだ。（未完）

「日勞大衆」創刊計畫進む。

關西に於ける日勞黨の黨員の間にあつて、計畫された日勞大衆なる戰闘的機關紙は來る一月より創刊さるゝ由である。吾人はその輝かしき姿を一日も早く見んとするものである。

發行所　大阪市東淀川區十三西の町一三一番地

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



創作

導火線となつた男

平野吉三郎

一

溝臭い大川端の、兩岸かけて、監獄の樣な冷酷な目つきをした工場が不規則に並べられてゐた。その中で、軒並の工場を威壓する樣な傲慢な態度をした、大川製鐵所の建物は一際、高く、人目を引いた。

角張つた赤煉瓦の煙突、頑丈な鐵骨の、鐵板製の煙突の間からはみ出した工場、そして夜は赫熱した溶解爐が工場全體を火事場の樣に照し出す。それは見る者に、貪慾な野獸の胃の腑を想像させた。每朝、その厳めしい鐵門をくゞつた、ナッパ服の群は、夕方、油粕の樣にクタ〳〵に消化されて、排出された。

全世界のプロレタリアが、虫けらの樣に打ち殺されることによつて生じた、大戰中の好況時代、洗鐵でしこたま儲けた社長久保田仙造は、いゝ加減のところで洗鐵に見切りをつけて、といふより、ボロ鐵溶かしの足を洗つて、鐵管工場に鞍換をしてしまつた。

初め、個人經營であつたのたが、現在では資本金壹千萬圓、株式會社大川製鐵所となり、屑金屋、久保田仙造は一躍その社長に出世した。東京市に納入された、鐵管の大部分は彼の工場で生産され、大阪分工場は關西の各都市に下水道管、水道管を供給して幅を利かせて居るのた。

たが、彼の工場が此の樣に素晴らしい發展をしたのに關らず、貪慾な、完全に資本家型の彼は十年

職工の劣惡な勞働條件を、鋼鐵の樣に頑固に保守する。從つて此の工場の勞働者達は誰でもが、此の劣惡なる勞働條件に對しては、常に不平をもつて居た。たゞ、彼等はその不平を、その不滿を、爆發させる方法を知らなかつた。

若い職工の吉野も、爆發しさうな不平をふんだんに押さへて居る一人だ。

朝七時カッキリに、下の小母さんの金切り聲で目を醒ますと、顏もろくすつぽ洗はずに大急ぎで飯をつめこむ、そして辨當を受け取ると、工場の門まで一息で驅けつけるのだ、今詰め込んだ飯が例へ逆行しても、それは工場の門限とは何等の關係もない。

彼は時々考へて見る。「俺達はまるで屠殺場へ飛び込んで行く、牛見たいなもんだ、朝の七時から、晩の五時まで、蒼黑になつて稼いで貰ふ賃銀が一圓二十錢。搾つて、搾つて、搾り拔かれた揚句が去年、老朽淘汰とかで、首になつた、政さんや松爺さんの樣に、猫の額程の目腐れ金で、放り出されるんだ、工場なんぞ屠殺場だ、資本家なんてまるで鬼の樣な奴等だ。そう言ふと、此の前、鑄物場の石田さんに見せてもらつた新聞、たしか〇〇新聞とか言つたつけ、あの新聞にも、何處かの工場主のことを吸血鬼と書いてあつたつけが全く、生血を吸ふんだ。奴等は野獸だ、野蠻だ、資本家閥だ、て遊んではかり居やがつて、俺達がへたばる位働いて出來る儲けを大きな面をして貪つて居やがら。俺ア石田さんの樣に本も讀まねえし、偉くもないから、六ツかしい理屈なんぞよくわからないけれど、働いて出來た品物は皆な働いた人間のものになるのが當り前だとは思ふんだ。働かねえ奴等になんぞ、怨つは一ツたつて、取られちやいけねえと思ふんだ」彼は斯うした考へを時々は、クレンで運轉でもする氣で奴鳴ることもある。勿論ハンマの響でクレンのうなり聲で誰にも聞へないが。

二

彼は電氣クレンの運轉手だ、だから、外の連中の樣に、カンカンハンマも振らなければ、スコップで鑄型に使ふ砂遊しもやらない、然しその仕事は決して樂な仕事ではない。

四階建の天井に鳥の樣に掛け渡された、幅二尺のクレンが彼の仕事場だ。ドロドロに溶けて太陽の樣に燃え立ち、沸ぎり立つ鐵の一ぱいに入つた大取瓶を釣り上げる、下からは現場監督が無闇に喚きたてる。

「卷け、卷くのだ」「オーライ」「北だ、北だ、」「ゴースタン」「オーライ」「もう一寸堤の方へ寄せるんだ」、「オーライ」「雨！雨！（除ろす意）」「オーライ」、一寸でも聞き違へたら大變だ、溶鐵は鑄型へ注ぎ込まれずに、地面に撒かれ、下に居る職工は大砲で打ち殺された兵士の樣な屍にしてしまふだらう。

やがて、溶鐵が注ぎ込まれる、ダイナマイトの炸裂を見る樣に火花が、四方に飛ぶ。黄色の猛々しい煙が、その後から天井の隅々まで這ひ廻り、クレンと、運轉臺に立つた彼を全く地上から隔離して

しまふ。阿硫酸瓦斯を多分にふくんだ煙は、彼を肺病患者の様に咳込ませずには置かない。ゴホン、ゴホン、瓦斯臭い咳をしながら、彼はうす暗い電燈の光の下に、ヘンドルを押すのだ。

斯うした、朝七時から夕方五時まで、正味十時間の天井生活も晝飯の四十分の休みに欠け、地上の人間になることが許されるのだ。

彼にとつて、その四十分は工場内の一番愉快な、樂しい時間なのだ、それは勿論、吸つても咳の出ない、瓦斯の臭ひのしない空氣を腹一ぱい吸へるといふこともある、又、辛い勞働であらうことを豫想して開いた辨當に、黄金色のカツレツを見出すこと、言つた様な希望を抱けるといふ理由もあるのだが、此頃になつて、一層、晝の汽笛の鳴るのをもどかしがる様になつたのは他にも理由があるのだ。

川向ひの紡績會社の汽笛は彼の工場の汽笛よりも確實に十分だけ早く鳴る。だから彼は紡績のボーが鳴ると、自分の工場のボーが鳴らなくとも、慌てゝクレンをおりる、そして汗とほこりと、煙で、まるで雨に會つた泥人形の様な顔を、すつかり洗ふと、人の目につかぬ様に、工場の東側に積み上げられた、鐵生子の山のすき間に身を屈めて、裏の原っぱへ出る。そこは相當廣い空地になつて、雑草もある草が一面に茂り、煤煙と、砂ほこりに汚辱された此附近には珍しく生物の緑の呼吸をすることが出來た。彼は、鐵材の山で、彼の工場と仕切られ前は石鹸の空箱とブリキ屑でさへ切られてゐる

彼は此の丁度眞中頃にある、赤い錆の浮いた小さい池の岸に坐つて辨當を置く、そして思ひ切大きな深呼吸をする、斯うして、彼は、彼の戀人が、その可愛い姿を現はすのを待つ。

お加代は、十九だ、親爺が印刷職工で、阿母は去年二十二になるお加代の姉を頭に十五の男の子、十と八ッと三ッの子供を殘して、死んでしまつた、姉のみさは半分馬鹿で、未だ寝小便をする、十五の弟は奉公に出したが、三人の妹弟と白痴の姉の世話をしながら、お加代は工場に通はなければならない。だから、お加代は蒼白くて干からびて居る、たゞ、瞳と唇が、彼をして女らしい美しさに仕上げる。

鐵工場と石鹸工場は此の空地をはさんで隣り合つて居る、吉野は空地で辨當を食ふのが好きだつた。温順しいお加代も仲間から離れた此の蔭で食ふ様になつて來た。二人は何方からとなく待ち合せる様になつた。それはつい一月ばかり前からだ。此の出來たての戀人達は、たつた、四十分の休みの時間中に、大急ぎで、いろ〳〵のことを話合はねばならなかつた、それは實にいろいろのことであつた。お互に辨當のお菜を見られることを氣にしながら。公休日には何處かへ二人で行きたい、といふことや、彼女の父が頑固で、その上妹弟達が多勢居るので、そのお守をするために夜はとても出られないことや、さては彼の身の上話まで、等々、いつも決り切つたことを話すのだが、いつも四十分の時間では話し切れないことばかりだ。

「お加代ちやんとこのお父つあんは俺達の結婚を許して呉れるたらうかなア」

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「さア！でも許して呉れると思ふんだけれど、」
「だつて隨分やかましい人らしいからなア」
「そうね」あいまい相に首をかしげる。
「若し許して呉れなかつたらお加代ちやんは何うするの」
「お父つあんなんぞ、許さなくたつて、私きつと、行くは、逃げてだつて」
「ほんとう、怪しいもんだからナア」
「そんなことないわ、私きつと行くわ、えゝきつとよ」
そして二人は顔をはずませて互に笑ひ合ふ。が然し、此うした話の後にはすぐ二人は憂欝な話だロマンチツクでない問題につき當るのだ。
「だけど、困つたなー」
「何うして？」
「何うしてだつて、俺は一圓二十錢なんだぜ、月に四十圓にならないんだ」
「そうね」。
一圓二十錢で世帶をもてぬことは、餘りによく判り切つて居る。然し、それだからと言つて、二人が戀して惡い理由は少しもない。
彼は此んな話が出ると必ず昂奮して會社を罵倒した。
彼奴等は俺達が人間の生活をすることさへ出來ない樣に仕樣としてるんだ、朝から晩まで、こき使ひやがつて、一圓や一圓二十錢の日給で、誤魔化そうてんだ、そのくせ、彼奴等は一週間に一遍ばかり一寸會社の安樂椅子にふんぞり返るだけで儲けた金を全部、汝の物にして了ふんだ、彼奴等はまるで俺達を食ひ物にして生きて行くんだ、丁度野良犬の背中にたかつた、だにの樣な奴等だよ。彼奴等は勞働者を搾取することなしには生活出來ないんだ」。
終ひの方の文句は彼には此頃聞いた言葉でよく判らなかつたし、氣障な樣な氣もしたが、戀人の手前も考へて、石田さんの言葉をそのまゝ融通した、此頃ちよく／＼、近所に住んで居る石田の家に遊びに出かける樣になつてから、石田達の熱心な感化は、彼にも勞働者の意識がたき込まれ、目覺めて來たのだ。
だが、お加代は、そういふ話が戀人の口から出ると、まゆをしかめた。
「だつて貴方、そりや仕方がないわ、あの人達はお金持ちですもの、私達だつてお金持になりさへすれば、そういふ生活が出來るぢやないの。」彼女にはそれは仕方のない、何うにもならない事であつた、「金持なんだから」、金持は、主人は、何んな無理をしても貧乏人はあきらめが肝心だのだ。彼も斯う言はれて見ると、返答に困つた、自分が金持になりさへすればそれでいゝ譯だ、だが、彼は何かしら、不滿がのどの下につかへて居る。
「だつて、金持なんぞ、吸血鬼ぢやないか」
彼は眞紅になつて叱鳴つた。
「貴方が、そんなことを言ふと、まるで社會主義者の樣だわ、私恐ろしくなるわ」

Digitized by Google　　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

彼女は何實に恐そうに身體をふるはせた。そうだ、社會主義は恐ろしいものだ、だが、然しそれは、誰の言ふ言葉だ。

三

二人の戀人が一圓二十錢の日給では、新世帯をもてぬことを、嘆いて居る時、工場の内でも、溶解爐や、鐵管の陰に固まつた連中が、何うやら張つた世帶が行き詰つたことを語り合ひ、そして一様に、一圓二十錢の日給に憤怒を感じて居た。

工場内の自覺分子、石田やその同志達は斯うした情勢の中に、自分達の仕事をドシドシと進めることを怠りはしなかつた。謄寫版ずりの工場新聞が、彼等の手から手へ渡された。小さな、赤い表紙のパンフレットが、職工服のポケットに、スパナと同居した。工場の風呂場が、倶樂部になり、そこでは猛烈な、アヂがなされた。そして、石田の家に、毎週火木土の三日間、研究會が開かれることが誰れからともなく傳はつた。

石田の家の集會に眞先きに出席した一人に吉野も入つて居た、彼はそこで、驚く可き、事ばかり聞かされた、それは彼が今まで植えつけられた、觀念を根本から覆へす樣な、理論であつた。然しそれは決して恐ろしいことではなく彼を今までになく、愉快にする樣な話であつた。集會のあつた翌日、彼は朗かな氣持で、お加代に、昨晩知つたばかりのことを話して聞かせた。

「ね、俺達が貧乏なのは、俺達の働きが足らないからぢやないんだよ、そして、やつぱり金持は、俺達の血を吸つてそれで、ぜいたくしてるんだよ、俺達の貧乏なのは彼奴等を蹴飛はさなけりやならないんだ。俺達か働いて金持にならうなんてことは、まるで夢見てる樣なもんさ、それよりも、俺達の上に乘つかつて、俺達の食ひ物をふん奪くつて居る、奴等を、地獄へでも放り込んでしまふのが、大切な仕事なんだ。俺ア昨夜、石田さんの家へ行つてすつかり教はつて來たんだ。石田さんの話を聞いてるさ、俺ア胸がスッとする樣なんだ。世の中のカラクリがすつかりわかるんだからな。お加代ちやんだつて、プロレタリアなんだぜ、だから一緒に力を合せて、奴等と戰はなけりやいけないんだ。」

お加代は泣き相な顔をして居た、彼女には、普段、口數の少い温順い、自分の戀人を此んなに、恐ろしい人間にする者の力が恨めしく、又不思議であつた。泣いて、そんな恐ろしいことを教へる場所へ行くのを止める樣に、頼むより仕方がなかつた。

貧乏な印刷工を父に持ち、日給五十錢の石鹸工場の女工であり、勿論、今の樣な生活でなく、もつと〳〵自分達の良い生活の出來る世の中を望んでは居た、然し、押しつぶされ、虐げられ、自分を辱る者に尾を振ることに馴らされた、ひしやけた魂は、正しく自分の姿を凝視することを妨害した。

彼女にとつて、社會主義者は、警察の手にも負えない無頼漢なのだ、そのゴロツキの仲間に自分の愛する男が入つて行くことを何うして默つて居られよう。それに、もつと彼女にとつて、耐えられな

いことは、此んなことが會社に知れ、首にでもなつたら、一圓二十錢の給料どころか、當分二人の結婚に望みがなくなるのだ。

吉野には、此のわかり切つた、なんでもない話に縋えて泣いてまで自分を止める彼女の氣持がわからなかつた。でも、泣かれて見ると、彼ももて餘した。

「いゝよ、もう行かないからね、そんな話しもしないよ、大丈夫だよ、」然し彼の樣な若い、熱情を持つた、しかも、爆發する樣な不平を抱いて居る男には、戀人の涙も、そう永い間効能は持續されないものだ、といふことは直に證明された。その後とても彼は、集會の度毎に石田の家に出掛けた。

今まで、彼の机の上に列べられて居た、宮本武藏や塚原卜傳の武勇傳、立志美談、等が影をひそめて、剩餘價値の話、だとか、無產者政治必攜、といふのが幅を利かせた。

お加代の心配が、又一つ增へた、此頃になつて、彼女は晝休みに空地に來ても、一人で辨當を食べなければならない日が、多くなつたからだ。その樣な時、吉野は、六十吋砲の中で、四、五人の、職工達にとりまかれて、最も有効な、四十分を過して居た。

四

ダイナマイトの爆發には導火線を必要とする、プロレタリアとしての自分をはつきり見出し、彼奴等に戰ひを宣する場合にも、大ていの場合、導火線とマッチが必要だ。

大川製鐵所の勞働者達は、その、苛酷な勞働條件の下に、動搖をして居た。そして、石田達の、目覺ましい活動は、工場の內部に、大きな力を潜び込ませることに成功した。然し、多くの勞働者達は、不平をつぶやきながらも、永い間に、彼等の腦髓を犯した、ケライ根性が、主人の幻影に怯え、起ち上つて、自分の頭の上に踊る惡魔共を、地上にたゝきつけるに躊躇した。

五

兩岸の石垣の見えなくなる程、潮の滿ちた、大川を、コークス船を曳いた、曳船が、ゆつたりと、下航して居た。高く紫色に澄み切つた十月の空を、赤トンボが、ツイ、ツイ飛び交つて居た。たから誰れでもが、此んな、景色のみ見て居たら、五分後に、突然若い人間の命が、最も殘忍な方法で、奪はれることなんぞ、想像も及ばないであらう。

大川製鐵所の天井で、吉野は窓から見える此の樣な景色を見ながら、相不變、ハンドルを握つて居る。

「雨た！」「オーライ」、ガチャンと、ヘンドルに力を入れると鎖が、鈍い金屬性の音を響かせて下りる。二三人の職工が寄りよつて、大取瓶の手に、鈎がきを入れる「オーライ、巻いた」、たが何うしたことか、鎖は巻き上らない、機械が、ゴウン／＼妙な音をする丈けた。

「オイ何うしたんた」手をラッパの樣にして叱鳴る。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「少し、いつもより多いんだ、今日から、中管は百本になつたんだ」

今まで、此の工場で出來る鐵管の數は大管、三十本、中管八十本、小管が百本、位だつた、それが今日から急に中管が二十本増しの、百本になつた、それに又、今までと同じ時間中に、仕上る可く會社は努力してゐたのだ。

「無理だ…二度にして呉れ」

「だつて監督の野郎、、」野郎、といふのを危く、郞丈けを引込めた、現場監督の姿が見えたからだ。

「何をぐずぐずしてゐんだ、おうい。吉野、何してゐんだ、今日から、仕事が多くなつたんだ、ぐずぐずしてりや、五時までには、切り上らねえぢやねえか、急げ、急ぐんだ」、彼は下をのぞいて居た首を縮ひて引つ込めた、仕事を増したのは汝等の勝手ぢやねえか。再びハンドルを戻す、何うやら、急き上る。

「オーライ」クレンはその老體を、おつくう相に、ガタガタさせながら、首をふりふり、動き出した、「オーライ」、林立した、型の上まで來て、止めると吉野は、自分で負つて居た荷物でも下ろしたやうに、ホツト吐息を吐いた、そして、窓の下へ行つて、風にでも當らうとして、ブレキを入れた、その時だ。グワン！とまるで、工場が破れる樣な素晴らしい音響と同時に、工場の隅々まで、眞紅に照して、溶鐵が太陽の破片かと、四方に飛び散つた、七百貫の溶鐵の入つた、大取瓶、とそれを今まで、持ち耐へて居た、クレンが凄じい勢で地上へ放り出されたので、使ひ古されて、もうろく爺の樣になつた、クレンは、その過度の負擔に堪えかねて、悲鳴を上げて地上に轉げた。

投出された、ドロドロの溶鐵は、毒蛇の樣に砂の上をのたうち、噴火口の樣にグツグツと泡立ち、にえ上つた。水蒸氣と瓦斯は、工場を暗くするまでに、覆ひ包んだ。

めいめいの仕事を放り出して、職工達は一せいに、驅けつけて來た、だが誰もが、むせ返る樣な臭氣と焼けつくやうな火の氣に、傍へ寄れなかつた。

煙が納まると、火の池を中心に寄り集まつた、朽木の樣に横はつた、クレンの殘がいが除かれると岡野と大谷といふ二人の職工が、一人は兩足を折られ、一人は大火傷を負ふて呻き廻つて居る。監督の渡邊が、砂の中で目を廻して、ひつくり返つて居る、そして、砂の上に出來た、未だ盛んに火花を散らして居る溶鐵の池を見た時、皆、均しく、顔を掩ふた。

吉野だ。吉野だ。いや實際は誰だか、不解いのだ。面も、胴もピシヤピシヤにつぶされたのに。溶鐵の中でビフテキの樣に、焦けて居る醜い屍なのだ。

醫者が來た、だが、それが何うなるのだ。監督が阿呆みたいに氣がついた丈けなのだ。

岡野と大谷の爺や阿母も喚きながら驅けつけた、哀な老人達は砂に埋まつて居た。「誰が殺したのだ、俺のせがれを誰が不具者にし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

たのだ」誰れ彼れの、區別なく、狂犬の樣に叱鳴つた。明日から、誰が、飯を稼ぐんだ。

隣りの工場では、お加代は、自分の戀人の斯うした死も知らずに包裝紙を折つて居た。そして、彼等の社長は、伊豆の溫泉宿の二階で、藝者とふざけて居た、電話で、此のことを知つた彼は、面倒臭そうに舌打ちをした丈けだつた。

六

翌日、會社は、殘留職工に八十日分の日給。死んだ吉野の遺族に日給の二百日分を支給することを發表した。

人間一人の生命が二百四十圓だ。」そう〳〵爆發する時が來た。彼等は、自分達の生命の定價表を示されたのだ。

二百四十圓の正札は、工場のもつとも臆病な勞働者をも奮ひ立たせずには置かなかつた。

檄文が公然と工場の隅にまで張り出された。

翌日の晝休みには直に從業員大會が開かれた。

十二時の汽笛が鳴ると、石田や、四五人の若い連中が、各仕事場をかけ廻つて、叱鳴つて歩いた。

「おい、仕事を止めろ。皆んな裏の空地に集まつて與れ、吉野や岡野の事で相談したいんだ。直だぜ、外の連中は皆な集まつてるんだ、仕事なんぞ何うでもいゝんだ」。彼等は自分の仕事を放り出して空地へ走つた、其處は四五日前まで、吉野とお加代が辨當を食べた、あの空地だ。

もう誰の口から何も言はれぬ先きから、彼等には今何が起きやうとして居るか知つて居た。そして人々の顏には戰鬪にのぞんだ、騎士の樣な決心の色が讀まれた。

石田が先ず、其處等に轉げて居る空箱を二ッ三ッ積み重ねて、その上に立ち上つた。五百人近い人間の昂奮した顏が、それをとり卷いた、誰からともなく、一齊に拍手で歡迎が湧いた。彼は熱した口調で、會社が吉野の死を、彼の過失として誤魔化し、僅の手當で片付け樣として居ること、そしてこの問題は決して個人の問題ではなく、やがて我々全體にもかゝつて來る問題であること。そして此の際、我々は今まで忍從して來た、あらゆる、不平と不滿を打つけて會社と徹底的に戰ひ、劣惡な勞働條件を一掃して終はなければならないことを語つた。

聞いてる中にも、皆の胸は會社に對する憤怒と、今眼前に見る、自分達の固く結ばれた姿の力強さに、燃えて居た。

二人、三人、熱狂した顏が、壇上に飛び上つた。話すことに馴れない、彼等は、たゞ無暗に手を振り廻す丈けだつた。然し、それは何んな雄辯な演說よりも力強く彼等の心臟を打つた。

「社長に談判しろ！」誰かゞ叱鳴つた。

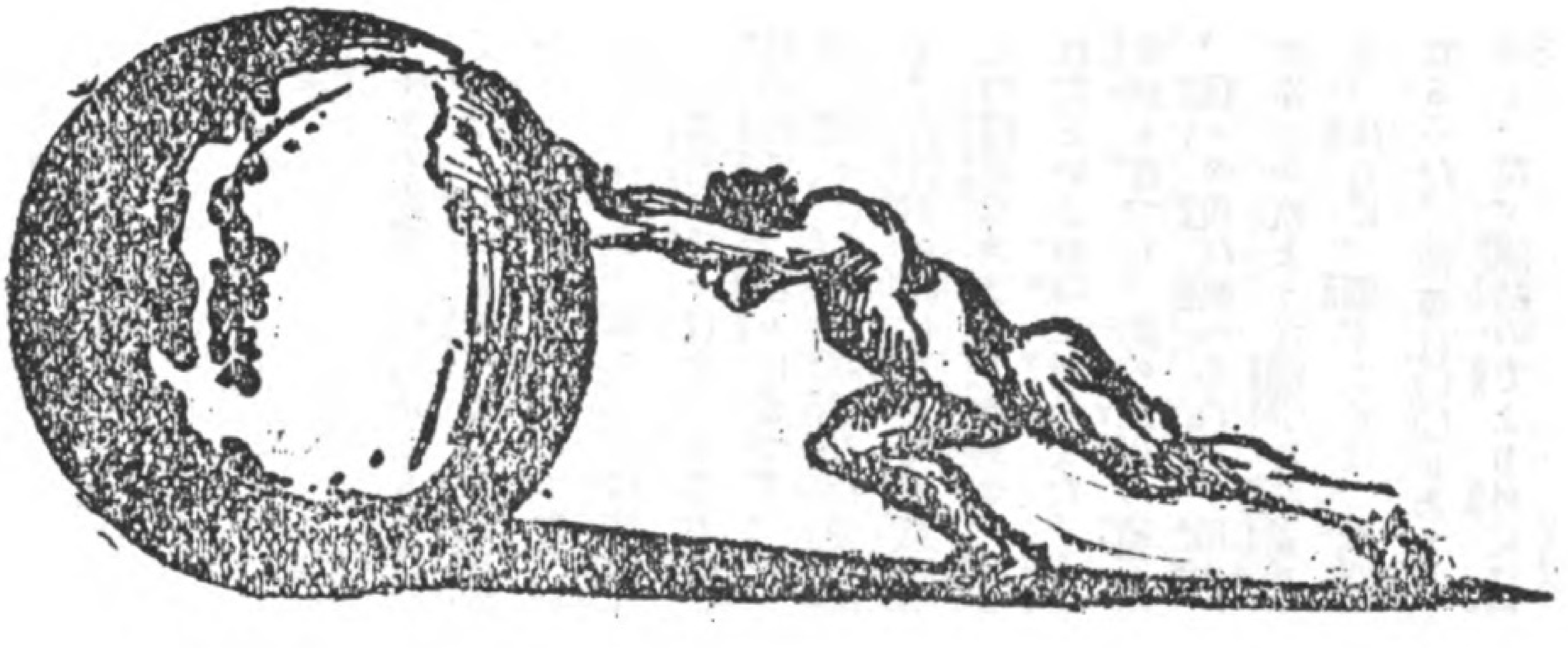
「そうだ、會社へ押しかけろ！」

「彼奴等を打ちのめすのが、吉野に對する何よりの供養だぞ！」

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

「そうだ、そうだ」
「〇〇を溶解爐の中へ、打ち込んでしまへ」
「ヘンマで〇〇を打ち殺すんだ」
彼等を此のまゝで放つて置いたら、何を仕出すか知れない。石田は再び、空函の上に立つた、聲が一しきり落ちついた。
今まで彼等の中にあるものは、危險人物の肩書付きの石田を恐れて居た、又ある者はよく理屈を言つて誰をでも閉口ます、彼に反感を持つて居たものもあつた。然し、今、彼等は一樣に、指導者としての石田を、おやぢの樣な親さと、力強さを持つた目で見上た。
「諸君、我々は今、大亊な時に相遇して居るのだ。吉野君の扶助料の問題は、我々にとつて、成る程、大切な問題だ、然し、それ以上に我々は大きな問題を持つて居るのだ、然し、それだからと言つて、吉野君の死は決して無意味ではなかつた。我々に彼奴等の仕組んだ殘忍なカラクリを見せ、我々をその大きな問題に直面させて與れたといふ意味に於いてだ。大亊な問題とは何であるか、それは、先刻も言つた、此の工場の總ての勞働條件の改廢なのだ。それこそ、我々の現在與へられた、最大の問題なのだ。此の問題の解決には彼等との執ような鬪爭を必要とする、秩序だつた、鬪爭を必要とする、徒らに、騷ぐことは、彼奴等の手に乘つて、自分を縛ることになるのだ、彼等は〇〇がある、〇〇もある、その力に對抗するものは、たゞ團結の力より外には無い、諸君はお互に、固く、固く、團結しなければならない、團結こそは彼奴等に對する、我々の最大の武器なのだ。諸君は、今後幾日かゝるか知れない此の鬪爭の期間あらゆる、會社の彈壓をはねのけて、最後まで戰ひ切らずに、戰ふ丈けの覺悟があるか」五百人の聲は一せいに叱鳴つた。「大丈夫だぞ」。石田は續けた。では、此の中から、代表者を擧げて、その人達によつて、會社への要求書を作らせ、直に會社と交渉することにする。然し、それは當然、會社で拒絶するであらう、その時こそは、我々は、工場の隅々までも、ヘンマの音一ツ響かせぬ樣にするのだ。一、拍手と、歡聲が、再び石田の足下に涌いた。その時だ、狂犬の樣に吼えながら、若い女が、石田を押しのけて空函の上に立ち上つた。お加代だ。三日も前に吉野が、死んだことを、彼女は今まで知ることが出來なかつたのだ。そして、毎日、孤りで、淋しく、壁で待つた彼女は、今日こそは、と、期待して空地に出て、始めて彼の死を知つたのだ、彼女のいろ〲な、樂しい希望、空想の幹であり、生命であつた男が、死んだのだ。秋晴れの空が、急に地獄の樣に灰色になる樣に感じた、然し、力強く叫ぶ、職工達の、叱鳴り聲は彼女に勇氣を與へた、そして皆の話を聞いて居る中に、愛する者が、如何に慘めな死に態をしたか、殺したのは誰であるか、彼女はそれを今はつきり知ることが出來たので。眠つて居た、虐げられた者の意識は、猛然と起き上つた。
「皆さん、あの人の仇を討つて下さい。彼奴等が殺したのです、彼奴等が殺したのです。」
今こそ彼女の、ふみにじられた、魂は、奴隷根性から解放されたのだ。そして、野に放たれた、兇暴な野獣の樣な怒りとなつて、かつては、自分の愛する男の口から出ることさへも、恐れて居た、〇〇〇〇の軌道を爆進する。人々は無言の中に事情を理解することが出來た。そして更に〲固い決心の色を、面に輝かして、仕亊場に雪崩れて行つた。

（一九二八、九、三〇）



戯曲

盗人とお仙　一幕二場

土佐和芳

お仙
亀松
清子
盗人
其他刑事數人

第一場

蜂巣長屋を思はせる汚い家、漆のはげた膳で盲目のお仙と九ッになる息子の亀松とが朝の食事をしてゐる、上手の障子際で三ッになる清子が寢てゐる。

お仙。（四十近くの見るからに榮養不良を思はせるやうに痩れた女、俄盲目とみへてさも不自由らしく手探りをしながら粥を食つてゐる。――やがて食ひ終つて）亀松。お粥はもうないのかへ？

亀松。（貧乏人の子に似合ぬ頬が丸々肥へて、悧巧さうな顔をしてゐる）また、あと一ぱい位あるよ

お仙。ぢや、お前おあがり、お母はもういゝから。

亀松。（十鍋の粥を茶椀に移しながら）お母、今日は又昨日の處へ行くの？

お仙。さあ、――あそこの大工は惡い奴ばかりで金を呉れないから、何處か外の普請場へ行かうと思つてるんだがね。

亀松。それぢや、過日の處へ行くかへ？大山組の普請場へ。――だけど向うは恐いね。すぐ巡査が來るんだから。

お仙。なに、巡査が来たつてかまはないよ。こつちの商賣の邪魔すりや、警察の方で擧つて貰へはいゝんたから。さうすりやこんな嫌な思ひをして働く事もいらないし、何の心配もなしに行けるんたから。——たけどお母は向うの警察署へ行くのはあまり虫が好かないんたよ。この眼がこんなに潰れたのも向うへ行つた祟りなんたからね。（思ひ出したやうに）さうたつたよ。今は何處へ行つてしまつたか居らないけれど、向ふにゐた安と云ふ大工は、それは惡い奴でね。何時行つたからつて金も寄越さないでさんざ人を弄者にしやがつて、そしておまけにこんなに眼まで潰れるやうな恐ろしい梅毒を染しやがつたんたが。ほんとにあんな忌々しい奴つてありやしなかつたよ。——しかし何たね。こんなにまで人を害した奴たから何處の果てへ行つたからつてキット罰が當るに定つてるね。

（少時の間沈黙が續く）

勘松。家も他家のやうにお父つあんがゐて呉れたらね。

お仙。その事たけは云はないでお呉れよ。お母はお父つあんの事を云はれるとほんとに殺されるやうに情無くなるんたから（少時）たけどお前がお父つあんの事を口にするのは當り前たね他家の子供のやうに學校へ行けるんた無し、夜は夜で夕刊賣にまで出てゐるんたから。——とにかくお父つあんは幸福さ。たとへ死刑にせられて死んたにせよ、今は苦しい思ひもつらい思ひも判らないんたから。何と言つても、お母のやうにこの世からぢり〱嬲り殺しにあつてる者が一番不仕合せなんたよ。

勘松。うちのお父つあんは、どうして死刑になんかなつたの？

お仙。（言葉に躊躇して）そりや人を殺したからさ。

勘松。どうして？

お仙。どうしてつてさ。

勘松。それを聞かせてよ、お母。

お仙。お母はこの事たけは誰にも言ひ度くはないのたが、お前がそれまでに言へは言つてあげるがね。それは、お父つあんが行つてた鐵工所に、同盟罷業と云つて、職工がみな一緒に仕事を休んでしまつた事があつたんたよ。

勘松。どうして？

お仙。それはね、戰爭のあつた仕事の忙しい時には、職工を牛馬のやうに夜晝なしに酷使つて、戰爭が終んで少し仕事が暇になるとやれ職工の賃金を値下けするとか、やれ人減らしをするとか云つて、職工を苦しめたからさ。たからうちのお父つあんなんかは、どうでもこのストライキに勝たねはいけないと言つて、先頭に立つて働いたもんたから、工場は一ケ月以上も戸が閉め切りになつてゐたよ。それで工場主の方もいよ〱我を折つて、もう少しでこちらの要求通りになる處たつたんたが——やはり運の惡い者は何處迄も運が惡いんたね。悪賢い、卑怯な工場主は自分の手下を澤山ストライキ組の方へ廻して、金に飢へてゐる職工達に金を掴まして裏切をさしたもんたから、みる〱うちにストライキ組は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

崩れてしまつて大きな敗をしてしまつたんだが、今考へてみてもあの時程悔しかつた事は、後にも先にもない位だつたよ。

それから、うちのお父つあんはすぐ工場の方を首にせられてしまつたので、あまりの悔しさに、その裏切者迄を煽動てた工場の事務員の奴を殺したんだが、お上はやつぱりお金持の味方さ、そのためにお父つあんはさう〳〵死刑にあげられてしまつたんだよ

龜松。それからどうなつたの？

お仙。それからお母は一生懸命に働いたさ。土方に出てまでね——だがまもなく滴子が出來るし、それが手足纏ひでどうする事も出來ないから、今のやうに知らぬおぢさんにまで身を任すやうになつたんだよ。（少間）だが、お父つあんを殺した裏切者も、いつまでもいゝ事はないとみへて、過日の大雨の日に、上澤の踏切りで飛込み自殺をした上杉と云ふ男もさうなんだが、あれらはみな自分で、自分の墓穴を掘つて入つて行くらしいね。

龜松。（食べ終つた食器を片づけて）お母それぢやもう行くかへ？

お仙。行かう。ぢや滴子を貸してお呉れ。

龜松。ねてゐる乳呑兒をソツト抱いて母親の背中へ負はす）よくねてゐるよ。

お仙。さうかへ。それぢやそつとしてお呉れ。起るとうるさいからね。——この子さへなければもう少しは思ふやうになるんだけどお父つあんも殺生だよ（子を負ひ終つて）さあ、行かう。

龜松に手を引かれて行きかける。

この時、正面の破れほうけた押入の襖が開いて見るからに人相の悪い労働者の盗者のやうな男が現れる。

男。（行かうとする彼等に）ヲイ、待つてくれ。一寸な（驚き立止る）

男。俺あ、お前さん達にチヨツト聞きてえ事があるんだ。

お仙。（割へ切つて）誰だね。お前さんは？

男。俺かね。——俺は——さうだな、盗人だ。

お仙。ゑゝ、盗人？

龜松。恐い（母親にすがる）

男。シーツ、静にして呉れ。俺はな、なにもお前さん達の物を盗らうとも、どうせうとも思つてやしないんだ。だから俺の尋ねる事を聞いて呉れ。

お仙。（少し落着いて）だが、お前さんは何時何處から入つて、一體どこにかくれてゐたんだね。

男。俺かへ、俺は昨夜からこの押入の中でねてゐたんだ。

お仙。まあ、昨夜から。

男。さうだよ。俺は昨夜××町で大きな仕事をやらかさうとしたんだが、さう〳〵ヘマを踏んで此處まで逃て來たんだ。

お仙。（やがて其處へ坐り）そしてお前さんは聞き度い事があるつて、そりや一體何の事だね。

男。それかへ、そりや何でもない事だ。——實は、俺がさつき押入の中で聞いて居れば、お前さんの死んだつれあいと云ふのはどう

やら××の鐵工所で一緒に働いてゐた青山濟吉君に話が似てゐるんだが、もしやお前さん達はその家族ぢやないのかへ？

お仙。え、、青山濟吉？それは私のつれあいだが、さう云ふお前さんは一體。——

男。俺かね。俺は青山君と一緒に工場で働いてゐた三木と云ふ野郎なんだ。だが俺だつてあのストライキで、同じやうに首切りの憂目をみた奴さ。

お仙。まあ、お前さんも？

男。さうだよ。——ぢや、やつぱりお前さん達は俺の思つた通り青山君の家族だつたんだね。

お仙。あゝ、さうよ。

男。（惨しげに子供らを見ながら）青山君もこんな可愛い子供を殘して死んで行くのは嫌だつたらう。（獨言のやうに）だがさう云ふ俺も今に青山君の二の舞をやるんだな。

お仙。（不審らしく）だけどお前さんは、何故そんな盗人なんかしてゐるんだね。？

男。（苦笑しながら）これはなんにも俺が好き好んでなつた理由ぢやない、唯これより外に仕方がなかつたからな。

お仙。何かして働いた方がいゝ事はないの？

男。働くつて、俺には働く處がないんだ。

お仙。さうして？

男。さうしてつてお前さん、あのストライキの發頭人と云や警察ではみな注意人物になつてるんだぜ。だから何處の工場へ入つたからつて、高等の名刺が一枚舞込んで來りや、もう其あくる日からは首さ。（少間）（次第に感情的に）そんな具合だから俺はもう馬鹿らしくなつて、仕事を探して歩くのも止めた。そしてウンと酒を飲んでやつたね。金がなけりや人に當りをつけてまで。——だから俺はよく喧嘩をやつたもんだ。そして腹立ち紛れにいつも相手の奴には大きな怪我をさしてやつたよ。だから俺はもう何も彼も忘れてしまつて、面白いその日分の生活に有頂天になつてゐたもんだ。だけどいゝ事はいつまでもないとみへて俺にはもうそうその面白いのんきな生活が續けられなくなつてしまつたんだ。と言ふのは、俺が酒さへ飲めば警官はすぐ檢束するやうになつたんだ。そして一月でも二月でも南京虫や、蚊のウヂヤ／＼してゐる面白くもねえ豚箱へ入れやがるんだ。だから俺だつて考へたよこりやこんな面白くもねえ處にぶち込まれて、ひもじいなりに養つて貰ふより、外へ出て何か俺にふさわしい商賣をやつた方がいゝとね。それで考へたあげく思ひついたのがこの商賣さ。（少間）だけど、何だぜ。俺がこんなになつたのも今考へてみりや、自分のせいぢやないと思ふんだ。みな惡い社會が俺をかうしたんだと思つてるんだ。何と云つても警察は罪人の製造所だからね。

（少時沈默が續く）

男。俺は、昨夜××町の紡績會社の社長の家へ入つたんだが、奴さん達の家と來ちやさても立派なもんだ。百燭の電燈の下ではでつ

かい金庫がギラ〳〵光つてあぐらをかいてやがるし、そしてそれもこれも眼につく物が値打物ばかりだ。――俺は思つたね。「ある處には使ひ切れぬ程あつて、ない處にはビタ一文もないのが金だ」とね。だが、それから其次に俺の頭の中に映つて來たものは、埃にまみれて、汗みどろになつて働いてゐる哀れな紡績女工の姿だ。俺は思はずこんな事を口走つた。「資本家の搾取の罠にかゝつて唸きもがいてゐる哀な女工よ、俺は今お前達の搾取された生産の幾分かを取返してやる」とね。そして俺は力を込めて金庫をこぢあけやうとしたんだ。だがとう〳〵家の者に見つけられて、仕方なしに外へ飛んで出ると、運惡く警官に嗅ぎつけられたので此處まで逃て來たんだ。しかし何せだ。此頃の俺としては昨夜のやうにヘマを踏んだ事はほんとにありやしないんだ。

お仙。ぢやお前さんはもうたいぶ人の物は盗つたんだね。

男。そりや盗つた。だけど資産家の金は我々貧乏人が當然貰ふ可きはづの物を、色々な方法に依つてせしめられた物なんだから、何らかまはないと思つてるよ。――何と云つても俺らのやうな盗人はまだやさしいんだ。上の奴らと來ちや、机に坐つて帳面の上から何萬圓、何十萬圓と盗んでゐやがるんだからな。

お仙。さう云や、さうだね。

男。だから俺はこの商賣はあくまでもやるつもりなんだ。それが俺としての――いや我々貧乏人が彼奴らに對する復讐かも知れないと思つてるんだ。（急に態度を變へて）時にね。こゝに金を十兩持つてゐんだが、俺はお前さん達のやうな人に使つて貰へば結構だと思つてゐんだから、どうか遠慮なしに納めて呉ないかへ（蟇口から十圓紙幣を一枚出す）

お仙。十圓？

男。なに、驚く事はないよ。取つといてお呉れ。それからお前さんも食はねば生きて行かれねえからそんなつまらない事をするのだらうが、もうそんな嫌な眞似はせぬ方がいゝね。それからこの子供もこんな小さいのに夕刊賣なんかに出す事はいらねえ。學校へやつてやるんだ。

お仙。何から何まで――だけど、こんな金を貰つて。

男。大丈夫だ。とかくこの世はくよ〳〵苦しみながら生き長らへるよりか、たとへ命は短くとも、面白く樂く暮す方がずつと生甲斐があるもんだ。だから及ばずながら俺がこれからはお前さん達の面倒を見てやるさ。（少間）俺はこの年になつてもまた誰を養はねばならんと云ふのだなし、ほんとの獨身だから、そこの處は大丈夫だよ。

お仙。ぢや、お前さんは私を救けてやらうと云ふんだね　このどん底のくらしから？

男。さうだ。とにかくこれからは樂くおかしく暮さうよ。（愉快らしく笑ふ）

お仙は處女の如き態度となりて俯向く。龜松はふしぎさうに二人の顏を見比べる。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

第二場

前と同じ。數時間經過したる夕方。お仙はカンテキの火を破れ團扇でパタパタ仰いでゐる。龜松は俎板を坐敷の眞ン中へ持出して葱を切つてゐる。盗人の男は何處へ行つたのか見へない。

お仙。龜松。早く葱を切るんだよ。

龜松。あゝ。

お仙。今晩は久し振りで御馳走が食べられるよ。——うれしいね。

龜松。（葱を切りながら）お母、あのおぢさんは何處へ行つたの？

お仙。何處へつて知らないけれどチヨツト行つて來ると云つて出て行つたんだが、すぐ戻つて來るだらう。——だけど何だよ龜松よ、これからあの人をおぢさんなんて云ふんぢやないよ。お父つあんなんだから。

龜松。お父つあん。？

お仙。さうだよ。だから何でも云ふ事をよく聞くんだよ。

と、この時盗人の男が慌しく戸外まで走つて來る。そしてやがて、平氣を粧ひ入つて來る。

男。今歸つたよ。

お仙。（扉を開くと急いでカンテキを横の方へ廻し）あゝ、お歸り遅かつたね。

男。もつと早く歸るつもりだつたんだが、チヨツト用が出來たもんだからね。

お仙。さあ、ご飯の用意も出來てるんだよ。

男。さうかへ、ぢや飯にせう。

龜松は葱の切つたのを鍋の中に入れて、それに少量の牛肉をまぜてカンテキにかける。

男。（龜松を見て）龜松はえらいね。今に孝行者だと褒められるあ。

お仙。いゝにほいがするね。私やはづかしいことだが、牛肉なんて物は長いこと食べたことがないんだからね。

男。（笑ひながら）牛肉位だつたら毎日食べられるよ。なに、牛肉だなく共、外に好きな物があればどんどん食つたらいゝんだ。

と、この時靜かな空氣を破つて合圖の笛が聞へる。

男。（キツトなつて）笛が鳴つてるな。

お仙。どうしたんだへお前さん。

男。ひよつとするとこりやヅキが廻つたかも知れないよ。

お仙。えゝ（緊張しく）どうせうお前さん。

男。なに、大丈夫だ。心配する事はねえ。

と、この時數人の刑事が表と裏から一度に入つて來る

刑事。三木貞吉、縛につけ。

刑事四方から寄つて集つて彼を壓へやうとするが彼は激しく抵抗をするので小時は激しい格闘が續く共ために電燈は消へ子供の泣聲女の悲鳴、暗黒の裡にも物凄い空氣が漲るやがてそれらの物が靜になると、一人の刑事が懐中電燈を照すので繩に縛られた彼の顔が物凄く現れる

男。さあ俺は縛られた限りお前達の物だ。どうなとしろ。

刑事。おとなしい奴だ。さあ行け。

彼は刑事に護られて悄然と歩いて行く。やがて暗黒の中から呟く如くに彼女の泣聲が聞へる

お仙。あゝ、私の夢はさう〳〵破れてしまつた。そして私は又どん底へつき落されたんだ。嫌だ、嫌だ。一體私達をどうして呉れるんだへ。

彼女の泣聲は暗黒の中にも長く續いて行く。

——幕——

一九二八、九、二十

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

編輯ノート

秋深し風巻に滿ちて肌の寒さを感づるの時、民衆の生活頓に窮乏す。然るに歡聲をあげて歌ふは誰ぞ

×

無産陣營の合同問題、愈々出でゝ愈々多岐、大衆的討議の舞臺として本誌を活用されん事を望む。日勞黨擴大中央委員會、總同盟大會、日本農民黨大會傍聽記三つ、蓋し本誌を飾るものならん。坂食良一氏は關西における總同盟の一幹部特に名を秘めて寄稿あり、辻井民之助氏は先に新勞農黨を脫して、日勞黨に加盟せられたる人、勞働運動の老將

×

十月一日より實施せられし陪審法の批判を三輪壽壯氏によつて寄稿された。陪審法の本質は遺憾なく曝露されてゐる。

×

無産階級運動に關する一切の寫眞を送つて戴きたい。雜誌を大衆的ならしめる爲めにそれは必要である。鬪士の面影、演說會、集會示威運動の寫眞等何んでもよい。同時に戰報と說明を忘れるな。

×

今月號に載せるつもりで、麻生久氏日勞黨擴大中央委員會及び大阪の軍官學校等の寫眞をいたゞいたが、都合で載せる事が出來なかつたのを甚だ遺憾に思ふ。麻生氏及び日勞黨の諸氏に厚く御詫びする。

×

岡野福田兩氏の特別讀物愈々佳境に入るの觀がある。馬上の劉狂民秋風地を掃つて馬肥ゆるの時、今昔の感に堪えざるものあらん。

×

全十戰報の投稿の少ないのを遺憾に思ふ。もし、諸君にして眞に解放運動に戰はんとするならば其處には必ず戰報があるべき筈だ。大衆の戰報なくして無産雜誌の發展はない。無産雜誌をブルヂヨア言論機關と同一視する勿れ。

×

「進め」に對する批評は遠慮なく送られたい。高級に過ぎるとの批評あれば合同問題ばかりの沈滯をならべるなとの批評あり本誌はその觀點を清算しつゝ愈々內容の充實に努力するであらう。

×

「進め」に對する各方面の批評の結果、來月號から、元の十錢にて四六倍版で發行する事に大體同人會議が決定した。こうするに至つたのは元の型がより戰鬪的であるが、又都會はそうでもないが農村では二十錢では高すぎる」讀者を多くする爲めには是非十錢にする等の讀者及び支局の要求があつたからだ。そしてもつと分り易く書く事にした。分り易く書く事はレベルが下つた譯ではない。よりレベルを上げた譯だ。何故ならむつかしい事をほんとうに分る樣にするのが無産雜誌の使命だからだ。

×

東京市會の疑獄事件のたゝりは東京市民の稅金滯納となつて表れた。民衆の不平いまや高し、しかし、無産雜誌の誌代滯納は恥辱である。遲滯なく誌代を前納せよ

十月廿三日

定價

一部　二十錢　郵稅一錢
半年　一圓二十錢　郵稅六錢
一年　二圓四十錢　郵稅十二錢

無産階級戰鬪雜誌　進め　毎月一回一日發行

◇誌代は總て前金拂込の事
◇成る可く振替で送金の事
◇郵券代用は必ず一割增の事
◇住所姓名は明かに書く事
◇支局は十日迄に拂込む事

東京市麴町區內幸町一ノ五
發行所　進め社本部
振替東京六九八五三番

發行編輯兼印刷人　神庭仲之助

大阪市東淀川區十三西ノ町一三三
大阪事務所

廣告料

一等　三百圓
二等　二百圓
三等　百五十圓
四等　百　圓

大賣捌

東京堂　東海堂　北隆館
大東館　至文堂　大盛社

喜谷實母散

金銀白金

德力商店

東京神田松田町

神電 25 216.235 / 221.976 / 450. 御客用

讀め社會民衆黨を支持する

月刊

日本民衆新聞

一部五錢 二十日發行

發行所

東京市芝區三田四國町二の六

日本民衆新聞社

電話高輪三二九〇

振替東京七〇二一

無產大衆の戰鬪的政治新聞

月刊

日本勞農新聞

讀め!! 眞の無產政治新聞を!

定價 一部五錢 一ヶ年一圓五十錢

日本勞農新聞社

東京芝公園五號地

振替東京四六六四九番

Digitized by Google

Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

農民勞働社出版取次書目

一般啓蒙

一、プロレタリアの使命（佐谷）一〇
一、無産青年に與ふ（辻井）一〇
一、社會主義大意（堺）一〇
一、無産青年運動（高橋）一五
一、青年に與ふ（レーニン）四〇
一、勞働者の明日（野口）一〇
一、失業と階級意識（林）一五
一、唯物史觀解説（河上）一〇
一、資本主義のからくり（山川）三〇
一、社會主義學説大要（堺）三〇
一、社會主義と進化論（パンネコック）一五
一、社會進化の過程（ハインドマン）一五
一、人一生の經濟學（河野）一〇
一、プロレタリア經濟學（田所）七〇
一、無産者經濟學（プレブス）八〇

勞働運動

一、勞働組合の基礎智識（松浮）一五
一、勞働運動と理論鬪爭（荒畑）一〇
一、國際組合運動の統一（ロソウスキー）三〇
一、組合の國際統一運動（荒畑）一〇
一、前衛と勞働組合（ロソウスキー）七〇
一、メーデー 一〇
一、婦人と勞働組合（野坂）一〇

農民運動

一、百姓は何故貧乏するか（行政）一〇
一、町村政の話（吉田）一〇
一、爭議調停法の話（小岩井）一〇
一、農村振興策批判（杉山）一〇
一、獨佛の農民運動（エンゲルス）二〇
一、解放戰線に於ける農民の地位 二〇
一、農民組合の理論と實際（杉山）一〇〇
一、小作爭議の實際（杉山）一〇〇
一、農民組合論（莊原）一〇〇
一、世界の農民運動（大西）一〇〇
一、農業と社會主義（平野）一〇〇
一、立入禁止と如何に戰ふか（泉）二五

政治運動、社會主義

一、無産政黨の戰術（上條）一〇〇
一、無産階級の政黨（山川）一五
一、何から初むべきか（レーニン）二〇
一、史的唯物論（ブハーリン）一〇〇
一、辨證法的唯物論大要（ブハーリン）三〇
一、史的唯物論について（エンゲルス）三〇
一、何をなす可きか（レーニン）一〇〇
一、前衛當面の任務（ロソースキー）二〇
一、日本無産階級運動批判（猪俣）一〇
一、私は此ふ考へる（山川）二〇
一、或同志への書翰（山川）一五
一、左翼小兒病（レーニン、堺）三〇
一、無産者政治必携（産勞）一〇〇
一、無産者法律必携（産勞）一〇〇
一、十一月七日（堺）二〇
一、パリーコンミエン（堺）二〇
一、ゴタ綱領批判（マルクス）二〇
一、支那革命の理論的考察 四〇
一、レーニンと消費組合 一〇
一、健康保險法のからくり 一〇
一、共産制より資本制へ（ハインドマン）二〇
一、辨證法的唯物論（堺）一〇
一、暴法と如何に戰ふか 二五
一、組織問題（レーニン）一五〇
一、資本主義の安定より危機へ（スターリン）一〇〇

その他

一、マルクス傳 二〇
一、レーニン（ロソースキー）三〇
一、レーニンの生涯と學説（ジノビエフ）一〇〇
一、婦人問題の本質（堺）一〇
一、新ロシアの婦人（近藤）一〇
一、勞働辭典（勞研）五〇
一、社會運動辭典（田所）二〇〇
一、ロザの手紙（堺）一〇
一、社會講談數種 各一〇
一、勞働讀本（山名）一〇〇

右書籍は單に十月十五日現在の在庫品の一部に過ぎない。本社取次部はいやしくも無産者運動に關するものであつたら、如何なる大部の書籍でもパンフレットでも新刊舊刊を問はず取次する。注文者は但し、明瞭に發行所著者定價を記して申込みありたい。送料はパンフレットを除き一圓まで五錢、一圓を増す毎に五錢宛注文者側で負擔のこと。

◆注文は振替にて前金のこと
◆送料は本書目記載のものに限り不要

東京・芝・二本榎西町二
振替東京七六二七〇番

農民勞働社

尾崎行雄先生序

新使命主筆 高野清八郎著

無産階級の新政策

痛切なる現代の要求を滿たす空前の大快著

次の内容を見よ。。。。。。

◇悲惨なる生活難と亡國を救ふ政策
◇富豪を保護し貧民虐めの我財政
◇貧窮は貧民の納める我國の直接税
◇何億の大會社も廿萬圓は納税せぬ
◇奇怪なる貧民と富豪の納税額
◇國民の階級別と財産所有の割合
◇富豪財閥が國家から取り返す金額
◇貧民の膏血を絞つて富豪に補助
◇國民生活を安定せしむる根本策
◇無産者の强唱すべき消費税全廢
◇日常必需品を暴騰せしめる關税
◇關税は全く財閥に暴利獲得策
◇勞働者の爲めに朝飯無税政策を
◇財閥保護の爲めに浪費する我國運
◇國家の金を情實の爲めに濫費してゐる
本貨

◇二重の不利を防ぎ官營斷行の必要
◇財政改革の根本原則
◇租税の新學理
◇貧民と富豪の納税割合の學理
◇英國の廿分の一しか納税せぬ
◇日英兩國の所得税額
◇アイドルクラス（遊食階級）打破政策
◇日英兩國の相續税比較
◇財政大整理の必要
◇國費を半額に減じた米國
◇英國財政の大整理
◇非常なる英斷を行ふ英國と我國政
◇國費を半減し社會政策を行ふ
◇財政を半減したムッソリーニ氏
◇世界の趨勢に逆行した我國政

◇我國財政の膨脹する趨勢
◇國民負擔の激減する實況
◇國債の益々増大する趨勢
◇借金で亡滅する國を救ふ政策
◇フィリップスノーデン氏の新學説
◇悲惨なる我國民生活の現狀
◇生活難の爲めに自殺する人數
◇不良少年も貧困が原因
◇社會政策實行の急務
◇寡婦孤兒等の救濟策
◇遊食者に與ふる恩給を大整理
◇十五億の新財源を得る政策
◇無産階級最大の使命

附錄
普選法全文、同選擧區別表

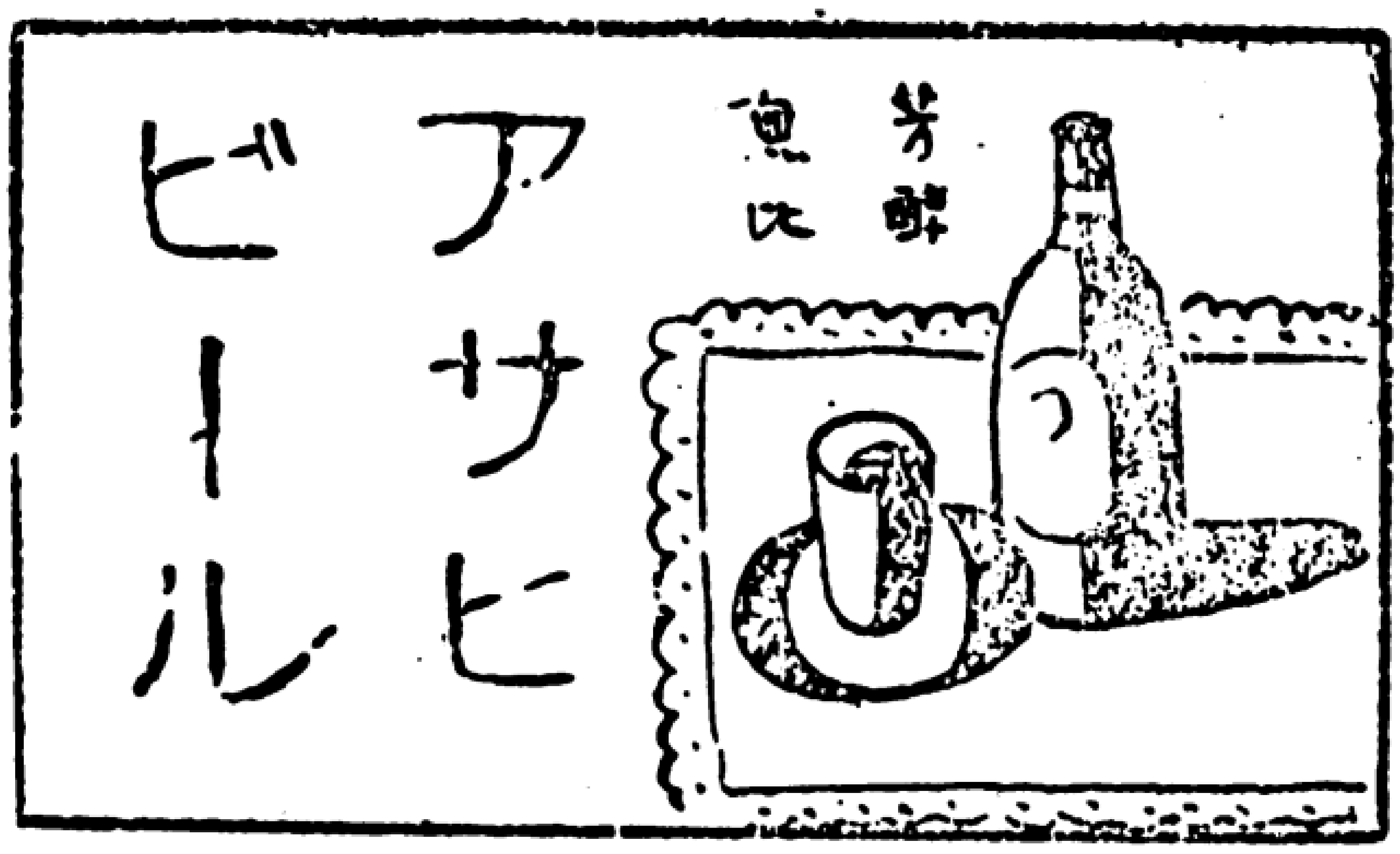
定價金五拾錢 送料金四錢

◇理論闘爭に沒頭せる、現代の學者、思想家を冷罵して深刻なる「生活不安」を救ふ、實際政治上に於ける政策の最高權威

◇◇！各書店は全部賣切れの所、愈々八版發行、驚く可き大賣れ行き！

發賣 東京神田通神保町 電話神田三五五八番 上田屋 （丸ビル内、富山房書店にあり） 大阪 盛文館

發行 東京市麴町區内山下町一ノ一 振替東京六九〇六九番 電話銀座(長)三七九三番 新使命社



蝙蝠印

揮發油

日本石油株式會社

日本勞農黨國際部長 上條愛一著

最新刊

無産黨の戰術

定價壹圓 送料無料

普選によつて八名の黨員を議會に送つた新興無産政黨は更に急角度を畫いて既成政黨の牙城に肉迫せんとして居る。

今や好むと好まざるとに拘らず、國民は無産黨の内容を徹底的に知らねばならぬ秋に直面して居る。

見よ!! 彼等の鬪爭の跡と、而して彼等の戰術とを。

——内容——

無産黨小史 △明治時代の無産黨運動△普選運動と議會の否認△農民勞働黨の誕生。

對立無産黨の出現 △無産階級陣營内の對立鬪爭△宗派分裂主義とは何ぞ△勞働農民黨の結成と分裂△日農、社民、日勞各政黨の結成

無産政黨の内容 △各黨宣言△各黨の綱領△各黨の政策△各黨の幹部△支持團體及勢力。

府縣會選擧に於ける無産政黨の戰術 △選擧戰に對する各黨の戰備△各黨の選擧政策△府縣會選擧の戰績。

總選擧戰に於ける無産黨の奮鬪 △總選擧戰に對する無産黨の陣容△各黨總選擧政策△各黨總選擧協定△總選擧の戰績△總選擧戰績の批判。

日常鬪爭と其の戰術 △日常鬪爭の意義△勞農黨の日常鬪爭△大衆の戰術△日農、社民、日勞の日常鬪爭△現實派の戰術

戰死せる勞働農民黨 △第二次日本共産黨の檢擧△第二次日本共産黨とは何ぞ△勞働農民黨の解散。

第五十五議會に於ける初陣の無産黨 △議會内に於ける活動△院外に於ける民衆運動。

無産黨の將來 △無産黨の合同問題。無産黨の右翼問題△日本無産黨は何處へ行く？

東京麴町内幸町一の六

第一出版社

振替東京六八〇九〇番

Su-su-me- The Socialism Monthly. Vol. 6 No. 11
Head office; 1. Uchisaiwaicho, Kojimachi, Tokyo, Japan. Nov. 1928

大正十二年一月三十日第三種郵便物認可（毎月一回一日發行）
昭和三年十一月一日發行 昭和三年十月二十八日印刷納本

第六年・第十一號 定價二拾錢

金言 平和は友誼の父なり（西諺）

小粒仁丹
◉高貴薬サフランを倍加して特製す
大粒仁丹は茲に改正し常備護身剤として益々愛用せらる

○歯の為に一番よい
仁丹のハミガキ

日・英・米・佛 專賣品
仁丹歯ブラシ